

Symantec NetBackup™ リリースノート

リリース 7.7

マニュアルバージョン 1

マニュアルバージョン: 7.7

法的通知と登録商標

Copyright © 2015 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴは、Symantec Corporation またはその関連会社の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のままで提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	NetBackup 7.7 について	15
	NetBackup 7.7 のリリースについて	15
	NetBackup の最新情報について	16
	NetBackup サードパーティの法的通知について	16
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	17
	NetBackup の新しい拡張と変更について	17
	NetBackup 7.7 の新機能と強化された機能	17
	一般的なサポート拡張	18
	ユーザーインターフェースの拡張	20
	ログ記録の拡張	25
	NetBackup のセキュリティと暗号化	26
	NetBackup for NDMP	27
	NetBackup for Replication Director	27
	NetBackup 検索	28
	NetBackup for SQL Server	28
	NetBackup の仮想化	29
	NetBackup 言語パック	30
第 3 章	操作上の注意事項	34
	NetBackup 7.7 の操作上の注意事項について	35
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	35
	Appliance 2.7.1 パッチがリリースされるまで NetBackup 7.7 へのア プライアンスのアップグレードパスがない	35
	インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールし ないでください	36
	Solaris システム上でマウントされた別のホストのルート環境にサーバー ソフトウェアをインストールできない	36
	7.6 へのアップグレード後に、nblog.conf のオブジェクト ID に加えた 変更が保持されない	36
	7.x へのアップグレード後に、REQUIRED_INTERFACE として IP ア ドレスを一覧表示していた構成でインターフェースエントリが変更 されることがある	36
	HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて	37

HP PA-RISC メディアサーバーから NetBackup 7.6 クライアントをブッ シュインストールするために必要な追加手順	37
7.0 より前の NetBackup クライアントをバージョン 7.6 にアップグレー ドする場合に、正常に完了したインストールが失敗に終了した状 態 (0 以外) を返すことがある	38
AIX 7.1 で起きる可能性がある Java エラー	38
データベースサーバー名の文字制限	39
NetBackup の FreeBSD からのアンインストール	39
NetBackup 7.1 以前からアップグレードするときの、Oracle バックアッ プポリシーに関する注意事項	39
NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	40
NetBackup は OpenStorage 用の 2 つの最適化複製をサポートす る	40
バージョンの異なる複数のホストのプロパティをエクスポートする ときに、エクスポートファイルに正しくないプロパティが表示され る	41
X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特 定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある	41
[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[カタログ (Catalog)]の検索結果で、システムに複数のイメージがあっても 単一のイメージが表示される	42
Java ベースの Windows 管理コンソールが Windows Vista/Server 2008 以降で状態コード 521 をスローする	42
Mac OS X でリモートデスクトップ接続 (RDC) を使うと NetBackup 管 理コンソールでボタンが正しく表示されないことがある	43
IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項	43
IPv6 リンクローカルアドレスは NetBackup でサポートされない	43
NetBackup の Java ベースの管理コンソールでの X フォワーディン グで断続的に問題が発生する	43
NetBackup 管理コンソールを使って NetBackup イメージを期限切れ にするとイメージ拡張子ファイルがカタログに残る	44
NetBackup の Java 管理コンソールの初期化時に機能が低下す る	44
NetBackup 管理コンソールを実行するためのメモリ要件	44
マルチバイトのロケール環境では NetBackup の Java 管理コンソ ールのリモート表示がサポートされない	44
UltraSPARC Tシリーズまたは SPARC T3 アーキテクチャにおける NetBackup 7.x マスターサーバーのパフォーマンス問題発生の 可能性	44
DFSR がクライアントでアクティブな場合に複数ストリームバックアップ が失敗することがある	45

バックアップスクリプトのパスフィールドが自動バックアップのスケジュール向けにアクティブにされていない	45
Windows クライアント用の簡単なクライアント名への移行	45
swapfile.sys ファイルを Windows 8 クライアントのバックアップから手動で除外する必要がある	46
新しく追加した NetBackup アプライアンスのメディアサーバーをマスターサーバーとして EMM データベースに追加する	46
WAN Resiliency とクライアント主導の重複排除の両方を有効にしているクライアントに対するリストアが失敗することがある	46
2.6 より後のカーネルバージョンで実行している SUSE 11 で起きる問題	46
Windows システムドライブのルートディレクトリにあるいくつかのファイル名により NetBackup が正しく機能しない	47
NetBackup ホスト間の時差によりアクティビティモニターに問題が表示される	47
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	47
アクティビティモニターの情報が正しい順序で表示されないことがある	48
[次までログを保持する: GB (Keep logs up to GB)] オプションが有効になっているとログが削除される	48
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、Java 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合がある	48
NetBackup Java ユーザーインターフェースが HP-UX 11.31 環境で起動できない	49
NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項	49
マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントサーバーの Accelerator バージョンの必要条件	49
仮想化されたサーバーの Accelerator と Replication Director のサポートは、一緒に設定できない	49
Accelerator は VxFS ファイル変更ログをサポートしない	49
NetBackup アクセラレータのイメージによっては、bpverify 操作が状態コード 191 で失敗することがある	50
VMware のアクセラレータバックアップが不正なチェックサムのエラーで断続的に失敗する	50
有効なストレージユニットグループが認識されないため、アクセラレータポリシーの作成に失敗する場合があります。	50
NetBackup の監査に関する操作上の注意事項	51
カタログリストア中に 3 つでなく 2 つのリストア監査レコードが作成される	51
コマンドラインインターフェースにバックアップ対象の出力として認識不能な文字が表示されることがある	51
親ジョブでの処理では子の監査レコードが生成されない	51

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	51
複数のカーネルレベルを跨って選択を行うための新しい BMR ユー ザープロンプトの追加	52
Windows x86 (32ビット版) の NetBackup 7.6.0.2 クライアントは仮想 インスタンスコンバータとして使うことができない	52
レガシーのリストアは Windows 8/Server 2012 以降ではサポートされ ない	52
ZFS ボリュームの他のファイルシステムはサポートされない	52
BMR では RIS サーバーのリモートインストールフォルダの場所をリス トアしない	53
NetBackup BMR は IPv4 ネットワーク接続を使わないと IPv6 の情報 をリストアできない	53
不合理なメッセージが RAID1 ボリュームがある RHEL クライアントの BMR のリカバリ中に発生する可能性がある	53
EFI ブートシステムで Windows クライアントを復元した後追加の手 順が必要になる	53
ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備 している場合、SRT の作成は失敗することがある	53
Solaris 11 以降で devfsadm エラーが発生することがある	54
システムブート中や BMR の初回ブート中に Solaris 11 の多くのサー ビスが警告メッセージを表示する	54
BMR のリストア後の初回ブート時に、Solaris 11 以降の Solaris ゴー ンリカバリを再構成するまでに時間がかかる	55
テキストインストーラのパッケージがカスタマイズされた AI ISO 内に存 在しない場合、Solaris BMR のリストア操作に失敗する	55
クライアントを仮想マシンに変換にした後、OS の構成に時間がかか る	55
RHEL の暗号化ファイルシステムを BMR でリストアすると、暗 号化なしでリストアされる	55
/etc/mke2fs.conf ファイルをリストアすると、アクティビティモニターにリ ストアタスクが部分的に完了したと表示される	56
BMR リストア中に ZFS の一時マウントが失敗する	56
RHEL 6 で BMR リストアを実行すると問題が発生することがある	56
RHEL システムで基本サーバーインストールを実行している場合、BMR がメディア SRT の作成に失敗する	56
BMR リストア後の初回起動中にすべてのファイルシステムのラベルが 付け替えられる	57
複数のデバイスに基づく OS 構成では /boot パーティションが独立し たパーティション上になければならない	57
ZFS ストレージプールを使ったクライアントのリストア後、初回のブート 中に、複数のエラーメッセージが表示されることがある	57
BMR が ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しないことがあ る	58

BMR でサポートされた 2 つのマルチパスソリューションを共存させる と問題が生じることがある	58
内部ディスクと SAN ディスク間で Linux DDR シナリオを実行してい る間に BMR のリストアに失敗することがある	58
ディスクの命名が原因で Citrix XenCenter 仮想化で BMR バックアッ プに失敗することがある	59
SFW がインストールされている Windows 2008 R2 システムによって は、NetBackup システム状態のバックアップに失敗することがあ る	59
自動イメージレプリケーションおよび BMR を使って保護する場合のク ライアントの短縮名の指定	60
クライアントリストアの成功後もリストアタスクがディザスタリカバリドメイン に完了状態で保持されることがある	60
HP-UX 11.31 IA64 で SRT を作成するために必要なパッチ	61
BMR の IPv6 サポート。	61
VxFS7 ベースのファイルの作成中にエラーが発生することがあ る	61
リストア後に HP-UX の自動ブートに失敗することがある	62
Solaris クライアントのリストア準備が機能しないことがある	62
CLI の bmrsetupmaster を使って AIX で BMR マスターサーバーを 構成する場合に問題が発生することがある	62
Linux クライアントでは、BIOS のディスク順序が正しくない場合、リスト アが正常に実行された後の初回のブートに失敗することがあ る	63
旧バージョンのクライアントへのリストア	64
元のクライアントの重要でない、または非システムの ZFS ストレージ プールが使用不可になることがある	64
ZFS ルートプール内のスเปアデバイスおよびキャッシュデバイスが使 用不可になることがある	64
ZFS ファイルシステムのマウントエラー	64
代替ブート環境を含む ZFS ルートプールがクライアントにある場合、 Solaris クライアントの BMR リストアに失敗することがある	65
NetBackup クラウドの操作上の注意事項	65
Verizon クラウドストレージサーバーで、NetBackup で作成されたバ ケットがサポートされない	65
暗号化が有効な日立社のクラウド設定で、合成 (TIR) バックアップが 状態コード 87 で失敗する	65
NetBackup クラウドでサポートされないプラットフォームでのマスター サーバーのインストールによって、クラウドストレージサーバーの 設定の問題が発生することがある	65
IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 が実行されているホストで Rackspace プラグインが使われている場合、ネットワーク接続問 題が発生することがある	67

NetBackup クラスタの操作上の注意事項	67
クラスタ化された環境では、仮想名を IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの 両方に解決することはできない	67
NetBackup クラスタのインストールに関する注意事項	67
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意 事項	69
NetBackup for DB2 の操作上の注意事項	69
NetBackup for Exchange と NetBackup for SharePoint の操作上 の注意事項	70
NetBackup for Microsoft Active Directory の操作上の注意事 項	72
SQL Server の圧縮バックアップイメージを単一のストライプとして、ま たは複数のストライプを含むイメージとしてリストアすると、SQL Server のリストアが失敗する	72
NetBackup 重複排除に関する注意事項	73
新しいバージョンの NetBackup では MSDP 重複排除データベース を大幅に修正する可能性がある	73
国際化と日本語化の操作に関する注意事項	73
特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字 を含めないようにする	74
データベースエージェントとアプリケーションエージェントでは、サポー ト対象のすべてのプラットフォームについて、ローカライズされた 環境のサポートが制限される	74
英語版と同じバージョンレベルではない言語パックを実行しない	
7	5
NetBackup LiveUpdate の操作上の注意事項	75
LiveUpdate には、OpenVMS (UNIX) または Novell のオペレーティ ングシステムとの互換性がない	75
LiveUpdate を使って NetBackup 7.7 のインストールまたはこのパー ジョンへのアップグレードを試みると、対象ホストに互換性のない バージョンの Java JRE がインストールされていることが原因で失 敗することがある	75
プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの 一部として LiveUpdate エージェントがインストールされな い	76
LiveUpdate を使って HP PA-RISC クライアントを NetBackup 7.6 に アップグレードするときのエラー	76
NetBackup ログアシスタントの操作上の注意事項	77
NetBackup 管理コンソールでログレベルを変更すると、グローバルロ グレベルと VxUL デバッグレベルが変更されることがある	77
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	78

NDMP 多重化 (MPX) リストアが過度のログメッセージを生成したこと が原因で、アクティビティモニターがハングアップすることがあ る	78
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないこと がある	78
NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項	78
OpsCenter で NetBackup 6.x をサポートしない	79
database.conf がデフォルト以外のインストール場所为上書きされ る	79
NetBackup 7.6 での、NetBackup OpsCenter のブランド設定と名前 の変更	79
NetBackup 7.6 のサポート変更	79
alert.conf の水準点の別のしきい値を設定できない	80
言語パックが原因で、OpsCenter を 7.1 または 7.5 から 7.6 にアップ グレードできない	80
メンテナンスリリースを完全にアンインストールできない	80
Web ブラウザによって決定されたレポートのエクスポート先の場 所	80
アンパサンドが原因で編集できない	81
NetBackup 2.6 アプライアンスの追加と監視	81
Internet Explorer を使った OpsCenter コンソールへのアクセス	81
Korn シェルがインストールされていないと UNIX システム上の OpsCenter にログインできない	81
サーバーに到達できないことが原因でクラウドの計測データの収集が 失敗する	82
View Builder でオブジェクトがアタッチされたノードを移動するときに そのノードが一時的に表示されなくなる	82
ストレージユニットパスが 256 文字を超えるとデータ収集が失敗す る	82
[アクセラレータジョブのみ含める (Include Accelerator Job Only)] が 選択されているとレポートが空になる	82
参照機能は IE8 でサポートされない	83
クライアントの参照と選択機能で、NetApp ボリュームが Replication Director VM バックアップのクライアント名として表示される	83
サポート対象外の EV、TSM、EMC サーバーからデータを収集でき ない	83
database.conf には、データベースの場所を表す文字列だけが含ま れている必要がある	83
添付ファイルのサイズが大きすぎるとレポートの電子メールが配信され ない	84
新しいユーザーがログオンするまでそれらのユーザーにアラートを割 り当てることができない	84

[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)]に新しいユーザーが表示されない	84
サーバーパスワードに HTML 文字が含まれていると Backup Exec のデータ収集が失敗する	84
OpsCenter Monitor の[ファイルリスト (File List)]タブに実行中のジョブが表示されない	85
サブグループ名に特殊文字が含まれているとユーザーが認可されない	85
サードパーティユーティリティを実行した後に、JAVA_HOME 変数または JRE_HOME 変数が未定義になる	85
[監視 (Monitor)]インターフェースと[ビュー (Views)]インターフェースのエントリが重複する	86
OpenStorage 警告ポリシーが設定されていると、各ボリューム用に警告の電子メールが生成される	86
ポート 1556 が双方向に開かれていないと、マスターサーバー上でジョブ収集が失敗する	87
Windows の 64 ビットソフトウェアのサポート	87
キャパシティライセンスレポートの実行	87
SFR タイムラインのデータ形式が「不明」と示される	87
OpsCenter では、異なるタブまたはウィンドウからの同一ユーザーセッションに対して同時に複数のレポートを作成または編集することができない	87
レポート対象がストレージユニット名に設定されていると、重複排除レポートにデータが表示されない	88
VMware と Hyper-V での検索操作と復元操作	88
OpsCenter のインストールと配備に関する情報とベストプラクティス	88
50 を超える項目を含むファイル選択リストは OpsCenter に表示されない	88
OpsCenter は分割ジョブをパージするオプションを提供しない	89
アンインストールが取り消されるか、または割り込まれた場合は、アンインストールスクリプトが削除される	89
複数の結果セットがあるストアードプロシージャの一部の結果セットが表示されないことがある	89
Windows での仮想ホスト名の文字数制限	89
一部のレポートは完全および増分スケジュール形式のジョブのみを考慮する場合がある	89
NetBackup OpsCenter を手動でオンラインにする必要がある	90
Windows システムに log.conf ファイルがない	90
OpsCenter のオブジェクトの結合ユーティリティがマスターサーバーで失敗する	90
カスタム表形式バックアップとカスタムクライアント数のレポートでデータが戻されない	91

NetBackup のアップグレード後に、OpsCenter サーバーがマスター サーバーからのイベントの受信を停止する	91
[監視 (Monitor)]>[ホスト (Hosts)]>[クライアント (Clients)] ページか らクライアントを検索できる (属性では検索できない)	92
ジョブ数作業負荷アナライザの合計規則	92
NOM から OpsCenter にアップグレードすると、マスターサーバーの ジョブスループットのレポートが出力なしで表示される	92
OpsCenter の履歴サポートでの夏時間のサポート	92
OpsCenter 7.0.x から 7.x にアップグレードする際に、[インストール 選択 (Installation Choice)] 画面でシステムドライブの使用可能 領域が表示される	93
OpsCenter は IPv6 のみのサーバーを監視できない	93
OpsCenter インターフェースがマスターサーバーへの接続に失敗し た後で不特定のエラーを返す	93
NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートに不正な データが表示される	94
OpsCenter のレポートに仮想マシン用の IP アドレスが表示され る	94
OpsCenter が Windows Server 2012 R2 で不正な OS レベルを表 示する	95
Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder から OpsCenter サーバーにアクセスする際の問題	95
NetBackup OpsCenter での検索と保留のサポート終了	95
Solaris と UNIX クラスタで廃止されたサポート	96
NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項	96
NBUPlugin 1.1 で指定した時点へのリストア後に複製が失敗す る	96
NBUPlugin 1.1 の複製がエラーコード 84 で失敗する	97
[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースのファイルを参照する際のデータベ ースシステムエラー	97
ログレベルが 4 以上に設定されているとインデックスログが肥大化す る	98
vCenter 2.5 または ESX 3.5 以前を実行している仮想マシンで検出 が失敗する	98
[仮想ディスクの選択 (Virtual disk selection)] が [ブートディスクのエ クスクリード (Exclude boot disk)] に設定されていても、ブート ディスクでハードウェアスナップショットが生成される	98
ストレージの読み込み速度が遅いと、NetBackup Accelerator を使っ た SLP でのバックアップが状態コード 13 で失敗する	98
Oracle インテリジェントポリシーではインスタンスグループ名をローカ ライズできない	99
VSS ではボリューム GUID がサポートされない	99

代替クライアントを設定しているポリシーの場合は、アクティビティモニターで表示されるスナップショットジョブのキロバイト値が正しくないことがある	99
Linux で、NFS マウントのスナップショットが状態コード 20 で失敗する	99
問い合わせビルダーの[問い合わせのテスト (Test Query)]オプションで、バックアップジョブ用に選択されない VM が間違って表示される	99
NetApp Plug-in for NetBackup 1.0.1 が特定の状況下でクラッシュする	100
特定の状況下で、NetApp Plug-in for NetBackup 1.0.1 で複製に失敗することがある	100
[プライマリ (Primary)]>[ミラートポロジ (Mirror Topology)]のポリシーのすべてのイメージを処理するときにスナップショットの漏えいが発生する	101
Replication Director で作成された増分バックアップでエラーがスローされることがある: 指定した検索条件を使ってファイルのリストを取得できません (unable to obtain list of files using specified search criteria)	101
VM とそのデータストアの名前が同一の場合は、バックアップ、アーカイブ、リストアクライアントインターフェースに 2 つの個別イメージが表示される	101
ストレージライフサイクルポリシーが仮想マシンのインデックス付けに設定されていない (またはインデックス付けが完了しない) 場合は、BAR インターフェースがスナップショットから直接ファイルにアクセスする	102
RHEL 5.3 オペレーティングシステムのスナップショットからのバックアップとリストアが、NetBackup 7.6 でサポートされないために適切に機能しない	102
ボリュームレベルでの別の差分バックアップを使ったリストアはデータ損失の原因になる	102
qtrees が DFM サーバーで更新されていない場合 SnapVault レプリケーションはデータ損失の原因になる場合がある	103
Replication Director のポリシー検証が完了するのに時間がかかる	103
耐性が高いネットワークの操作上の注意事項	104
NetBackup 検索操作上の注意事項	104
7.7 以降でサポートされない NetBackup Search 機能	104
NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項	104
レガシー処理のログの詳細が以前のリリースでのものより少ない	104
FlashBackup は Storage Foundation 6 以降のボリュームマネージャでサポートされない	105

	特定の選択内容で設定される[標準 (Standard)]ポリシーにより Policy Execution Manager がクラッシュし、アサーション失敗でコアダンプが生成される	105
	アレイ上の VxVM ディスクグループに VxVM ボリュームのソフトウェアベースのスナップショットが含まれていると、ディスクアレイのスナップショットを作成できない	105
	複数ストリームのポリシーバックアップが見つからないファイルが原因で失敗する	106
	NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	106
	NetBackup for VMware の操作上の注意事項	106
	NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項	112
	Microsoft SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) コンソール用 NetBackup アドインの操作上の注意事項	112
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	115
	Symantec Operations Readiness Tools について	115
	SORT の新規インストールのための推奨手順	116
	SORT のアップグレードのための推奨手順	120
付録 B	NetBackup のリリース内容	123
	NetBackup のリリース内容について	123
付録 C	NetBackup のインストール要件	124
	NetBackup のインストール要件について	124
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	126
	NetBackup 7.7 のバイナリサイズ	129
付録 D	NetBackup の互換性の要件	132
	NetBackup のリリース形式とバージョン番号について	132
	NetBackup のバージョン間の互換性について	133
	自動イメージレプリケーションの互換性について	136
	NetBackup の互換性リストと情報について	136
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	138
付録 E	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	140
	NetBackup の関連マニュアルについて	140
	NetBackup リリースノートについて	141
	NetBackup 管理者ガイドについて	141
	NetBackup オプションの管理について	141

NetBackup データベースエージェントの管理について	144
NetBackup のインストールマニュアルについて	145
NetBackup の構成マニュアルについて	145
NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて	146
その他の NetBackup のマニュアルについて	146

NetBackup 7.7 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.7 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 7.7 のリリースについて

Symantec社は、NetBackup 7.7 のリリースを発表いたします。このリリースでは、重要な機能、拡張機能、NetBackup のパフォーマンス改善とその関連オプションが導入されています。これらの新しい機能および拡張機能によって、物理環境と仮想化環境のミッションクリティカルなデータとアプリケーションを保護する NetBackup の機能が改善および拡張されます。

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.17 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 7.7 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正のいくつかは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 7.7 で修正された既知の問題を文書化した EEB および Etrack のリストは、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトおよび『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.115 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 2.6 は NetBackup 7.6 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH74904>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

go.symantec.com/nb

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、Symantec による所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 7.7 の新機能と強化された機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『NetBackup リリースノート』および NetBackup の互換性リストに文書化されます。

メモ:『NetBackup リリースノート』には、特定の NetBackup バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Symantec によって、以前のバージョンの NetBackup へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、NetBackup の互換性リストを参照する必要があります。

p.15 の「[NetBackup 7.7 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.136 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 7.7 の新機能と強化された機能

次のリストに、NetBackup バージョン 7.7 で導入された一般的な新機能、拡張機能、変更の一部を示します。

一般的なサポート拡張

次のサポートが NetBackup 7.7 に追加されました。

- GPFS (General Parallel File System) メタデータ属性 (storage pools、metadata replicatoin、data replication) のバックアップとリストアをサポートします。この機能に関する詳細情報を参照できます。
p.19 の「[GPFS メタデータ属性 \(storage pools、metadata replicatoin、および data replication\) のサポート](#)」を参照してください。

- Enterprise Vault 11

メモ: Enterprise Vault 8 以降から Enterprise Vault 11 にアップグレードするためにバックアップポリシーを修正する必要はありません。

- SUSE Linux 11 SP3 の SAP HANA (High-Performance Analytic Appliance) SPS 09 と RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 6.5 の SAP HANA (High-Performance Analytic Appliance) SPS 09

メモ: NetBackup 7.7 は、これらのプラットフォームでのデータベースインスタンスのリダイレクトリストアをサポートしません。ただし、この機能は NetBackup 7.6.1.2 でサポートされており、NetBackup 7.7.1 以降のリリースでもサポート予定です。

- BMR (Bare Metal Restore) マスターサーバー、クライアント、ブートサーバーなどで、RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 7.0 が完全にサポートされます。完全なサポートには、物理環境と仮想環境でのセルフリストア、DDR (Dissimilar Disk Recovery)、DSR (Dissimilar System Recovery) のシナリオが含まれます。
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.5 での Lotus Notes 9 のサポート

次は NetBackup 7.7 でサポートされません。

- NetBackup 7.7 は Windows Server 2003 ではサポートされません。
- 次のロボット形式:

- TL4 - 4MM テープライブラリ
- TL8 - 8MM テープライブラリ
- TLM - マルチメディアテープライブラリ

サポート対象のソフトウェアとハードウェアに関する最新の総合的なリストについては、「[NetBackup Master Compatibility List](#)」を参照してください。

サポートと End-of-Life のお知らせについてのより詳しい情報が利用可能です。

p.138 の「[NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)」を参照してください。

NetBackup データベースに対するセキュリティ強化

NetBackup のセキュリティ変更の一部として、シマンテック社により NetBackup (NBDB) データベースのパスワードが変更される可能性があります。ユーザーが NetBackup データベースのパスワードをデフォルト値から変更している場合、パスワードの変更は行われません。デフォルトパスワードのままになっている NetBackup データベースが、新しいランダム生成されたパスワードにより更新されます。NetBackup のすべての新しいインストールでは、セキュリティ強化の一環として、ランダムに生成されたパスワードが NetBackup データベースに割り当てられます。このパスワードは、インストールまたはアップグレード中には提供されません。このランダムに生成されたパスワードを変更するには `nbdb_admin` コマンドを使用します。 `nbdb_admin` コマンドについて詳しくは、『Symantec NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

NetBackup メディアサーバーのセキュリティ証明書について

NetBackup では、メディアサーバーは、次のユースケースで正しく機能するために電子セキュリティ証明書を必要とします。

拡張監査用の NetBackup 管理コンソール 拡張監査モードでは、ユーザーが NetBackup 管理コンソールを介してメディアサーバーに接続する場合にセキュリティ証明書が必要になります。

『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

クラウドストレージの場合 NetBackup CloudStore サービスコンテナでは、メディアサーバーに証明書がインストールされている必要があります。証明書がインストールされていない場合は、サービスコンテナは起動できません。

『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

GPFS メタデータ属性 (storage pools、metadata replicatoin、および data replication) のサポート

NetBackup には GPFS メタデータ属性 (storage pools、metadata replicatoin、および data replication) のバックアップと復元のサポートが追加されました。デフォルトでは、NetBackup は GPFS ボリュームの ACL、拡張属性、およびこれらの追加メタデータ属性をバックアップおよび復元します。追加の設定は必要ありません。

ファイルの復元後にファイルの状態に `illplaced` フラグまたは `illreplicated` フラグが表示される場合は、次の情報を参照してください。(ファイルの状態を表示するには、GPFS `mmlsattr` コマンドを使用します。)

`illplaced` フラグは、ファイルがバックアップ時の場所とは別の GPFS ストレージプールに復元された場合に表示されます。この変更は、GPFS ファイル配置ポリシーにおける作成ルールの変更または移行ルールの結果に起因する場合があります。または、GPFS 管理者が `mmchattr` コマンドを使用してファイルを別のストレージに移動している場合があります。

`illreplicated` フラグは、復元されたファイルのあるストレージプールにあるエラーグループがデータレプリケーション設定に定める数よりも少ない場合、またはシステムプールにあるエラーグループがメタデータレプリケーション設定よりも少ない場合に表示されます。

GPFS 管理者は、関連するファイル数とネットワークトラフィックに応じて次の 2 つのコマンドのいずれかを実行することで、ファイルのレプリケーション係数を再調整して `illplaced` フラグまたは `illreplicated` フラグを解決できます。

- 単一ファイルの場合: `mmrestripefile`
- ファイルシステム全体の場合: `mmrestripefs`

メモ: GPFS 属性と ACL を持つファイルを代替プラットフォームに復元した場合、メタデータ属性または ACL が復元されません。たとえば、RHEL システムからファイルをバックアップして AIX システムに復元する場合です。この復元では「不正なシステム呼び出し」などのエラーが発生する場合があります。(ただし拡張属性は代替プラットフォームに復元可能です。)

GPFS メタデータ属性のサポートに関する注記

- GPFS 属性と ACL を持つファイルを代替プラットフォームに復元した場合、メタデータ属性または ACL が復元されません。たとえば、RHEL システムからファイルをバックアップして AIX システムに復元する場合です。この復元では「不正なシステム呼び出し」などのエラーが発生する場合があります。(ただし拡張属性は代替プラットフォームに復元可能です。)
- NetBackup 7.6.1.1 クライアントで作成したバックアップを NetBackup 7.6.1 を使用して復元した場合、バックアップされた GPFS 拡張属性または新しくサポートされた GPFS メタデータ属性は復元されません。(ただし、ACL は復元されます。)使用する詳細ログレベルに応じて、進捗ログに次のようなメッセージが表示されます。
不明な拡張属性(3 - META_GPFS) - 情報が失われます

ユーザーインターフェースの拡張

バージョン 7.7 以降、NetBackup は NetBackup 管理コンソールの Windows ネイティブバージョンから除外されています。代わりに、Java ベースバージョンのコンソールが更新され、サポート対象のすべての Windows および UNIX プラットフォームでパフォーマンスと機能が統合されるよう強化されています。特に記載されていない限り、製品ドキュ

メント内で使われている「NetBackup 管理コンソール」というすべての用語は、最新の Java ベースバージョンを表しています。

NetBackup 管理コンソールの複数の基本バージョンは NetBackup サーバーソフトウェアをインストールするときにインストールされます。NetBackup 管理コンソールのパッチ更新を適用するために以前の基本バージョンを再インストールする必要がある場合もあります。たとえば、NetBackup 7.7 をインストールするか NetBackup 7.7 にアップグレードしたときに、コンソールのバージョン 7.0 から 7.7 がすべてインストールされます。

NetBackup 管理コンソールの使用について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: Windows のスタンドアロンバックアップ、アーカイブ、リストア (BAR) インターフェースは NetBackup 7.7 でも引き続き利用できます。

Java ベースの NetBackup 管理コンソールの一般的な変更と拡張:

- NetBackup サーバーパッケージをインストールするときにデフォルトの管理インターフェースとして NetBackup 管理コンソールがインストールされるようになりました。引き続き、既存の NetBackup ソフトウェアをインストールしていないホストにスタンドアロンのインストール (リモート管理コンソール) として NetBackup 管理コンソールをインストールできます。ただし、Windows のネイティブリモート管理コンソールをインストールするオプションは用意されていません。
- Windows のデフォルトの NetBackup サーバーインストールには、新しい Java ベース NetBackup 管理コンソールのバージョンが複数含まれています。これらの複数のバージョンは、NetBackup サーバーの以前のバージョンをバージョン 7.0 まで遡って管理するためのものです。
スタートメニューで [プログラム (Programs)] > [NetBackup] > [古い管理コンソール (Back-level Admin Consoles)] の順に選択すると、これらのコンソールが表示されます。
- イメージ期限切れに一括で対応できるようになったため、NetBackup 管理コンソールのパフォーマンスが向上し、高速化されました。複数のバックアップイメージの操作中に検出されたエラーは、単一のエラーメッセージボックスにまとめて表示されるようになりました。表示される詳細は、[バックアップ ID (Backup ID)]、[コピー番号 (Copy Number)]、および [エラーメッセージ (Error Message)] などです。
- UNIX システムのみで動作していた 2 つのコマンドがなくなり、NetBackup 管理コンソールに置き換えられました: bpadm と vmadm。
bpadm ユーティリティには、管理者が NetBackup の設定とその操作を監視するために使う、メニューインターフェースが提供されていました。vmadm ユーティリティには、任意のターミナルから使う操作メニューが提供されていました。
- [メディア上のイメージ (Images On Media)] レポートは TIR (True Image Restore) バックアップイメージを識別するようになりました。次のレポートは [フラグメント番号

(Fragment Number)]列にあるバックアップイメージの TIR 形式を指定するようになりました。

- メディア上のイメージ (Images on Media)
- テープ上のイメージ (Images On Tape)
- ディスク上のイメージ (Images on Disk)
- ディスク上のイメージ - PureDisk ディスクプール (Images on Disk – PureDisk disk pool)
- アクティビティモニターの複数の機能が拡張されました。これらの拡張機能には、ログイン後のデータロードの高速化、バックグラウンド更新パフォーマンスの強化、およびスクロール、ソート、キーボードショートカットなどのユーザー入力に対する応答時間の短縮などがあります。
- アクティビティモニターのサービスに新しい状態([無効 (Disabled)])が導入されたので、監視対象の NetBackup サーバーのサービスが無効になっていることが明示されます。
- [フィルタ (Filter)]オプションと[フィルタの解除 (Clear Filter)]オプションにキーボードショートカットが割り当てられました。Ctrl+T のキーの組み合わせで、[フィルタ (Filter)]ダイアログが開きます。Ctrl+U のキーの組み合わせは表形式のデータに適用したフィルタを解除します。

GUI の拡張と変更

- [参照 (Browse)]機能が次のインターフェースに追加されました。
 - LiveUpdate ポリシーの[クライアントのインポート (Import Clients)]ダイアログ
 - ディザスタリカバリ用のカタログバックアップファイルを選択するための Catalog Recovery Wizard
 - すべてのポリシー形式に対するバックアップポリシーの構成ウィザードの[バックアップ対象 (Backup Selection)]パネル
 - [新しいストレージユニット (New Storage Unit)]ダイアログ
 - NBU-Catalog ポリシー形式の[ディザスタリカバリ (Disaster Recovery)]タブ
 - バックアップポリシーの構成ウィザードの[カタログのディザスタリカバリファイル (Catalog Disaster Recovery File)]パネル
 - [新しいポリシーの追加 (Add New Policy)]ダイアログの[クライアント (Clients)]タブ
 - [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログの[クライアント (Clients)]タブ
 - MS-Exchange-Server ポリシー形式の[バックアップ対象の追加 (Add Backup Selection)]ダイアログ

- MS-SharePoint ポリシー形式の[バックアップ対象の追加 (Add Backup Selection)]ダイアログ
- [ポリシー (Policy)]>[バックアップ対象 (Backup Selection)]タブ。クライアントを参照する場合に、バックアップ用のディレクトリおよびファイルを複数選択できます。
- テープドライブを追加または変更するときの、[パスの追加 (Add Path)]ダイアログ
- クライアントのホストプロパティで、Windows クライアントに対して次のダイアログが利用可能です。
 - エクスクルードリストへの追加 (Add to Exclude List)
 - エクスクルードリストの変更 (Change Exclude List)
 - エクスクルードリストへ例外を追加 (Add Exceptions to Exclude List)
 - エクスクルードリストの例外の変更 (Change Exceptions to Exclude List)
- NetBackup 管理コンソールのアクティビティモニターに[ドライブ (Drives)]ページが表示されるようになりました。[ドライブ (Drives)]ページでオペレータのドライブ、デバイスパス、サービスの要求を管理できます。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
- インターフェースの別の処理や別のインスタンスを現在変更しているポリシーを保存しようとする、[ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログにメッセージが表示されます。
- [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログのタブをシームレスに切り替えられるようになりました。ユーザーが入力したデータは、タブを切り替えても破棄されません。[適用 (Apply)]ボタンは削除され、[OK]をクリックするとデータは保存されます。
- [クリップボードにコピー (Copy to Clipboard)]という新しいメニューを使ってアクティビティモニター、ポリシー、ストレージサーバーのようなすべてのテーブルからクリップボードにテキスト情報をコピーできます。後で分析できるように Microsoft Excel やメモ帳のような他のアプリケーションに情報を貼り付けることができます。新しいメニューの[クリップボードにコピー (Copy to Clipboard)]は右クリックメニューの[編集 (Edit)]やツールバーメニューでも選択できます。
- バックアップ、アーカイブ、リストア (BAR) インターフェースの[タスクの進捗 (Task Progress)]タブに、バックアップおよびリストアタスクのジョブ ID を表示できるようになりました。
- BAR インターフェースで、名前に英語以外の文字を含むファイルおよびフォルダを参照、バックアップ、リストアする場合に、コンソールを再起動する必要がなくなりました。
- NetBackup 管理コンソールに、データを格納できるよう列のサイズを調整するためのオプションが配置されました。この拡張機能は、ポリシー、ウィザード、アクティビティ

モニターなど、フラットな表形式で表示されるデータのインスタンスに適用されます。この拡張機能は、アクティビティモニターの階層表示でも使用できます。

列のサイズを調整するには、表を右クリックして[列 (Column)] > [データに合わせる (Size to Data)]を選択するか、メニューバーの[表示 (View)]をクリックして[列 (Column)] > [データに合わせる (Size to Data)]を選択します。以降のログインでこれらの選択が保持されることにご注意ください。

- 新しいオプションの[フィルタの解除 (Clear Filter)]がツールバーの[表示 (View)]メニューと右クリックメニューに追加されました。[フィルタの解除 (Clear Filter)]オプションを使って NetBackup の表形式データに適用されたフィルタを解除します。このオプションはデータにフィルタを適用するときのみ有効になります。
- [フィルタ (Filter)]ダイアログを開くツールバーに[フィルタ (Filter)]ボタンが追加されました。[フィルタ (Filter)]ダイアログで、フィルタを選択して、選択したペインの表形式データにフィルタを適用します。
- バックアップジョブとリストアジョブの進捗状況ログファイルに代替パスを指定するために使われていた、[進捗ログファイル名 (Progress log filename)]テキストボックスは削除されました。このオプションはバックアップ、アーカイブ、リストア (BAR) インターフェースの[バックアップファイルとマーク付きリストアファイル (Backup Files and Marked Restore Files)]ダイアログから削除されました。バックアップとリストアのジョブの進捗状況ログはデフォルトのログファイルに保存されます。ジョブのデフォルトのログファイルのパスは[タスクの進捗 (Task Progress)]タブの[上記のタスク選択の結果 (Results of the Task Selection Above)]ペインに表示されます。
- [ログ (Logging)]タブが[オプション (Options)]ダイアログボックスに追加されました([表示 (View)] > [オプション (Options)])。このタブを使うと、コンソールログ記録のパラメータを設定できます。[ログ (Logging)]タブで利用可能な設定は、`Debug.properties` ファイルに類似しています。詳しくは、NetBackup のオンラインヘルプを参照してください。

新機能

- 複数のポリシーの複数のスケジュールを一度に変更できるようになりました。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
- ポリシーから別のポリシーまたサーバーから別のサーバーにポリシー属性、クライアント、スケジュール、バックアップ対象をコピーできるようになりました。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
- 複数のポリシーの複数のクライアントを一度に変更できるようになりました。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
- NetBackup ホストへの新しい接続方法が 2 つ、[ホストプロパティ (Host Properties)]に追加されました。
- リストアを実行する場合、選択したソースクライアントがリストア先のクライアントとして入力されます。リストア先のクライアントを変更できます。[クライアントリストの編集 (Edit Client List)]ダイアログボックスでクライアントを追加、編集、削除することもできます。

- バックアップポリシーを設定するときに追加または変更するクライアントのオペレーティングシステムとハードウェアを検出できるようになりました。この機能を使うには、[クライアントの追加 (Add Client)]ダイアログと[クライアントの変更 (Change Client)]ダイアログの[クライアントのオペレーティングシステムの検出 (Detect client operating system)]チェックボックスにチェックマークを付けます。
この機能は **LiveUpdate** ポリシー形式を設定するときや[ポリシーの構成ウィザード (Policy Configuration Wizard)]を使ってポリシーを設定するときにも利用可能です。自動検出機能を使う場合は、クライアントの `bp.conf` ファイルにマスターサーバー名が記載されている必要があります。その作業はホストにクライアントソフトウェアをインストールするときにマスターサーバー名を入力することで完了します。

ログ記録の拡張

NetBackup 7.7 のログ記録 UI の変更:

- NetBackup 7.7 以降では、[ログの保持 (Keep logs)]と[Vault ログの保持 (Keep Vault logs)]のプロパティは[クリーンアップ (Clean-up)]ホストプロパティから[ログ (Logging)]ホストプロパティに移動しました。[ログ (Logging)]プロパティ画面では、これらのプロパティはそれぞれ[ログを保持する日数 (Keep logs for days)]と[Vault ログを保持する日数 (Keep Vault logs for days)]といいます。
- NetBackup 7.7 から、[デバッグログ制限機能を有効にする (Enable Robust Logging)]オプションが NetBackup 管理コンソールの[ログ (Logging)]ホストプロパティダイアログボックスから削除されました。これは、このオプションが常に利用可能になったためです。エラーログは常にデバッグログ制限機能構成パラメータに基づいて作成されます。ただし、次の構成パラメータは、`nbgetconfig` コマンドを実行するときに引き続き残ります。`ENABLE_ROBUST_LOGGING = NO`
これは、NetBackup 7.7 の既知の問題です。`ENABLE_ROBUST_LOGGING` 構成パラメータの値には関係なく、デバッグログ制限機能は常に有効になります。

NetBackup 7.7 の新しいログ記録機能:

- レガシーのログファイル名の形式は、このリリース以降変更されました。レガシーのログファイルを解析するためにスクリプトを使う場合は、新しいログファイル名を読み込むために、それらのスクリプトの変更が必要になることがあります。ログファイル名について詳しくは、『Symantec NetBackup™ ログリファレンスガイド』の「レガシーログのファイル名の形式」を参照してください。
<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>
- 次のパラメータが構成ファイル (UNIX の Windows レジストリや `bp.conf` ファイル) に追加されました。
 - `MAX_LOGFILE_SIZE`
ログファイルの最大サイズを示します。NetBackup のログファイルのサイズが `MAX_LOGFILE_SIZE` の設定と一致する場合には、次のログが新しいログファイルに格納されます。

- MAX_NUM_LOGFILES
NetBackup で作成できるログファイルの最大数を示します。ログファイル数が MAX_NUM_LOGFILES 設定と一致すると、古いログファイルは削除されます。
- 次の新しいオプションが NetBackup 管理コンソールの[ログ (Logging)]ダイアログに追加されました。
 - 有効
このオプションを設定すると重要な NetBackup 処理のログが作成されます。以前の NetBackup バージョンでは、必須なプロセスのログディレクトリをユーザーが作成してからログ記録が開始しました。[有効 (Enable)]を選択すると、重要な NetBackup 処理のログディレクトリが自動的に作成されてログの記録を開始します。
[重要なプロセスのログを有効にする (Enable)]オプションを選択すると次の重要な NetBackup プロセスがログに記録されます。
マスターサーバープロセス:
 - bprd
 - bpdbm
 メディアサーバープロセス:
 - bpbrm
 - bptm
 - bpdm
 クライアントプロセス:
 - bpfis
 - [次までログを保持する: GB (Keep logs up to GB)]
このオプションは保持する NetBackup ログのサイズを指定します。NetBackup ログのサイズがこの値まで増加すると、古いログが削除されます。GB でログサイズを設定するには、チェックボックスにチェックマークを付けて GB で値を指定します。

NetBackup のセキュリティと暗号化

次のリストに、NetBackup 7.7 以降の NetBackup セキュリティと暗号化に関する新機能と拡張機能の一部を示します。

- NetBackup ではユーザー情報の監査に役立つ監査機能が拡張されました。この機能を使うと、NBAC を有効にしないでユーザー情報を監査できます。拡張された監査機能について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

メモ: このリリースでは、拡張された監査はポリシー操作とジョブ操作でのみサポートされます。

- 生成した暗号化キーが FIPS で承認済みの場合に NetBackup キーマネージメントサービス (KMS) を FIPS モードで操作できるようになりました。KMS でキーをエクスポートしたりインポートしたりする機能も利用可能です。キーをインポートまたはエクスポートすると、複数の NetBackup ドメインをすばやく同期して同じキーセットを使ったり、ドメインから別のドメインにキーセットをすばやく移動したりできます。この機能に加えて、NetBackup で使う OpenSSL のバージョンは 1.0.1j にアップグレードされました。詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

NetBackup for NDMP

次のリストに、NetBackup 7.7 以降の NetBackup for NDMP に関する新機能と拡張機能の一部を示します。

- NetApp cDOT ファイラサポート
NetBackup for NDMP は NetApp cDOT ファイラをサポートします。NetApp cDOT ファイラと連携して働くように NetBackup を設定する方法について詳しくは、次のマニュアルを参照してください。
[『NetBackup for NDMP 管理者ガイド』](#)

NetBackup for Replication Director

次のリストに、NetBackup 7.7 以降の NetBackup Replication Director に関する新機能と拡張機能の一部を示します。

- Replication Director は NetApp cDOT (clustered Data ONTAP) オペレーティングシステムをサポートするようになりました。この拡張により NetBackup Replication Director を使って cDOT 環境のデータを保護できます。Replication Director を使うと NetApp clustered Data ONTAP クラスター内部のストレージ仮想マシン (vserver) でボリュームのスナップ、レプリケート、バックアップの作成を実行できます。この機能について詳しくは、『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』を参照してください。

メモ: このベータ版では、cDOT 向け Replication Director は SLP あたりに最大 8 つのポリシーをサポートします。SLP パラメータ[スナップショットのレプリケーションジョブあたりの最大イメージ (Maximum images per snapshot replication job)]を 2 に設定する必要があります。

ポリシーを作成するとき、SLP あたりのポリシー数を 8 つまでに制限していることを確認します。SLP にポリシーを 8 つより多く含めると、ジョブが失敗する場合があります。

SLP パラメータの設定について詳しくは、『[NetBackup 管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 検索

次のリストに、NetBackup 7.7 以降の NetBackup 検索に関する新機能と拡張機能の一部を示します。

- リリース 7.7 以降では、NetBackup は NetBackup Search 機能をサポートしなくなりました。NetBackup 7.7 にアップグレードすると、NetBackup Search に関連する情報(バックアップイメージのインデックス処理を含む)は削除されます。アクティビティモニターの古いインデックス付けジョブは引き続き参照できます。ホールド機能と既存のホールドは保持されます。

Symantec はインデックスサーバーから NetBackup 検索機能ソフトウェアをアンインストールすることを推奨します。

OpsCenter を 7.7 にアップグレードするときにリーガルホールドはユーザーホールドに変換されるので、nbholdutil コマンドを使って管理できます。リーガルホールドが既存のユーザーホールドと同じ名前の場合、競合を避けるためにすべてのホールド名を変更します。保留名の変換と保留の管理について詳しくは、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 2](#)』を参照してください。

NetBackup for SQL Server

次のリストに、NetBackup 7.7 以降の NetBackup for SQL Server に関する新機能と拡張機能の一部を示します。

- このリリースの NetBackup には SQL Server インテリジェントポリシーが含まれます。この機能により、NetBackup を使う SQL Server 環境を保護するエンドユーザーエクスペリエンスが向上します。通常、NetBackup 管理者は SQL Server 環境を保護する必要がありますが、SQL Server の内部についてほとんど理解していません。一方、データベース管理者 (DBA) は SQL Server を熟知していますが、NetBackup を使う経験がほとんどないか、またはまったくありません。NetBackup を適切に設定して SQL Server 環境を保護するには、NetBackup 管理者と DBA 間の調整が必要です。SQL Server レガシーバックアップポリシーにはこの処理を困難にしてユーザーエラーが起きやすい、いくつかの設計上の欠陥が存在します。

これらの問題を解決するために、SQL Server インテリジェントポリシーの機能は次のように強化されました。

- **SQL Server** インスタンスを保護するために必要なポリシーが減りました。単一のポリシーを作成し、複数のクライアントに分散する複数の インスタンスを保護できます。
- 新しい検出サービスでは、NetBackup 環境全体で **SQL Server** インスタンスを検出します。新しく検出したインスタンスが NetBackup 管理コンソールの [アプリケーション (Applications)] > [Microsoft SQL Server] > [インスタンス (Instances)] ノードに表示されます。インスタンスを管理する `nboradm` コマンドも使うことができます。
- バッチファイルは実行時に自動的に生成されるのでバックアップのために作成する必要はありません。
- アクティビティ 모니터の [ジョブの詳細 (Job Details)] のレポートが向上しました。
- 拡張エラーコードは、問題をより早く識別し、トラブルシューティングし、修正できるようにします。失敗したジョブを簡単に再起動できます。
- アプリケーションバックアップスケジュールは **SQL Server** インテリジェントポリシーでは使いません。バックアップスケジュールに完全バックアップ、差分バックアップ、トランザクションログバックアップが含まれるようになりました。
- インスタンスやデータベースがいくつでもバックアップを手動で作成できます。
- ポリシー構成でバックアップストライプ、転送サイズ、バッファの使用状況、利用不能なデータベースをスキップするオプションなどのパフォーマンスチューニングオプションを設定できます。
- 分単位でトランザクションログのバックアップを作成する新しいトランザクションログのスケジュールを作成できます。
- データベース管理者はシステム全体のセキュリティを改善するために `nbsqladm` コマンドを使ってすべてのインスタンスクレデンシャルを制御できます。

SQL Server のレガシーポリシー (クライアントとバッチファイルで設定) は引き続き使うことができますが、**SQL Server** インテリジェントポリシーにアップグレードすることはできません。インテリジェントポリシーではなくレガシーポリシーでインスタンスを保護する場合は、新しいインテリジェントポリシーを設定する必要があります。

NetBackup for SQL Server について詳しくは、『**NetBackup for SQL Server 管理者ガイド**』を参照してください。

NetBackup の仮想化

次のリストに、NetBackup 7.7 以降の仮想化に関連する新機能と拡張機能の一部を示します。

- **NetBackup plug-in for VMware vSphere Web Client** のインスタントリカバリ (IR) の拡張
 コマンドラインインターフェースを使う仮想マシンのインスタントリカバリに加えて、**Symantec NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client** のユーザーインターフェースにインスタントリカバリウィザードが導入されました。このウィザードを使うと、単一仮想マシンと同時に複数の仮想マシンを 1 カ所にすぐにリカバリできます。ウィザードはリカバリ先の **ESX Server** に仮想マシンのバックアップイメージをデータストアとして開示してインスタントリカバリを開始します。リカバリした仮想マシンはすぐにアクセスできるようになります。
- **Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドイン**
Microsoft SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) コンソールで、**NetBackup** アドインを使って **NetBackup** バックアップイメージから仮想マシンを回復できます。
 SCVMM コンソールでアドインを使うと次のことができます。
 - 元の場所か代替の場所に完全な仮想マシンをリカバリします。
 - アドインで開始されたリカバリジョブの進捗状況を監視します。
 インストール、設定、使用について詳しくは、『**Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインガイド**』を参照してください。
- **Hyper-V インテリジェントポリシー**
NetBackup はポリシーのフィルタ処理ルールによって、バックアップを作成する **Hyper-V** 仮想マシンを自動的に選択できます。ポリシーの [クライアント (Clients)] タブには規則を作成するためのクエリービルダーが含まれています。**NetBackup** は現在ルールを満たしている仮想マシンのリストを作成し、バックアップにそれらの仮想マシンを追加します。
 仮想マシンの自動選択には、次の利点があります。
 - クラスタ化された環境を含む大規模な **Hyper-V** 環境で使うサイトのポリシー構成を単純化します。
 - バックアップリストを仮想環境の変更にかかわらず最新の状態に保持できます。
 - 仮想マシンの選択はバックアップ時に動的に行われます。

NetBackup 言語パック

NetBackup 言語パックは、Symantec Enterprise Technical Support サイトと Symantec FileConnect でダウンロードできます。**NetBackup** のフランス語、日本語、簡体字中国語のメディアキットには、言語パックのメディアも含まれます。**NetBackup** 言語パックの入手方法について詳しくは、シマンテック社の営業担当者または販売代理店に問い合わせてください。

このセクションでは、NetBackup 7.7 で NetBackup と OpsCenter の言語パックに加えられた拡張について説明します。詳しくは、各言語パックで提供されている、Symantec NetBackup 7.7 言語パックの『最初にお読みください』と、Symantec OpsCenter 7.7 言語パックの『最初にお読みください』を参照してください。

プラットフォームサポート

NetBackup 言語パックで、Red Hat Enterprise Linux と SUSE Linux Enterprise Linux がサポートされるようになりました。

OpsCenter 言語パックで、NetBackup 言語パックと同じ Linux ディストリビューションがサポートされるようになりました。

7.7 の言語パックのプラットフォームサポートの概要を次に示します。7.7 の新しいプラットフォームサポートには、アスタリスク (*) が付いています。

表 2-1 サポート対象のサーバーとクライアントプラットフォーム

	Solaris SPARC	Solaris x86-64	AIX Power	HP-UX IA	Red Hat x86-64	SUSE x86-64	Windows の場合
NetBackup	ローカライズ済み	なし	ローカライズ済み	ローカライズ済み	ローカライズ済み*	ローカライズ済み*	ローカライズ済み
OpsCenter	N/A	N/A	N/A	N/A	ローカライズ済み*	ローカライズ済み*	ローカライズ済み

文字エンコーディングのサポート

言語パックで、UNIX/Linux プラットフォームの非 Unicode エンコードに加えて、UTF-8 エンコードがサポートされるようになりました。7.7 の言語パックのエンコードサポートの概要を次に示します。7.7 の新しいエンコードサポートには、アスタリスク (*) が付いています。

表 2-2 サポート対象の文字エンコード、文字セット、コードページ

	フランス語	日本語	簡体字中国語
Solaris SPARC	ISO 8859-1	Shift_JIS	GB-2312
	ISO-8859-15	EUC-JP	GBK
	UTF-8*	UTF-8*	GB-18030
			UTF-8*

	フランス語	日本語	簡体字中国語
AIX Power	ISO 8859-1	Shift_JIS	GB-2312
	ISO-8859-15	EUC-JP	GBK
	UTF-8*	UTF-8*	GB-18030
			UTF-8*
HP-UX IA	ISO 8859-1	Shift_JIS	GB-2312
	ISO-8859-15	EUC-JP	GBK
	UTF-8*	UTF-8*	GB-18030
			UTF-8*
Red Hat x86-64	ISO 8859-1*	Shift_JIS*	GB-2312*
	ISO-8859-15*	EUC-JP*	GBK*
	UTF-8*	UTF-8*	GB-18030*
			UTF-8*
SUSE x86-64	ISO 8859-1	Shift_JIS*	GB-2312*
	ISO-8859-15	EUC-JP*	GBK*
	UTF-8	UTF-8*	GB-18030*
			UTF-8*
Windows の場合	CP1252	CP1252	CP1252

ローカライゼーションコンポーネントのサポート

NetBackup 言語パックで、7.7 の次のコンポーネントがサポートされるようになりました。

- NetBackup for Windows の言語パックで、Java ベースの管理コンソールがサポートされるようになりました。
- NetBackup for Windows の言語パックが NetBackup サーバーにインストールされている場合は、バックアップ、アーカイブ、リストアのインターフェースがサポートされるようになりました。
- NetBackup for Linux の言語パックで、NetBackup for UNIX 言語パックと同じ範囲のローカライゼーションが提供されるようになりました。
- OpsCenter の Linux 言語パックで、Windows の言語パックと同じ範囲のローカライゼーションが提供されます。

NetBackup と OpsCenter の言語パックコンポーネントの 7.7 に対するサポートの概要を次に示します。7.7 で導入された新しいサポートには、アスタリスク (*) が付いていません。

表 2-3 ローカライズ済み NetBackup コンポーネント

	Java ベース の管理コン ソール	Java ベース のバックアッ プアーカイ ブ、リストアコ ンソール	Microsoft Foundation Class ベース のバックアッ プアーカイ ブ、リストアコ ンソール	コマンドライ ンインター フェースコマ ンド	メニューイン ターフェース
Solaris SPARC	ローカライズ済 み	ローカライズ済 み	N/A	ローカライズ済 み	なし
AIX Power	ローカライズ済 み	ローカライズ済 み	N/A	ローカライズ済 み	なし
HP-UX IA	ローカライズ済 み	ローカライズ済 み	N/A	ローカライズ済 み	なし
Red Hat x86-64	ローカライズ済 み*	ローカライズ済 み*	N/A	ローカライズ済 み*	なし
SUSE x86-64	ローカライズ済 み*	ローカライズ済 み*	N/A	ローカライズ済 み*	なし
Windows の場 合	ローカライズ済 み*	ローカライズ済 み*	ローカライズ済 み	ローカライズ済 み	なし

表 2-4 ローカライズ済み OpsCenter コンポーネント

	Web ベースの管理コンソール	コマンドラインインターフェース コマンド
Red Hat x86-64	ローカライズ済み*	なし
SUSE x86-64	ローカライズ済み*	なし
Windows の場合	ローカライズ済み*	なし

メモ: NetBackup 7.7 では、コンピュータに Java ベースの Windows 管理コンソール用言語パックをインストールする前に、そのコンピュータに NetBackup サーバーをインストールする必要があります。NetBackup サーバーがインストールされていないコンピュータにインストールされた管理コンソールのリモートインストールはローカライズできません。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.7 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の監査に関する操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラスタの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 重複排除に関する注意事項](#)
- [国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup LiveUpdate の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup ログアシスタントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項](#)
- [耐性が高いネットワークの操作上の注意事項](#)

- [NetBackup 検索操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 7.7 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはシマンテック社のサポート Web サイトのどれにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、シマンテック社のサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

p.140 の「[NetBackup の関連マニュアルについて](#)」を参照してください。

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 7.7 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

p.132 の「[NetBackup のリリース形式とバージョン番号について](#)」を参照してください。

Appliance 2.7.1 パッチがリリースされるまで NetBackup 7.7 へのアプライアンスのアップグレードパスがない

NetBackup 7.7 の[一般的な可用性 (General Availability)]では、NetBackup Appliance に NetBackup 7.7 クライアントやメディアサーバーをサポートするアップグレードパスがありません。現在の環境に NetBackup Appliance がある場合には、NetBackup Appliance 2.7.1 のパッチがリリースされるまで、次の回避策を推奨します。

- クライアントのメディアサーバーがアプライアンスである場合には、クライアントを NetBackup 7.7 にアップグレードしないでください。
- マスターサーバーがアプライアンスである場合には、メディアサーバーを NetBackup 7.7 にアップグレードしないでください。

インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェースウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないでください。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。『NetBackup インストールガイド』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

Solaris システム上でマウントされた別のホストのルート環境にサーバーソフトウェアをインストールできない

以前のリリースでは、Solaris システムにマウントされた別のホストのルート環境に NetBackup サーバーソフトウェアをインストールすることができました。たとえば、ホスト B のファイルシステムが特定の場所のホスト A にマウントされている場合、このオプションを使用してホスト A にログインし、NetBackup インストーラでその場所を指定し、ホスト B に NetBackup をインストールすることができます。

この機能は NetBackup 7.7 では削除されており、NetBackup インストーラにオプションとして表示されません。

7.6 へのアップグレード後に、nblog.conf のオブジェクト ID に加えた変更が保持されない

NetBackup 7.6 にアップグレードすると、nblog.conf ファイルの個々のオブジェクト ID への変更は保存されません。ただし、主要なデフォルト設定は保存されます。

7.x へのアップグレード後に、REQUIRED_INTERFACE として IP アドレスを一覧表示していた構成でインターフェースエントリが変更されることがある

NetBackup 7.x にアップグレードすると、REQUIRED_INTERFACE エントリの IP アドレスを一覧表示する構成で、アップグレード後にインターフェースの選択が変更される場合があります。(REQUIRED_INTERFACE = IP_address など。)

IP アドレスと関連付けられるホスト名が複数の IP アドレスに解決される場合、最初のアドレスでなく、それらの各アドレスが使われます。

REQUIRED_INTERFACE を使うか、これを NetBackup 7.x で同等な PREFERRED_NETWORK に置き換えて、1 つのアドレスに解決されるホスト名を使うことを推奨します。

HP-UX ItaniumのvPars SRPのコンテナのサポートについて

HP は HP-UX Virtual Partitions (vPars) を有効にしたサーバに対する新しいコンテナ「Secure Resource Partitions (SRP)」を導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup バージョン 7.6.1 以降、HP Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、インストールが中止します。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての swremove と swinstall コマンドに追加されます。

HP PA-RISC メディアサーバーから NetBackup 7.6 クライアントをプッシュインストールするために必要な追加手順

HP PA-RISC メディアサーバーから NetBackup-Java アプリケーションをサポートするクライアントに NetBackup 7.6 クライアントをプッシュインストールするには、追加手順が必要です。

インストール時に、/usr/opensv/java/nbj.conf が受信側クライアントで空になります。この問題は、初回インストールとアップグレードの両方で ssh、rsh、ftp、sftp、update_clients のリモートインストール方法で起きます。

受信側クライアントの /usr/opensv/java/nbj.conf の長さが 0 です。プッシュ型サーバーに次のようなメッセージが表示されます。

```
grep: can't open /usr/opensv/java/nbj.conf
```

nbj.conf が空の場合は、jpbSA と jnbSA のコマンドが次のエラーで失敗します。

```
Initialization of NetBackup-Java failed due to the  
following error:
```

```
Invalid value for NB-Java configuration option
```

```
PBX_PORT: null. Status: 520
```

```
Configuration file: /usr/opensv/java/nbj.conf
```

この問題を回避するには、NetBackup-Java アプリケーションをサポートするサーバーで NetBackup 7.6 クライアントのプッシュインストールを実行します。

この問題を回避するには、Symantec社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH210951>

メモ: NetBackup 7.6 にアップグレードした後はファイルの内容が異なるので、nbj.conf に nbj.conf.bak をコピーできません。

7.0 より前の NetBackup クライアントをバージョン 7.6 にアップグレードする場合に、正常に完了したインストールが失敗に終了した状態 (0 以外) を返すことがある

次の ssh コマンドを使って 7.0 より前の NetBackup クライアントをバージョン 7.6 にアップグレードすると、正常に完了したインストールが失敗に終了した状態 (0 以外) を返すことがあります。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ssh <client>
```

インストールでこの特殊な問題が起きた場合に、クライアントでコマンドを再実行すると正常に終了した状態を返します。この問題を完全に回避するには、rsh、ftp、sftp、update_clients などの異なるリモートインストール方式を使って 7.0 より前の NetBackup クライアントをアップグレードします。

メモ: この問題は、バージョン 7.0 以降を実行しているクライアントで ssh を使って NetBackup 7.6 にアップグレードする場合には影響しません。

詳しくは、『NetBackup インストールガイド』の「ssh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。

AIX 7.1 で起きる可能性がある Java エラー

AIX 7.1 で、インストールプログラムに次のメッセージが表示される場合があります。

```
WARNING: Installation of Java LiveUpdate agent failed.  
Refer to file /tmp/JLU-Log/JavaLiveUpdate-Install.log on bmaix57 for more information.
```

このメッセージが表示された場合は、次の Java コマンドを実行して、エラー出力を確認してください。

```
# /usr/opensv/java/jre/bin/java  
Error: Port Library failed to initialize: -125  
Error: Could not create the Java Virtual Machine.  
Error: A fatal exception has occurred. Program will exit.
```

このエラー出力が生成された場合は、次の IBM のサポート記事を参照して問題を解決してください。

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg1IV12285>

メモ:他のエラーが原因で警告メッセージが表示されている可能性があります。Java コマンドの出力内容によって、IBM の修正プログラムによって問題が解決するかどうかを判断できます。

データベースサーバー名の文字制限

NetBackup 7.0 で SQL Anywhere 11.0.1 にアップグレードしましたが、このバージョンにはデータベースサーバー名を 31 文字以下にする必要があるという制限があります。

NetBackup は、`/usr/opensv/db/bin/servername` のサーバー名を `VERITAS_NB_hostname.domain_name` から `NB_hostname` に変更するように修正されています。NetBackup は必要に応じて名前を 31 文字に調整します。

NetBackup の FreeBSD からのアンインストール

『NetBackup 7.7 インストールガイド(NetBackup 7.7 Install Guide)』にある、NetBackup を FreeBSD からアンインストールする手順は正しくありません。PBX をアンインストールするのではなく、FreeBSD で次のコマンドを実行してください。

1. `/opt/VRTSpx/bin/vxpbx_exchanged stop`
2. `rm -rf /opt/VRTSpx`
3. `rm -rf /etc/vx/VxICS`
4. `rm -r /usr/share/man/man1/pbxcfg.1`

NetBackup 7.1 以前からアップグレードするときの、Oracle バックアップポリシーに関する注意事項

NetBackup 7.1 以前から NetBackup 7.5 以降にアップグレードする際には、アップグレードする前に、Oracle バックアップポリシーについて注意する必要がある場合があります。

Oracle ポリシーがスナップショットを使っており、バックアップをストレージライフサイクルポリシーに移動させる場合は、注意が必要です。そのポリシーと関連付けられているすべてのイメージの SLP 処理が、アップグレード前に完了状態になっている必要があります。

詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 7.7 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup は OpenStorage 用の 2 つの最適化複製をサポートする

NetBackup は OpenStorage 用の 2 つの最適化複製をサポートします。NetBackup が使う最適化複製は、製造元の OpenStorage のプラグインの公開機能に依存します。次を参照してください。

最適化複製

NetBackup の最適化複製はエクステントベースです。NetBackup は 256 KB チャンクでデータを転送します。

最適化複製で、ストレージサーバー機能を示す NetBackup の `bpstsinfo` コマンド出力は、次のフラグを示します。

```
STS_SRVC_COPY_EXTENT
```

全イメージ最適化複製

全イメージ最適化複製は、データチャンクサイズにストレージユニット [最大フラグメントサイズ (Maximum fragment size)] を使います。Symantec 社はこの種の操作を全イメージ最適化複製として参照します。これは、NetBackup イメージフラグメント全体が転送されるからです。

データのより大きいチャンクが転送されるので、少数の複製管理要求が起き、パフォーマンスが向上します。また、ストレージデバイスは進行状況レポートを制御します。ストレージデバイスはシステム負荷が低いときには複製に使った方がよいリソースを消費せずに進行状況を報告することがあります。または、ストレージデバイスが、NetBackup がエクステントベースの最適化複製に対してと同じくらい頻繁に NetBackup ユーザーを更新しながら短い間隔で進行状況を報告することがあります。

全イメージに対して、最適化複製で、ストレージサーバー機能を示す NetBackup の `bpstsinfo` コマンド出力は、次の 2 つのフラグを示します。

```
STS_SRVC_COPY_EXTENT
```

```
STS_SRVC_COPY_EXTENT_WHOLEIMAGE
```

次はストレージサーバーの機能を示す `bpstsinfo` コマンドの構文です。

`bpstsinfo -servercap -storage_server host_name -stype vendor_string`

`bpimage` コマンドについての詳しい情報を参照できます。

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

OpenStorage についての詳しい情報を参照できます。

『NetBackup OpenStorage Solutions ガイド for Disk』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

バージョンの異なる複数のホストのプロパティをエクスポートするときに、エクスポートファイルに正しくないプロパティが表示される

バージョンの異なる複数の NetBackup ホストのプロパティをエクスポートするときに、特定の NetBackup バージョンに適さないプロパティがエクスポートファイルに表示される場合があります。

バージョン 7.5、7.6.1、7.7 の複数の NetBackup マスターサーバーのホストプロパティをエクスポートした場合には、バージョン 7.6.1 や 7.5 に対しても、エクスポートファイルに NetBackup 7.7 固有のプロパティ[クリティカルプロセスのログ: YES (Logging for critical processes: YES)]が表示されます。

回避策:

複数のバージョンの NetBackup ホストのプロパティをエクスポートするには、エクスポート時に同じバージョンの NetBackup のホストを選択し、NetBackup のバージョンごとに個別にエクスポートファイルを作成する必要があります。

ホストプロパティをエクスポートするには次の操作を実行します。NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Servers)]、[メディアサーバー (Media Servers)]、または[クライアント (Clients)]を展開します。複数のホストを選択するには、SHIFT キーまたは CTRL キーを押しながらホストを選択して右クリックし、[エクスポート]をクリックします。

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブラリ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: runInstaller を実行する前に export LD_BIND_NOW=1 コマンドを実行します。

[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[カタログ (Catalog)] の検索結果で、システムに複数のイメージがあっても単一のイメージが 表示される

[NetBackup の管理 (NetBackup Management)] > [カタログ (Catalog)] の検索結果が、システムに複数のイメージがあっても単一のイメージを表示する場合があります。

回避策: 次のコマンドを実行してイメージを表示します。

- UNIX

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/nbstlutil stlilist -U
```

- Windows の場合

```
%Program Files%\Veritas\NetBackup\bin\admincmd\bstlutil.exe  
stlilist -U
```

イメージの正確なタイムスタンプを使用して、カタログでそのイメージを表示します。

Java ベースの Windows 管理コンソールが Windows Vista/Server 2008 以降で状態コード 521 をスローする

Windows Vista/Server 2008 以降で、Java ベースの Windows 管理コンソールを実行するときに、状態コード 521 (NB Java 構成ファイル `file_name` が存在しません) が表示されることがありました。このエラーはユーザーアクセス制御 (UAC) が有効な環境で権限が不十分な場合に起きます。UAC が有効なときに、Java ベースの Windows 管理コンソールまたはインストーラ (Setup.exe) を実行すると、警告と UAC を無効にするためのプロンプトが表示されます。

この問題を回避するため、Java ベースの Windows 管理コンソールを実行する前に UAC を無効にすることを推奨します。UAC が適切に無効にされていない場合には、あらかじめ登録されている管理者以外は [管理者として実行 (Run as administrator)] オプションを選択して Java ベースの Windows 管理コンソールを起動する必要があります。

警告が表示されますが、UAC が有効にされた環境で Java ベースの Windows 管理コンソールインストーラを実行できます。エラーはコンソール自体を実行するときのみ起きます。

メモ: Windows 7/Server 2008 R2 以降では、スライドバーを使用して UAC を適切に無効にすることができません。これらの新しい Windows プラットフォームで UAC を無効にするには、レジストリキーを修正する必要があります。

Mac OS X でリモートデスクトップ接続 (RDC) を使うと NetBackup 管理コンソールでボタンが正しく表示されないことがある

Mac OS X でリモートデスクトップ接続 (RDC) を使うと、NetBackup 管理コンソールのラジオボタンの操作に影響する表示の問題が発生することがあります。

この問題は、Oracle インテリジェントポリシーを作成するときの[インスタンス (Instance)] タブ、[Oracle インスタンスのクレデンシャル (Instance Credentials)] ダイアログボックスの[アプリケーションノード (Applications Node)] で発生する可能性があります、そこに限定されるものではありません。

この問題を回避するためには、接続を切断して、RDC を使用して再接続します。

IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項

NetBackup の次の 2 つの制限事項は、IPv6 アドレスがクライアント名またはイメージ名として使われている場合に当てはまる場合があります。

- ポリシーでクライアント名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。この場合は、バックアップに失敗する可能性があります。IPv6 アドレスの代わりにホスト名を指定してください。イメージ名は NetBackup で自動的に作成され、クライアント名とタイムスタンプの組み合わせで構成されます。クライアント名がポリシー内で IPv6 アドレスとして構成されていると、IPv6 アドレスが含まれているイメージ名が (イメージカタログに) 生成されます。この場合は、バックアップに失敗します。
- カタログでイメージ名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。

IPv6 リンクローカルアドレスは NetBackup でサポートされない

IPv6 リンクローカルアドレスは NetBackup ではサポートされません。IPv6 リンクローカルアドレスは fe80:: で始まるアドレスです。

NetBackup の Java ベースの管理コンソールでの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup の Java ベースの管理コンソールでの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaxTerm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

NetBackup 管理コンソールを使って NetBackup イメージを期限切れにするとイメージ拡張子ファイルがカタログに残る

NetBackup 管理コンソールを使って NetBackup イメージを期限切れにすると、イメージ拡張子ファイルがカタログに残ります。しかし、NetBackup はイメージ拡張子ファイルを通常 12 時間以内に期限切れにします。

NetBackup の Java 管理コンソールの初期化時に機能が低下する

NetBackup の Java 管理コンソールの初期化時に、機能が低下します。

ログオンダイアログボックスで指定したホスト上で 1 つ以上の NetBackup サービスまたは NetBackup デーモンが実行されていない場合に、NetBackup の Java 管理コンソールを初期化すると、一部の機能 (バックアップ、アーカイブ、リストアコンポーネント以外の機能) が利用できなくなったり、[接続不能 (Cannot Connect)] エラーが発生します。

NetBackup 管理コンソールを実行するためのメモリ要件

NetBackup 管理コンソールを実行するためのメモリ要件。

最低 1 GB の物理メモリ (256 MB がアプリケーションで利用可能) があるコンピュータで、コンソール (jnbSA、jbpSA またはリモート管理コンソール) を実行することを推奨します。

マルチバイトのロケール環境では NetBackup の Java 管理コンソールのリモート表示がサポートされない

マルチバイトのロケール環境では NetBackup の Java 管理コンソールがリモート表示されません。

マルチバイトのロケール環境では NetBackup の Java 管理コンソールのリモート表示がサポートされません。

UltraSPARC Tシリーズまたは SPARC T3 アーキテクチャにおける NetBackup 7.x マスターサーバーのパフォーマンス問題発生の可能性

UltraSPARC Tシリーズまたは SPARC T3 アーキテクチャを大規模環境で NetBackup マスターサーバーとして使用する場合、パフォーマンスに問題が生じる場合があります。次の問題が含まれます。

- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 要求に応答しない (nbstlutil が応答を停止)
- データベースコンテンツへのアクセスが遅れる
- カタログの確認および検証クエリーが遅れる
この問題は、保留データベースクエリーで CORBA タイムアウト値よりも時間がかかった場合に発生します。

その他にも問題が報告されています。関連項目は下記のリンクから参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH204332>

DFSR がクライアントでアクティブな場合に複数ストリームバックアップが失敗することがある

すべてのローカルディスクに対する Windows の複数ストリームバックアップは、Microsoft 社の分散ファイルシステムレプリケーション (DFSR) がクライアントで有効になっている場合に失敗することがあります。

回避策: DFSR が有効になっている Windows クライアントの複数ストリームを無効にします。

バックアップスクリプトのパスフィールドが自動バックアップのスケジュール向けにアクティブにされていない

[バックアップポリシーの構成ウィザードを使用する] で MS-SQL サーバーポリシーを設定し、[バックアップ形式]を選択するとき、バックアップスクリプトのパスを指定するフィールドは [自動バックアップ] を選択後、アクティブにされません。この問題は NetBackup-Java 管理コンソールのみ影響します。

この問題の詳細と回避策については、Symantec のサポート Web サイトで次の Tech Note を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH222312>

Windows クライアント用の簡単なクライアント名への移行

NetBackup は Windows クライアント用に簡単なクライアント名に移行しています。

新しいクライアントの選択 [Windows] はクライアントの特定の Windows バージョンにかかわらず、すべてのサポート対象の Windows クライアントのために使います。将来のリリースでは、Windows バージョンごとの選択は除去されます。この移行の一部として、クライアントの選択 [Windows] はクライアントの選択メニューに表示される場合もあり、表示されない場合もあります。適切なアーキテクチャ (x86 または x64) を新しい [Windows] の選択メニューで選択してください。[Windows] の選択が利用可能でなかったら、特定の Windows のバージョンを選択してください。

メモ: Windows 8 または Windows Server 2012 を NetBackup インターフェースのいずれかを使って追加するときに [Windows] の選択項目が利用できない場合は、Windows 7 または Windows 2008 のメニュー項目を選択します。

swapfile.sys ファイルを Windows 8 クライアントのバックアップから手動で除外する必要がある

Windows 8 の swapfile.sys は Windows %SystemDrive% に存在する新しい一時ファイルです。%SystemDrive% が C: の場合は、ファイルは C:\\$swapfile.sys にあります。不完全なリストアを防ぐために、このファイルをバックアップから除外してバックアップ領域を節約します。

新しく追加した NetBackup アプライアンスのメディアサーバーをマスターサーバーとして EMM データベースに追加する

新しく追加した NetBackup アプライアンスのメディアサーバーも EMM データベースにマスターサーバーとして追加すると問題が起きる可能性があります。その後に nbemmcmd -deletehost コマンドを使って EMM データベースからマスターサーバーのエントリを削除しようとすると、次のエラーによって失敗します。

```
$ nbemmcmd -deletehost -machinename <machine_name> -machinetype master
NBEMMCMD, Version: <NetBackup_version>
The function returned the following failure status: "Cannot delete machine en
Please contact Symantec support for deleting audit entries from the database"
```

WAN Resiliency とクライアント主導の重複排除の両方を有効にしているクライアントに対するリストアが失敗することがある

この問題を回避するため、リストアを行う前に、影響を受けるクライアントの WAN Resiliency を無効にしてください。WAN Resiliency を無効にするには、NetBackup 管理コンソールを開いて [マスターサーバー (Master Servers)] の [ホストプロパティ (Host Properties)] > [耐性があるネットワーク (Resilient Network)] にナビゲートします。クライアントを選択し、OFF に設定してください。

2.6 より後のカーネルバージョンで実行している SUSE 11 で起きる問題

ライブ参照とバックアップの問題は 2.6 より後のカーネルバージョンの SUSE 11 オペレーティングシステムで起きる可能性があります。この問題の原因として、NetBackup 7.7 の nbfirescan プロセスが 2.6 より後のカーネルバージョンをサポートしないことが考えられます。

この問題を回避するには、カーネルバージョンを2.6に戻してからスナップショットを作成します。

Windows システムドライブのルートディレクトリにあるいくつかのファイル名により NetBackup が正しく機能しない

c:\¥ のような Windows システムドライブのルートディレクトリに、program という名前のファイルが存在すると、NetBackup は正しく機能しません。このようなファイルは、NetBackup がコマンドラインの実行と作成オプションの処理の前に削除するか、または名前を変更する必要があります。

NetBackup ホスト間の時差によりアクティビティモニターに問題が表示される

マスターサーバー、メディアサーバー、クライアント間の時間は同期されている必要があります。アクティビティモニターの進行状況ログに表示されるイベントが正しい順序で表示されるように同期してください。

マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントが正確に同期されていることを確認してください。このアクティビティモニターは各ジョブ実行の詳細な情報を提供し、メディアサーバーとクライアントプロセスからの情報を出力します。それらのメッセージのタイムスタンプ情報は、メディアサーバーとクライアントが元となります。したがって、正しく同期されていない場合、時間がアクティビティモニターに正しい順序で表示されないことがあります。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 7.7 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Symantec のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.136 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

- NetBackup 管理コンソール
- リモート管理コンソール
- デバイス管理用の文字ベースのメニューインターフェイス

- コマンドライン

アクティビティモニターの情報が正しい順序で表示されないことがある

アクティビティモニターで使われる精度は秒単位で測定されます。NetBackup 7.1 以降では、より多くの情報がアクティビティモニターに出力されます。同じ時点 (秒単位) で生成されるマスターサーバー、メディアサーバー、クライアントのメッセージは、生成された順序で出力されない場合もあります。

[次までログを保持する: GB (Keep logs up to GB)]オプションが有効になっているとログが削除される

ログアシスタントは、デバッグログやその他の情報を Symantec テクニカルサポートにセットアップ、収集、アップロードするのに必要な時間を大幅に短縮できる、有用なツールです。

ログアシスタントツールが NetBackup ログを収集する間に、NetBackup の総ログサイズは増加していきます。[ホストプロパティ (Host Properties)]>[ログ (Logging)]ダイアログボックスの新しい[次までログを保持する: GB (Keep logs up to GB)]オプションが有効で、NetBackup の総ログサイズが最大容量に達した場合は、ログが削除されます。保持を望むログも削除される場合があります。保持すべきログが削除されるのを回避するには、ログアシスタントを使ってログを収集している間、[次までログを保持する: GB (Keep logs up to GB)]オプションを無効にしておく必要があります。あるいは、ログ収集が完了する前に重要なログが削除されないように、[ログの最大保持 (GB) (Keep logs up to GB)]オプションを現在の値より高く設定できます。

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、Java 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合がある

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup Java 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup Java ユーザーインターフェースが HP-UX 11.31 環境で起動できない

NetBackup Java ユーザーインターフェースは、HP-UX 11.31 オペレーティングシステムの実行環境で起動しない場合があります。Java ユーザーインターフェースが正しく起動するには、HP-UX 11.31 オペレーティングシステムへの最新パッチが必要です。

回避策: NetBackup Java ユーザーインターフェースを起動する前に、システムにインストールしている Quality Pack 用の Java™ 8.0 に対して必要な HP-UX 11.31 パッチをインストールする必要があります。詳しくは、次の HP サイトを参照してください。

<ftp://ftp.hp.com/pub/softlib/hpuxjava-patchinfo/index.html>

NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項

NetBackup アクセラレータは、完全バックアップを高速化します。高速化は、クライアント上の変更検出技術によって実現しています。クライアントは、この変更検出技術とクライアントの最新のファイルシステムを使って、前回のバックアップ以降発生した変更を特定します。このトピックでは、NetBackup アクセラレータ バージョン 7.7 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントサーバーの Accelerator バージョンの必要条件

NetBackup アクセラレータは、マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントサーバーが NetBackup 7.5 以上であることを必要とします。NetBackup アプライアンスメディアサーバーはアクセラレータサポートのために NetBackup アプライアンス 2.5 以上を必要とします。

仮想化されたサーバーの Accelerator と Replication Director のサポートは、一緒に設定できない

仮想化されたサーバーに対する NetBackup アクセラレータとレプリケーションディレクタのサポートは一緒に設定することができません。Block Level Incremental のバックアップ設定は現在組み合わせることができません。

Accelerator は VxFS ファイル変更ログをサポートしない

NetBackup Accelerator は VxFS ファイル変更ログをサポートしません。

NetBackup アクセラレータのイメージによっては、bpverify 操作が状態コード 191 で失敗することがある

NetBackup 7.5.0.4 以前を使って作成されたアクセラレータのイメージを検証するために bpverify コマンドを使う場合、検証操作は状態コード 191 で失敗する場合があります。この障害はメディアのイメージの合計サイズがカタログメタデータに記録されたイメージのサイズと一致しない場合に発生することがあります。

この問題は具体的にはカタログメタデータの正しくないイメージサイズに関係します。この問題はイメージの破損を意味しているわけではなく、イメージのリストアを妨げるものでもありません。次のエラーがログに表示されることがあります。

```
/usr/opensv/netbackup/logs/bpdm/112112_00011.log ---
02:32:36.278 [28530] <2> verify_image_fragmentsizes:
validating abcd12.xxxx.xxx.symantec.com:
wxyz.xxx.xxx.symantec.com_1352283783_C1_F1 imo_size=6130472960
613...
(Kbytes=5986790 remainder=512 diff=-512)

02:32:36.280 [28530] <32> verify_image_fragmentsizes:
The size of backup id wxyz.xxx.xxx.symantec.com_1352283783
fragment 1 for copy 1 does not match the size found on
media (6130473472 6130472960)
```

VMware のアクセラレータバックアップが不正なチェックサムのエラーで断続的に失敗する

Windows プロキシの hotadd トランスポート方法を使用する場合、VMware アクセラレータバックアップはステータスコード 84 および incorrect checksum のエラーで断続的に失敗します。

この問題の詳しい情報および回避策については、Symantec サポート Web サイトの以下のパスを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH222588>

有効なストレージユニットグループが認識されないため、アクセラレータポリシーの作成に失敗する場合があります。

有効なストレージユニットグループが認識されないため、NetBackup アクセラレータのポリシー作成に失敗する場合があります。この問題は、異なるホスト名（ドメイン）で NetBackup 管理コンソールをアンインストールしてから再インストールすると発生します。

この問題の詳細と回避策については、Symantec のサポート Web サイトで次の Tech Note を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH209889>

NetBackup の監査に関する操作上の注意事項

監査記録は、NetBackup 環境でユーザーが開始した操作の記録です。基本的に、監査はだれが何をいつ変更したか答えるのに役立つ情報を集めます。このトピックでは、NetBackup 7.7 の監査および監査記録に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

サポートメモ

カタログリストア中に 3 つでなく 2 つのリストア監査レコードが作成される

アクティビティモニターでは、カタログリストアに対して 3 つのリストアジョブが表示されますが、nbauditreport には、リストアに関連している監査レコードが 2 つのみ存在します。各リストアジョブには 3 つのリストア監査レコードが必要です。

コマンドラインインターフェースにバックアップ対象の出力として認識不能な文字が表示されることがある

[バックアップ対象 (Backup selection)] は、監査データベースに UTF-8 エンコード文字列として保存されます。nbauditreport コマンドは UTF-8 エンコード文字列を現在のロケールに変換しません。したがって、コマンドラインインターフェースはバックアップ対象の出力として認識不能な文字を示すことがあります。

親ジョブでの処理では子の監査レコードが生成されない

親ジョブでの処理は対応する子の監査レコードに反映されません。親ジョブで行われる処理のために発生する子ジョブの処理は監査されません。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 7.7 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

複数のカーネルレベルを跨って選択を行うための新しいBMR ユーザープロンプトの追加

複数のカーネルがあるオペレーティングシステムのインストールメディアを使用している Linux クライアントに対して、Bare Metal Restore (BMR) 共有リソースツリー (SRT) を作成したときに適切なカーネルを選択できるユーザープロンプトが追加されました。

たとえば、Oracle Linux 6.4のクライアントを作成するときに次のプロンプトが表示されます。

```
Choose appropriate SRT kernel version for your SRT :
```

1. vmlinuz-2.6.39-400.17.1.el6uek.x86_64
2. vmlinuz-2.6.32-358.el6.x86_64

```
Enter your selection [1] :
```

この例では、デフォルトのカーネルは OracleのLinux UEK カーネル (vmlinuz-2.6.39-400.17.1.el6uek.x86_64) で、SRT にデフォルトで追加されます。要件によって別のカーネルを選択する必要がある場合もあります。この例では、Windows の Hyper-V 仮想マシンで動作している OracleのLinux 6.4 で SRT が作成された場合に Red Hat Enterprise Linux (RHEL) のカーネル (vmlinuz-2.6.32-358.el6.x86_64)を選択する必要があります。BMR のリカバリ後に、サーバーをブートする適切なカーネルを選択する必要があります。

Windows x86 (32ビット版) の NetBackup 7.6.0.2 クライアントは仮想インスタンスコンバータとして使うことができない

BMR P2V (physical to virtual) への変換で、NetBackup 7.6.0.2 Windows x86 (32ビット版) のクライアントを仮想インスタンスコンバータ (VIC) として使うことができません。NetBackup 7.6.0.2 では、Windows x86 の 32 ビット版プラットフォームをサポートしない VMware VDDK 5.5 ライブラリを使うことに注意してください。

レガシーのリストアは Windows 8/Server 2012 以降ではサポートされない

レガシーのリストアは Windows 8/Server 2012 以降ではサポートされません。

ZFS ボリュームの他のファイルシステムはサポートされない

ZFS ボリュームの他のファイルシステムはサポートされません。ZFS ボリューム上にファイルシステムを作成した場合には、BMR は ZFS ボリューム上のそれらのファイルシステムのバックアップとリストアをサポートしません。

BMR では RIS サーバーのリモートインストールフォルダの場所をリストアしない

BMR では、RIS サーバーのリモートインストールフォルダの場所のリストアはサポートされていません。System Only 機能を使用して RIS サーバーをリストアできます。また、クライアント構成を編集したり、リモートインストールフォルダの場所で使用されるボリュームをマップから削除することによっても、RIS サーバーをリストアできます。

NetBackup BMR は IPv4 ネットワーク接続を使わないと IPv6 の情報をリストアできない

NetBackup BMR は IPv6 のみのネットワークではリストアできません。BMR は IPv6 情報のバックアップを作成できますが、リストアするには IPv4 ネットワーク接続が必要です。

不合理なメッセージが RAID1 ボリュームがある RHEL クライアントの BMR のリカバリ中に発生する可能性がある

RAID1 ボリュームが設定されている Red Hat Enterprise Linux (RHEL) クライアントの Bare Metal Restore (BMR) のリカバリ中に、クライアントの画面に次のメッセージを受信することがあります。

```
INFO: task mdadm:<pid> blocked for more than 120 seconds
```

このメッセージを無視しても安全です。このメッセージは、mdadm ユーティリティの処理に時間がかかる場合に表示されます。ユーティリティは最終的に終了し、リストアは正常に完了します。

EFI ブートシステムで Windows クライアントを復元した後に追加の手順が必要になる

EFI ブートシステムを使用した Windows クライアントの復元は、現在のところ Fast Restore SRT オプション使用時のみサポートされ、レガシー復元オプションではサポートされません。PXE ブートを使って EFI ブートシステムをリストアする場合は、ブートマネージャを一時的に BIOS に変更する必要があります。最初のブート時のリカバリプロセスの終了時に、ブートマネージャを UEFI モードに戻します。

ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備している場合、SRT の作成は失敗することがある

ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備している場合に、下位の OS の更新を含む Bare Metal Restore (BMR) 共有リソースツリー (SRT) の作成が、カーネルパッチ ID の検査が原因で失敗することがあります。この問題は、Solaris

10 Update 11 に以前の Solaris 10 の更新時の ID より小さい値のカーネルパッチ ID があるために起きます。

回避策: Solaris 10 update 11 BMR ブートサーバーのカーネルパッチを更新します。Oracle Solaris からの提供されたカーネルのバグ修正パッチを適用することによって、カーネルを更新できます。Solaris 10 update 11 のカーネルのバグ修正パッチは、パッチ数を他のパッチより大きい数値に修正することでこの問題を修正しています。

Solaris 11 以降で devfsadmd エラーが発生することがある

Solaris 11 以降で BMR をリストアすると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
devfsadmd not responding. /dev may not be correct
```

BMR リストア時に、devfsadmd デーモンに関連するサービスは /dev リンクと /devices リンクを操作するために一時的に停止します。その結果、オペレーティングシステムが devfsadmd デーモンと内部通信しようとするエラーメッセージが生成されます。

これは BMR に関するメッセージではなく、BMR リストアやシステム全体に影響しません。メッセージは無視できます。BMR のリストア後にシステムをブートすると、devfsadmd デーモンが再起動し、メッセージは再度表示されません。

システムブート中や BMR の初回ブート中に Solaris 11 の多くのサービスが警告メッセージを表示する

Solaris 11 以降で初回ブート時に BMR をリストアすると、複数のサービスに関するエラーメッセージが表示されます。

システムブート時と BMR の初回ブート時に、多くのサービス (sendmail など) が次の警告メッセージを出力します。

```
sendmail/filesys_update failed
```

これらのメッセージは、システムにオペレーティングシステムを標準インストールするときにも表示されますが、無視できます。

BMR の初回ブート時にコンソールに表示される他のメッセージは、zpool と Solaris ゾーンの再設定に関連します。これらはすべて無害なメッセージで、システムのリストアや、zpool と zones を正しい状態にするのには影響しません。

これらは、SMF サービスのメッセージです。システムリカバリには影響しません。

BMR のリストア後の初回ブート時に、Solaris 11 以降の Solaris ゾーンリカバリを再構成するまでに時間がかかる

Bare Metal Restore (BMR) リストア操作後の初回ブート時に、BMR は `detach-attach` コマンドを使ってゾーンを再設定します。多数のゾーンを設定する必要がある場合は、これらのコマンドの実行に時間がかかることがあります。BMR `first boot` コマンドの完了後に、`zpool`、`zones`、`ZFS` の設定が新しい設定で安定するまでに時間がかかることがあります。

システムが正しい設定状態になるまで、初回ブート後に約 10 分間 (ゾーン数によってはさらに長く) 待機します。完全にリカバリするまでシステムを再起動したり、ゾーンにログインしないでください。

テキストインストーラのパッケージがカスタマイズされた AI ISO 内に存在しない場合、Solaris BMR のリストア操作に失敗する

テキストインストーラパッケージが配布コンストラクタを使って作成されたカスタマイズ済み AI (Automated Installer) ISO 内に存在しない場合は、Solaris Bare Metal Restore (BMR) のリストア操作に失敗します。

共有リソースツリー (SRT) の作成に配布コンストラクタを使って作成されたカスタマイズ済み AI ISO を使う場合は、テキストインストーラパッケージを AI のマニフェストファイルから削除しないでください。

Solaris x86 の場合は、BMR リストアがこのパッケージのファイルを使うのでテキストインストーラパッケージが必須です。

クライアントを仮想マシンに変換にした後、OS の構成に時間がかかる

Windows で Bare Metal Restore (BMR) クライアントから仮想マシンへのバックアップ変換が発生し、変換した VM を初めてブートすると、この問題が起きます。この時間中に、Windows は自動的に新しいハードウェアのための OS の設定を行います。この自動設定のアクティビティにはおよそ 1 分から 4 分かかります。

Windows の設定が完了するまでしばらく待機してから VM で OS を再起動してください。このアクティビティはのダイアログまたは Windows のステータスペインで確認することができます。

RHEL の暗号化ファイルファイルシステムを BMR でリストアすると、暗号化なしでリストアされる

バックアップファイルシステムが Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 用に暗号化されている場合、そのシステムを BMR オプションでリストアすると、既存の暗号化が解除されます。

/etc/mke2fs.conf ファイルをリストアすると、アクティビティモニターにリストアタスクが部分的に完了したと表示される

/etc/mke2fs.conf ファイルをリストアすると、[アクティビティモニター (Activity Monitor)] にリストアタスクが部分的に完了したと表示されます。この問題は、クライアントの Bare Metal Restore (BMR) リカバリが正常に完了した場合も、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6 Update 2 以降で発生します。この問題は、ファイルがリストアされた後、BMR 環境で /etc/mke2fs.conf ファイルのセキュリティプロパティに不適切な設定が含まれることにより発生します。

BMR リストア中に ZFS の一時マウントが失敗する

Bare Metal Restore 中 (BMR) のリストア中に、Zeta ファイルシステム (ZFS) の一時マウントが失敗します。この問題は、バックアップ中にいずれの ZFS もマウントされなかった場合や、canmount の値が OFF に設定された場合に発生します。

ディスクまたはディスクプールを制限するには、BMR の構成を編集します。この編集によって、リストアプロセス中にディスクが上書きされたり、そこに含まれているデータが消去されないようにします。

構成の編集方法について詳しくは、『Bare Metal Restore 管理者ガイド』の次のセクションを参照してください。

- クライアントおよび構成の管理
- クライアント構成プロパティ

RHEL 6 で BMR リストアを実行すると問題が発生することがある

Bare Metal Restore (BMR) Linux のリストアタスクの完了後、GRUB メニューの検索時にシステムが「カーネルパニック」を表示することがあります。最初の再起動中、システムが「メンテナンスモード」に入ることもあります。これらの問題は UDEV デーモンが動的にデバイスを検出し、再起動中にディスク名とさまざまな構成ファイルの順番に矛盾を引き起こすことで発生します。

この問題が起きた場合は Symantec のサポートに問い合わせ、サポート担当者は TECH201332 と TECH179048 の TechNote を参照してください。

RHEL システムで基本サーバーインストールを実行している場合、BMR がメディア SRT の作成に失敗する

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) システムに Bare Metal Restore (BMR) の基本サーバーインストールを実行すると、メディアの共有リソースツリー (SRT) の作成に失敗します。この問題は、ISO の作成に使われるコマンドを含んでいるパッケージが見つからないために発生します。RHEL クライアントの標準デスクトップインストールでは、この問題は発生しません。

この問題を解決するには、見つからないパッケージを手動でインストールする必要があります。パッケージは `genisoimage-1.1.9-11.el6.x86_64` と類似のファイルです。このファイルをインストールした後、`bmrstadm` コマンドを使ってメディア SRT を作成できます。

BMR リストア後の初回起動中にすべてのファイルシステムのラベルが付け替えられる

BMR リストアの後で最初の起動の間に、システムがすべてのファイルシステムに再びラベルを付けた後、Linux オペレーティングシステムはコンピュータを再起動します。

これは SELinux に関連する、必要なプロセスです。

- ラベルは、セキュリティコンテキストがファイルと関連付けられ、ファイルの拡張属性の一部として保存される方法です。SELinux を無効にしてシステムが起動された場合、これらのラベルが誤って削除されるか、または同期しなくなる可能性があります。
- これは通常、初めて SELinux 用にファイルシステムにラベルを付けるときにのみ発生します。BMR のリストアの間に、ファイルシステムが新しく作成されるので、最初の起動の間にファイルシステムに初めてラベルが付けられます。

複数のデバイスに基づく OS 構成では /boot パーティションが独立したパーティション上にならない

クライアントがマルチデバイスの下でルート (/) として構成されている場合、正常な BMR リストアのためには、/boot パーティションが別のパーティション上にある必要があります。つまり、/ と /boot が同じパーティションにある場合、複数デバイスベースの OS 構成に対してサポートされません。

ZFS ストレージプールを使ったクライアントのリストア後、初回のブート中に、複数のエラーメッセージが表示されることがある

ZFS ストレージプールを持つクライアントのリストア後の初回のブートの間に、複数のエラーメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。

```
SUNW-MSG-ID: ZFS-8000-D3, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Major
EVENT-TIME: Mon May 23 13:10:09 CDT 2011
PLATFORM: SUNW,Sun-Fire-V215, CSN: -, HOSTNAME: bmrso1101.vxindia.veritas.com
SOURCE: zfs-diagnosis, REV: 1.0
EVENT-ID: c257eb38-495e-cdb6-9a52-a4d9c2ae38be
DESC: A ZFS device failed. Refer to http://sun.com/msg/ZFS-8000-D3 for more information.
AUTO-RESPONSE: No automated response will occur.
IMPACT: Fault tolerance of the pool may be compromised.
REC-ACTION: Run 'zpool status -x' and replace the bad device.
```

コンピュータの各ディスクで、エラーメッセージが発生することがあります。ただし、ログオンして `zpool status -x` コマンドを実行する、次のメッセージが表示されます。

```
all pools are healthy
```

これは、初回ブートシーケンスの間に行われる ZFS インポート操作のためです。Bare Metal Restore (BMR) は BMR リストア環境内のストレージプールと内容をリストアし、後で初回ブート中にクライアント環境にインポートします。これにより、初回ブート操作の間にエラーメッセージまたは警告メッセージが表示される場合があります。

これらのメッセージは初回ブート操作の間にのみ発生し、安全に無視できます。

BMR が ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しないことがある

Dissimilar Disk Restore (DDR) 中に少数のディスクに ZFS ストレージプールを作成するよう選択した場合、Bare Metal Restore (BMR) 残りのディスクの ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しません。そのため、それらのディスクを使って他のストレージプールを作成しようとする、ディスクが ZFS ストレージプールで使用中であることを示すエラーメッセージが表示されることがあります。

この問題を回避するには、`-f` オプションを使ってそれらのディスクに新しいストレージプールを作成します。

BMR でサポートされた 2 つのマルチパスソリューションを共存させると問題が生じることがある

Bare Metal Restore (BMR) がサポートする 2 つのマルチパスソリューション (EMC PowerPath と Linux ネイティブマルチパス) を 1 つのクライアントに共存させて両方をアクティブに構成すると、問題が発生する可能性があるため、BMR ではサポートされていません。

EMC PowerPath 名を使ってマルチデバイスを SAN ディスク上に構成し、SAN ディスクが EMC PowerPath と Linux Native マルチパスの両方にあると、BMR の問題が起きることがあります。さらに、この構成はサポート外です。ただし、同じマルチデバイスが Linux ネイティブマルチパス名を使って SAN ディスク上に構成されている場合は、BMR で動作します。

内部ディスクと SAN ディスク間で Linux DDR シナリオを実行している間に BMR のリストアに失敗することがある

内部ディスクから SAN ディスクに、またはその逆方向に Linux Dissimilar Disk Restore (DDR) シナリオを実行している場合、Bare Metal Restore (BMR) リストアに失敗することがあります。

BMR は BIOS でのディスク順序を考慮しません。SAN ディスクから内部システムディスクへの場合、BIOS でのディスク順序変更のため、リストアが期待どおりに動作しないことがあります。この問題は、GRUB のインストールではいっそう一般的です。

リストアの前に SAN ディスクを取り外すと、既存の BIOS 順序でリストアが正しく動作することがあります。

ディスクの命名が原因で Citrix XenCenter 仮想化で BMR バックアップに失敗することがある

Bare Metal Restore (BMR) は、hdX、sdX、cxDn などのディスク命名規則のみをサポートできます。

BMR バックアップは、次の理由により Citrix XenCenter 仮想化では失敗する場合があります。

- BMR は、Citrix XenCenter 仮想化で新しく導入された xvdx などのディスク名を認識しません。この問題は、この種類の仮想環境に導入された Xen 準仮想ドライバが原因です。
- SLES11SP1 などの Linux システムがサポートする新しいバージョンの BMR の場合、クライアントコンピュータは hda と sda のディスク命名規則を同時に示します。BMR はこの動作をサポートしていません。
この問題を回避するには、[その他 (Other)] のメディアインストールを使ってください。BMR が Citrix XenCenter 仮想マシンでサポートするテンプレートはこれのみです。また、BMR がサポートしないシステムを使わないでください。たとえば、BMR は Citrix XenCenter 仮想化では SLES11SP1 と RHEL6.1 以降をサポートしません。

SFW がインストールされている Windows 2008 R2 システムによっては、NetBackup システム状態のバックアップに失敗することがある

Storage Foundation for Windows (SFW) 5.1 SP1 がインストールされている Windows Server 2008 R2 システムによっては、NetBackup システム状態のバックアップに失敗することがあります。この問題は、システム予約パーティションにドライブ文字が割り当てられていないシステムで発生しました。この問題は、次の SFW 5.1 SP1 Hotfix で解決されます。

sfw-Hotfix_5_1_10064_584_2496270

<https://sort.symantec.com/patch/detail/5438>

この問題は SFW 5.1 SP2 CP7 でも解決されます。

自動イメージレプリケーションおよび BMR を使って保護する場合のクライアントの短縮名の指定

自動イメージレプリケーションおよび Bare Metal Restore (BMR) を使って保護したいコンピュータに NetBackup クライアントパッケージをインストールする場合には、クライアントの短縮名を指定する必要があります。また、プライマリドメインに作成したバックアップポリシーにも、クライアントの短縮名を指定する必要があります。このポリシーはすべてのクライアントのローカルドライブをバックアップし、BMR が必要とするクライアント構成を収集します。二次または三次ドメインの DNS は、ディザスタリカバリサイトでのクライアントの BMR リカバリ中に完全修飾名を解決することができません。

クライアントリストアの成功後もリストアタスクがディザスタリカバリドメインに完了状態で保持されることがある

プライマリとディザスタリカバリのドメイン名が異なる Dissimilar Domain Restore を実行すると、リストアタスクはクライアントのリストアの成功後も、ディザスタリカバリドメインに完了状態で保持されます。Bare Metal Restore (BMR) リストアはディザスタリカバリドメインで正常に実行されますが、リストアタスクの更新のみが失敗します。

この更新は、クライアントに無効なネットワーク構成がある場合に失敗します。このリストアはディザスタリカバリドメインの DNS に関連する構成ファイルを変更しないため、これは予期される動作です。

次のネットワーク構成ファイルを手動で変更し、ディザスタリカバリドメイン内のクライアントをバックアップおよびリストアする必要があります。

- Solaris の場合:
 - /etc/hosts
 - /etc/resolv.conf
 - /etc/nodename
 - /etc/bge0.hostname
- AIX の場合:
 - smitty を実行して、ネットワーク構成を変更します。
- HP-UX の場合:
 - HP のシステム管理ホームページ (SMH) を使って、ネットワーク構成を修正します。
- Linux の場合:
 - /etc/hosts
 - /etc/resolv.conf
 - /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth*
- Windows の場合:
 - 次の URL を参照して、Windows のドメイン名を変更します。

- <http://windows.microsoft.com/en-US/windows7/Connect-your-computer-to-a-domain>
- <http://support.microsoft.com/kb/295017>

HP-UX 11.31 IA64 で SRT を作成するために必要なパッチ

HP-UX11.31 IA64 プラットフォームで Bare Metal Restore (BMR) 共有リソースツリー (SRT) を作成するには、PHCO_40961 パッチが必要です。

Veritas Storage Foundation パッケージ (VxVM、VxFS) がインストールされている HP-UX 11.31 IA64 プラットフォームで BMR SRT を作成するには、同じパッチが必要です。

BMR の IPv6 サポート。

Bare Metal Restore (BMR) は、IPv4 のみのネットワーク、IPv6 のみのネットワーク、または IPv4-IPv6 デュアルスタックネットワークを介して通信できるクライアントを保護します。多くの NW ブートプロトコルは IPv6 チャンネルではサポートされていないため、BMR のリカバリは IPv4 ネットワークでのみサポートされます。さらに、bmrsetupmaster コマンドで BMR データベースを構成するときは、BMR マスターサーバー IPv4 アドレスを有効にして、マスターサーバーのホスト名で解決できるようにする必要があります。bmrsetupmaster が正常に実行された後は、IPv6 アドレスを使う場合にのみ IPv4 アドレスを停止できます。

BMR のリストアの間、マスターサーバーとメディアサーバーは有効になっている IPv4 アドレスを必要とします。

例

bmrsetupmaster は、BMR マスターの IPv4 アドレスを解決する際、BMR データベースへのレコード作成中に失敗することがあります。BMR データベースの作成に失敗するため、BMR マスターは機能しません。

この問題を解決するには、bmrsetupmaster コマンドを実行する前に、マスターサーバーの IPv4 ベースの IP が有効になっていて、NetBackup マスターサーバーの名前で解決できることを確認してください。

BMR のバックアップは IPv6 ネットワークチャンネルでサポートされますが、BMR のリストアは IPv4 チャンネルでのみ正常に実行されることに注意してください。

VxFS7 ベースのファイルの作成中にエラーが発生することがある

Bare Metal Restore (BMR) のリストア中に、VxFS7 ベースのファイルの作成プロセスでエラーが発生する場合があります。この問題を回避するには、bmrstadm を使ってバージョン 5.0 の VxFS バージョンにパッチを適用し、SRT を編集します。リストアを再試行し、クライアントのリストアを開始します。

リストア後に HP-UX の自動ブートに失敗することがある

Bare Metal Restore (BMR) のリストア後、クライアントコンピュータの初回のブート時にオペレーティングシステムの自動ブートに失敗する場合があります。その後 HP BIOS はブートドライブを識別できなくなります。

この問題を解決するには、[HP BIOS]>[EFI]シェルを使い、デバイスマッピングテーブルを確認してブートに使うことができるハードディスクドライブ (fs0: など) を選択します。

オペレーティングシステムを手動でブートするために、ディレクトリを ¥EFI¥HPUX¥ に変更して (cd)、HP-UX を実行します。

メモ: EFI シェルを処理する方法については、HP EFI のマニュアルを参照してください。

クライアントコンピュータが起動したら、コンピュータに root としてログオンし、次のコマンドを実行して自動ブートを有効にします。

```
setboot -p <hardware_path_of_boot_harddrive>
```

Solaris クライアントのリストア準備が機能しないことがある

Bare Metal Restore (BMR) ブートサーバーがクライアントコンピュータの IPv4 アドレスの解決に失敗したため、Solaris クライアントコンピュータの BMR のリストア準備が正常に実行されない場合があります。

この問題を回避するには、次を実行します。

- IPv4 アドレスとして、client_host_name マッピングエントリが /etc/hosts に最初に存在し、その後に IPv6 マッピングエントリがあることを確認してください。
Solaris BMR ブートサーバーでは、/etc/hosts ディレクトリに最初に IPv6 アドレス client_host_name エントリが含まれていると、BMR ブートサーバーはクライアント IPv4 アドレスの識別に失敗します。
- [リストア準備 (Prepare To Restore)]を再度実行します。

CLI の bmrsetupmaster を使って AIX で BMR マスターサーバーを構成する場合に問題が発生することがある

コマンドラインインターフェース (CLI) で bmrsetupmaster を使って、AIX プラットフォームで NetBackup 7.0 以降の Bare Metal Restore (BMR) マスターサーバーを構成すると、問題が発生する可能性があります。この問題は、システムのスタックサイズ、データセグメントのサイズ、およびメモリの最大サイズの ulimit パラメータの設定値が小さすぎるため発生します。その結果、BMR データベースへの入力が行われる間、データ解析が失敗します。

この問題が発生した場合は、次の手順を実行して `ulimit` パラメータを「Unlimited」に変更し、`bmrsetupmaster` を再び実行します。

- BMR マスターサーバーで `ulimit -a` コマンドを実行します。このコマンドによってシステムリソースの限度が出力されます。
- `stack size`、`data seg size`、および `max memory size` の各パラメータに使用されている現在の制限設定を確認します。
- 次のコマンドを使ってパラメータを `unlimited` に設定します。
 - `ulimit -s unlimited`
 - `ulimit -d unlimited`
 - `ulimit -m unlimited`
- `bmrsetupmaster -redo` を実行して BMR マスターサーバーを構成します。
システムの `/etc/security/limits` ファイルを操作することによって、永続的にリソース制限を変更できます。

Linux クライアントでは、BIOS のディスク順序が正しくない場合、リストアが正常に実行された後の初回のブートに失敗することがある

Linux クライアントでは、BIOS のディスク順序が次のようになっていない場合、リストアが正常に実行された後の初回のブートに失敗することがあります。

プライマリのマスター > プライマリのスレーブ > セカンダリのマスター > セカンダリのスレーブ

たとえば、現在使用中のクライアントのディスク順序が次のような場合があります。

- `/dev/sdd (hd0)` [セカンダリのスレーブ]
- `/dev/sda (hd1)` [プライマリのマスター]
- `/dev/sdb (hd2)` [プライマリのスレーブ]
- `/dev/sdc (hd3)` [セカンダリのマスター]

ただし、リストア環境のディスク順序は次のように見えることがあります。

- `/dev/sda (hd0)`
- `/dev/sdb (hd1)`
- `/dev/sdc (hd2)`
- `/dev/sdd (hd3)`

したがって、リストア中に、`/dev/sda` が `hd0` であると想定されて、ブートローダーが `/dev/sda` にインストールされることがあります。その後、初回のブート時に、BIOS に指定

されているディスク順序のため、/dev/sdd は hd0 にマッピングされ、初回のブートが失敗します。

この問題を回避するには、リストアを行う前に、BIOS のディスク順序をプライマリのマスター > プライマリのスレーブ > セカンダリのマスター > セカンダリのスレーブになるように設定します。

旧バージョンのクライアントへのリストア

7.x 以上のバージョンの NetBackup クライアントを含んでいる共有リソースツリー (SRT) を使って、旧バージョンの NetBackup クライアントをリストアできます。

元のクライアントの重要でない、または非システムの ZFS ストレージプールが使用不可になることがある

「システムのみ」のリストアの後、元のクライアントの重要でない、または非システムの ZFS ストレージプールが、使用不可または誤った状態になる場合があります。

この問題の詳細については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH179039>

ZFS ルートプール内のスペアデバイスおよびキャッシュデバイスが使用不可になることがある

ZFS ルートプールの Bare Metal Restore (BMR) リストア後、ZFS ルートプール内のスペアデバイスおよびキャッシュデバイスが使用不可になることがあります。

この問題の詳細については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH179040>

ZFS ファイルシステムのマウントエラー

最初のブート後、ZFS ファイルシステムのマウントエラーに関連する問題が発生する場合があります。

この問題の詳細については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH179042>

代替ブート環境を含む ZFS ルートプールがクライアントにある場合、Solaris クライアントの BMR リストアに失敗することがある

代替ブート環境を含む ZFS ルートプールがクライアントにある場合、Solaris クライアントの Bare Metal Restore (BMR) リストアに失敗することがあります。

この問題の詳細については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH179043>

NetBackup クラウドの操作上の注意事項

NetBackup Cloud Storage では、クラウドの STaaS (Storage as a Service) ベンダーからデータをバックアップ、リストアできます。NetBackup Cloud Storage は Symantec OpenStorage と統合されています。この項では、NetBackup 7.7 の NetBackup クラウドに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Verizon クラウドストレージサーバーで、NetBackup で作成されたバケットがサポートされない

Verizon クラウドストレージサーバー用にディスクプールを設定するときに、バケットまたはボリュームを追加するための [Add Volume] オプションを利用できます。しかし、Verizon では、NetBackup で作成されたバケットがサポートされません。Verizon ポータルでのバケットの作成について詳しくは、Verizon クラウドプロバイダに問い合わせてください。

暗号化が有効な日立社のクラウド設定で、合成 (TIR) バックアップが状態コード 87 で失敗する

日立社のクラウド設定で暗号化オプションを有効にしている場合には、TIR (True Image Restore) または合成バックアップは機能しません。TIR または合成バックアップを正常に実行するには、日立社のクラウドポータルを通じて、バケット (または名前空間) のバージョン管理オプションを有効にする必要があります。バージョン管理オプションを有効にする方法について詳しくは、日立社のクラウドプロバイダに問い合わせてください。

NetBackup クラウドでサポートされないプラットフォームでのマスターサーバーのインストールによって、クラウドストレージサーバーの設定の問題が発生することがある

NetBackup クラウドでサポートされないプラットフォーム (Solaris x86 や Windows 2008 など) にマスターサーバーがインストールされた場合は、クラウドストレージサーバーの設定中に次の問題が発生することがあります。

NetBackup がクラウドストレージでサポートするオペレーティングシステムについては、NetBackup オペレーティングシステム互換性一覧を参照してください。次の URL から入手できます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

- NetBackup 7.7 メディアサーバーを使った場合は、既存の Amazon S3、AT&T、Rackspace クラウドストレージサーバー上でのバックアップ、復元、ストレージサーバーのプロパティ設定とその他の操作が失敗します。
ただし、NetBackup 7.7 より前のバージョンのメディアサーバーを使った場合は、既存の Amazon S3、AT&T、Rackspace クラウドストレージサーバー上での NetBackup のバックアップ、復元、ストレージサーバーのプロパティ設定とその他の操作が成功します。
- どのクラウドプロバイダについても、クラウドストレージサーバー設定は成功しません。

Solaris x86 マスターサーバーの場合には、この問題を回避するために次の手順を実行します。

- NetBackup 7.7 クラウドサポートされたメディアサーバーを `cloud_master_server_host` として特定します。
- このメディアサーバーで進めても、CloudProvider.xml ファイル (すべてのサポートされるクラウドストレージプロバイダの詳細情報を含む) のマスターコピーは保持されません。このファイルは、すべてのメディアサーバーで、クラウドストレージの設定中や、バックアップ、復元などの操作の実行中に必要になります。
- すべての NetBackup 7.7 クラウド対応メディアサーバー (`cloud_master_host` として選択されたものを含む) で、次のコマンドを実行します。

```
nbcssc-t-a NetBackup  
nbcssc-s-a NetBackup-mcloud_master_host-f
```
- `cloud_master_host` からの `cloudstore.conf` ファイルで述べられているように、`CSSC_PORT` と `CSSC_IS_SECURE` の値が `CSSC_MASTER_PORT` と `CSSC_MASTER_IS_SECURE` として、他のすべての NetBackup 7.7 (クラウド対応) メディアサーバーの `cloudstore.conf` ファイルにコピーされていることを確認します。
- `cloud_master_host` を選択したら、他のメディアサーバーを指すように名前をもう一度変更しないように注意してください。特定のシナリオでそれがなくなった場合は、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。

注意: Windows 2008 では、クラウドストレージのサポートを有効にするための回避策がありません。サポート対象のクラウドプラットフォームがあるマスターサーバーを選択する必要があります。

IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 が実行されているホストで Rackspace プラグインが使われている場合、ネットワーク接続問題が発生することがある

Rackspace のプラグインが IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 を実行するホストで使われているとき、NetBackup にネットワーク接続の問題が発生する場合があります。Rackspace のプラグインを使う Windows Server 2008 R2 のホストでは IPv6 を無効にすることを推奨します。

NetBackup クラスタの操作上の注意事項

クラスタはアプリケーションおよびデータの高可用性を実現します。クラスタでは、2 台以上のサーバー (ノード) がネットワークでリンクされます。これらのサーバーではクラスタソフトウェアが実行され、共有ディスクに各ノードがアクセスできます。この項では、NetBackup 7.7 のクラスタ技術に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

クラスタ化された環境では、仮想名を IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方に解決することはできない

環境がクラスタ化されている場合、クラスタ環境では、単に 1 つのアドレスである仮想名を使って高可用性リソースが定義されます。そのアドレスは、可用性の高い IPv4 アドレスまたは可用性の高い IPv6 アドレスにできます。解決するとその両方になる仮想名を設定することはできません。

NetBackup クラスタのインストールに関する注意事項

7.5 での、UNIX クラスタの ssh コマンド

UNIX の ssh コマンド

NetBackup 7.5 以降では、UNIX クラスタは ssh コマンドを実行できます。ssh コマンドの root ユーザー向けガイドラインは、rsh コマンドのガイドラインと同じです。

UNIX クラスタのアップグレード順序

UNIX クラスタノードのアップグレード順序

NetBackup 7.5 以降では、非アクティブノードまたはアクティブノードのどちらを先にアップグレードするかを選択できます。

7.1 のインストールまたは 7.1 へのアップグレード前に VCS Windows 用のパッチ 278307 をインストールする

VCS Windows (SFW-HA 4.1、SFW-HA 4.2) では、NetBackup 7.1 のインストールまたは NetBackup 7.1 へのアップグレードを実行する前に、パッチ 278307 がインストールされていることを確認することをお勧めします。詳しくは、Symantec社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH43003>

仮想名を使ってサーバーにログオンする

NetBackup 管理コンソールを起動するときには、NetBackup と関連付けられた仮想名を使ってサーバーにログオンする必要があります。

NetBackup アクセス制御はクラスタサーバー環境で設定できる

NetBackup アクセス制御 (NBAC) はクラスタサーバー環境で設定できます。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH51483>

Solaris 以外の UNIX クラスタでのインストールまたはアップグレード後に、リソースのオフラインタイムアウトを増やす

Solaris クラスタ以外の UNIX クラスタで NetBackup をインストールまたはアップグレードしたら、NetBackup リソースのオフラインタイムアウトを少なくとも 600 秒に増やしてください。

クラスタ化されたサーバーを 7.0 にアップグレードする場合の通常のエラーメッセージ

クラスタ化された NetBackup サーバーをバージョン 7.0 にアップグレードすると、Sybase サービス (SQLANY) を開始できなかったことを示す Windows のイベントログメッセージが表示されることがあります。これらのメッセージは短時間で生成されます (通常は 2、3 秒でウィンドウが 1 つ)。これらのメッセージは、アップグレードのクラスタ構成部分と一致します。これらのメッセージを想定しておき、それらがアップグレードの問題を反映しないことを把握しておく必要があります。

NetBackup VCS エージェントの引数が挿入されない

新しい SFW (Storage Foundation for Windows) VCS クラスタに NetBackup 7.6 をインストールするときに、NetBackup VCS エージェントの引数が挿入されません。その結果、インストール後に VCS は NetBackup サービスグループを正常に ONLINE にできず、サービスグループはオフラインの状態が表示されます。詳細と回避手順については、Symantec社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH213303>

Solaris クラスタの NetBackup リソースグループのチューニングパラメータ

Solaris クラスタで NetBackup をインストールまたはアップグレードする場合は、正常にフェールオーバーされるように、NetBackup リソースグループのチューニングパラメータを次のように変更します。

- STOP_TIMEOUT パラメータを、デフォルトの 300 秒から 600 秒以上に増やします。
- pmf Retry_count パラメータを 0 に設定します。

これらの変更を実行するには、次のコマンドを使います。

- # scrgadm -c -j scnb-hars -y Retry_count=0
- # scrgadm -c -j scnb-hars -y STOP_TIMEOUT=600
- # scswitch -n -j scnb-hars
- # scswitch -e -j scnb-hars

メモ: これらのコマンドを実行すると、NetBackup がシャットダウンして再起動します。

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup には、Oracle、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server といったさまざまなデータベースやアプリケーション技術を保護するためのいくつかの方法が用意されています。このトピックでは、NetBackup 7.7 のデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for DB2 の操作上の注意事項

NetBackup for DB2 は、DB2 のデータベースのバックアップおよびリカバリ機能と NetBackup のバックアップおよびリカバリ管理機能を統合します。このトピックでは、NetBackup 7.7 の NetBackup for DB2 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

bprestore ログディレクトリが存在しない場合は、DB2 バージョン 10 以降で ROLLFORWARD 操作が失敗することがある

NetBackup bprestore ログディレクトリが存在しない場合は、DB2 バージョン 10 以降で ROLLFORWARD 操作が失敗することがあります。

USEREXIT プログラムを使って DB2 アーカイブログを保護している場合にリストアと ROLLFORWARD 操作を実行すると、ロールフォワードに失敗することがあります。

回避策: NetBackup bprestore ログディレクトリ
 (/usr/openv/netbackup/logs/bprestore) を手動で作成します。

NetBackup for Exchange と NetBackup for SharePoint の操作上の注意事項

NetBackup for Exchange Server と NetBackup for SharePoint Server は、NetBackup の機能を拡張して、Exchange と SharePoint データベースのオンラインバックアップとリストアを提供します。このトピックでは、NetBackup 7.7 の NetBackup for Exchange と NetBackup for SharePoint に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

詳細なリストアで、チェックアウトしたバージョン付き文書やファイルをスキップする

SharePoint 2010 と SharePoint 2013 では、文書やファイルがバージョン管理で有効になっていてバックアップ時にチェックアウトされると、このような文書やファイルの詳細なリストアはスキップされます。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

サイトコレクションのリストア時に、修正したシステムファイルや非実体化ファイルがカタログ登録またはリストアされない

サイトコレクションのリストア時には、修正済みシステムファイルや修正済み非実体化ファイルはカタログ登録もリストアもされません。この問題は SharePoint 2013 で観察されます。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

リストアされた wiki ページが正しくない可能性があります

wiki サイトのページをリストアするのに GRT (Granular Recovery Technology) を使うと、リストアされた内容が正しくない場合があります。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

ブログポストの SharePoint GRT リストアを実行するとコメントが孤立する

個別リカバリテクノロジー (GRT) を使用して SharePoint 2013 のブログポストをリストアするとコメントはリストアされますが、適切なブログポストにリンクされていません。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

DAG のノードからリストアを開始した場合に DAG バックアップの状態が空になることがある

データベース可用性グループ (DAG) バックアップのデータベースや個別項目をリストアする場合は、バックアップ、アーカイブ、リストア (BAR) インターフェースでリストアの状態が空になることがあります。DAG のノードからリストアを開始した場合、状態は空になります。アクティビティの状態を適切に表示するには、アクティブ DAG ノードまたは NetBackup サーバーからリストアを開始してください。

DAG 環境でのユーザー主導バックアップを現在アクティブになっていない DAG のノードから開始すると失敗する

データベース可用性グループ (DAG) 環境で仮想 DAG 名が現在アクティブではない DAG のノードからユーザー主導バックアップを開始すると失敗します。

回避策: アクティブ DAG ノードからユーザーバックアップを開始するか、または NetBackup マスターからバックアップを手動で開始して適切にバックアップを始めます。

SharePoint アプリケーション対応 VMware イメージの GRT ライブ参照エラー

プライマリ VM 識別子が NetBIOS 名 (表示名または UUID など) ではない VMware SharePoint アプリケーション対応バックアップのライブ参照を実行するとき、client SP2010 のようなクライアント名は client%20SP2010 になります。結果は、SharePoint ライブ参照がデータベースシステムエラーとともに失敗します。これは client%20SP2010 が有効なクライアント名として認識されないためです。

この問題を回避するには次を利用します。

- NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)] > [ホストプロパティ (Host Properties)] > [マスターサーバー (Master Server)] > [分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)] にエントリを追加します。ここで、プライマリ VM 識別子はアプリケーションホストの名前、フロントエンドクライアント名はコンポーネントホストの名前です。
マスターサーバーで NetBackup 管理コンソールを使用して [分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)] の下でプライマリ VM

識別子を追加できない場合、手動でエントリを追加します。UNIX マスターサーバーでは、bp.conf ファイルに SPS_REDIRECT_ALLOWED エントリを追加します。Windows マスターサーバーでは、SPS_REDIRECT_ALLOWED レジストリエントリを追加します。

NetBackup for Microsoft Active Directory の操作上の注意事項

NetBackup for Active Directory により、Active Directory 全体のリストアではなく、Active Directory の個々のオブジェクトおよび属性をリストアできます。このトピックでは、NetBackup 7.7 の NetBackup for Active Directory に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

削除済み Active Directory ユーザーアカウントの GRT リストアでは無効な状態でリストアされる

削除された Active Directory ユーザーアカウントの個別 (GRT) リストアを実行すると、ユーザーアカウントは無効になります。[組み込み (Built-in)] フォルダのユーザーアカウントは影響されません。

この問題を回避するには、[Active Directory ユーザー (Active Directory Users)] > [コンピュータ (Computers)] を開き、手動でアカウントのパスワードをリセットし、アカウントを有効にします。

SQL Server の圧縮バックアップイメージを単一のストライプとして、または複数のストライプを含むイメージとしてリストアすると、SQL Server のリストアが失敗する

この問題は、SQL Server が圧縮データのバッファによりビジー状態で、特定の時間内に送信されたデータをすべて処理できない場合に発生します。Windows Server ではデフォルトで、TCP 接続は TCP 接続状態が 2 分間 FIN_WAIT_2 に設定された後に閉じる必要があります。詳しくは、次の Microsoft 記事を参照してください。

<https://support.microsoft.com/en-us/kb/923200/>

メモ: TCPFinWait2Delay 値が存在しない場合、REG_DWORD レジストリ値としてその値を作成する必要があります。そうしないと、Windows はデフォルト値 240 を使います。

TCP 接続が FIN_WAIT_2 状態を維持する時間を増やす方法

- 1 NetBackup メディアサーバーで regedit.exe を開きます。
- 2 次のレジストリサブキーを見つけて選択します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters

- 3 TCPFinWait2Delay をダブルクリックします。

- 4 300 の値を入力します。
- 5 メディアサーバーを再起動します。
- 6 リストアが正常に完了したら、レジストリ設定を削除するか、設定を元の値に戻します。

この設定の値を増やす場合は、すべての TCP/IP 接続に対して悪影響を及ぼします。値を増やすことにより、メディアサーバーで実行している他のアプリケーション用のポートが不足する場合があります。

- 7 メディアサーバーを再起動します。

NetBackup 重複排除に関する注意事項

NetBackup は、必要なかぎりデータソースに近い任意の場所でデータを重複排除できるいくつかの重複排除オプションを提供します。任意の場所での重複排除では、バックアップ処理のどの時点で重複排除を実行するかを選択できます。NetBackup は、NetBackup 重複排除エンジンを使用する環境の重複排除を管理できます。この項では、NetBackup 7.7 の NetBackup 重複排除エンジンに関する注意事項および既知の問題について説明します。

MSDP の互換性に関する最新情報については、次の場所で『NetBackup Enterprise Server and Server OS Software Compatibility List』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

新しいバージョンの NetBackup では MSDP 重複排除データベースを大幅に修正する可能性がある

NetBackup の新しいバージョンは、場合によっては基になる MSDP 技術に大幅な変更をもたらす場合もあります。このような種類の変更は、多くの場合にアップグレード時やアップグレード後に MSDP 重複排除データベースを大幅に修正することになります。このような種類の変更例には、NetBackup 7.1 の LZO 圧縮への切り替えや NetBackup 7.6 や 7.6.1 で導入されたデータベース変換があります。

国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 7.7 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (マスターサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名

データベースエージェントとアプリケーションエージェントでは、サポート対象のすべてのプラットフォームについて、ローカライズされた環境のサポートが制限される

データベースとアプリケーションエージェントでは、すべてのサポート対象プラットフォームのローカライズされた環境のサポートが制限されています。

これらのどのエージェントを使用する場合も、次のような名前には非 US ASCII 文字を使用できません。

- あらゆるデータベースオブジェクト名。たとえば、データベース、テーブル領域、ファイルグループ、データファイル、ポータルなど。
- データベースファイル、ディレクトリ、トランザクションログ、または他のデータベースストレージの場所のあらゆるパス名。
- ポリシーバックアップ選択項目で指定されたあらゆるパス名。たとえば、通知スクリプト、テンプレート、またはバッチファイルなど。

英語版と同じバージョンレベルではない言語パックを実行しない

英語版とレベルが異なる言語パックの実行は推奨されません。たとえば、英語版の NetBackup 7.7 では NetBackup 7.6 の言語パックを実行しないでください。インストール済みの言語パックがある場合には、英語版をアップグレードする前に削除するようにしてください。

NetBackup LiveUpdate の操作上の注意事項

NetBackup LiveUpdate は、ポリシーに基づいたクロスプラットフォーム方式を提供して、バージョン 6.5 以降の NetBackup ホストに NetBackup リリース更新とホットフィックスのダウンロードを配布します。NetBackup 7.1 以降では、NetBackup LiveUpdate は NetBackup クライアントのメジャーリリースとマイナーリリースへのアップグレードもサポートします。この項では、NetBackup 7.7 の LiveUpdate に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

LiveUpdate には、OpenVMS (UNIX) または Novell のオペレーティングシステムとの互換性がない

NetBackup LiveUpdate は、OpenVMS (UNIX) または Novell のオペレーティングシステムと互換性がありません。

LiveUpdate を使って NetBackup 7.7 のインストールまたはこのバージョンへのアップグレードを試みると、対象ホストに互換性のないバージョンの Java JRE がインストールされていることが原因で失敗することがある

LiveUpdate を使って NetBackup 7.7 をインストールまたは NetBackup 7.7 にアップグレードしようとする、対象ホストに互換性のないバージョンの Java JRE をインストールしていることが原因で失敗する可能性があります。

Java LiveUpdate (JLU) エージェントは Java JRE の最小バージョンがインストールされていることを必要とします。ほとんどの UNIX プラットフォームで、NetBackup はこの最小必要条件以上の Java JRE バージョンを配信します。ただし、Java はいくつかの特定

の UNIX プラットフォーム用 NetBackup インストールパッケージに含まれなくなりました。これらのパッケージのいずれかで NetBackup をアップグレードすると、以前に NetBackup がインストールした Java バージョンが削除されます。

プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの一部として LiveUpdate エージェントがインストールされない

プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの一部として LiveUpdate エージェントをインストールしません。LiveUpdate エージェントをインストールする場合は、ローカルホストに LiveUpdate のバイナリをコピーして LiveUpdate エージェントを手動でインストールすることを推奨します。LiveUpdate のバイナリは次の場所から入手できます。

```
¥¥<dvd_root>¥Addons¥<platform>¥LiveUpdate
```

LiveUpdate のインストール方法について詳しくは、『NetBackup LiveUpdate ガイド』を参照してください。

メモ: この問題が多数のコンピュータに影響する場合、LiveUpdate エージェントをインストールするために Altiris などのサードパーティのアプリケーションを使うことができます。

LiveUpdate を使って HP PA-RISC クライアントを NetBackup 7.6 にアップグレードするときのエラー

NetBackup LiveUpdate を使って HP PA-RISC クライアントを NetBackup 7.6 にアップグレードするとき、このクライアントを次のように設定しているとエラーが起きる可能性があります。

- /dev/random ディレクトリおよび/dev/urandom ディレクトリが存在している。
- デフォルトシステム Java の JDK/JRE レベルが、バージョン 1.6.0 から 1.6.0.16 まの間である。
JDK/JRE の現在のバージョンレベルを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
java -version
```

LiveUpdate を使って HP PA-RISC クライアントを NetBackup 7.6 にアップグレードしたい場合には、2 つある次のオプションのどちらかを実行すると、この問題を回避できます。

- オプション 1:
デフォルトシステム Java のセキュリティファイル (たとえば、/opt/java6/jre/lib/security/java.security) で、次のように変更を行います。

```
securerandom.source=file:/dev/urandom
```

目的:

```
securerandom.source=file:/dev/random
```

■ オプション 2:

デフォルトシステム Java の JDK/JRE レベルを、バージョン 1.6.0.16 以降にアップグレードします。

この問題が発生した場合には、次のエラーテキストが

/opt/Symantec/LiveUpdate/liveupdt.log ファイルに記録される場合があります。

```
<date> <time> Attempt to load guard and signature files failed  
because initialization of the security libraries failed  
<date> <time>  
<date> <time> The Java LiveUpdate session did not complete  
successfully.  
<date> <time> Return code = 233
```

You should make sure that /usr/opencv/java/jre/bin/java is a symbolic link to the default system Java binary. 前に挙げた 2 つのオプションのいずれかを実行するか、または失敗した NetBackup LiveUpdate ジョブを再実行します。

NetBackup ログアシスタントの操作上の注意事項

このトピックでは、今回リリースされた NetBackup のログアシスタントに関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup 管理コンソールでログレベルを変更すると、グローバルログレベルと VxUL デバッグレベルが変更されることがある

NetBackup 7.6 の特定の条件下では、NetBackup 管理コンソールでログレベルを変更するとグローバルログレベルと VxUL デバッグレベルを意図せずに変更してしまう場合があります。このような変更は、情報が想定どおりにログに記録されない原因になります。

メモ: NetBackup 7.6 にアップグレードすることで、ログ記録が正常に機能し続けます。アップグレードではログレベルが変更されることはなく、問題は起こりません。

この問題の詳細と回避策については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH212610>

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 7.7 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NDMP 多重化 (MPX) リストアが過度のログメッセージを生成したことが原因で、アクティビティモニターがハングアップすることがある

NetBackup NDMP 多重化 (MPX) リストアが、bptm ログに多すぎる数のメッセージを生成したことが原因で、bptm プログラムやアクティビティモニターがハングアップすることがあります。この問題は NON_MPX_RESTORE touch ファイルが NetBackup マスターサーバーに存在する場合に起きます。この問題は、UNIX と Windows 両方のプラットフォームの NDMP MPX リストアにのみ該当します。

この問題の回避策は、Symantec 社のサポート Web サイトにある次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH207556>

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の set type=tar 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、Symantec社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH202412>

NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項

NetBackup OpsCenter は Web ベースのソフトウェアアプリケーションで、これを使用すると組織のデータ保護環境での表示が可能になります。NetBackup OpsCenter を使用すると、包括的なレポートを生成し、バックアップ操作の効果を追跡できます。このトピックでは、NetBackup 7.7 の OpsCenter に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

メモ: OpsCenter は NetBackup Operations Manager (NOM) と Veritas Backup Reporter (VBR) を 1 つにまとめたもので、Symantec NetBackup OpsCenter と Symantec NetBackup OpsCenter の 2 つのバージョンで利用可能です。NetBackup 7.0 以降、NOM は OpsCenter に置き換えられています。現在の NetBackup 環境に NOM または VBR が含まれている場合は、OpsCenter の新しいバージョンにアップグレードする前に、まず OpsCenter 7.0 または 7.1 にアップグレードする必要があります。

OpsCenter のアップグレードについて詳しくは、『NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

OpsCenter で NetBackup 6.x をサポートしない

バージョン 7.6.1 以降では、NetBackup OpsCenter は NetBackup 6.x をサポートしなくなりました。

database.conf がデフォルト以外のインストール場所で上書きされる

NetBackup OpsCenter 7.6 または 7.6.1 にアップグレードするときにデフォルト以外の場所にインストールしたい場合は、バックアップディレクトリとは異なるインストールディレクトリを選択します。両方のディレクトリが同じであると database.conf (バックアップファイル) が上書きされ、OpsCenter サービスを開始しません。

NetBackup 7.6 での、NetBackup OpsCenter のブランド設定と名前の変更

NetBackup 7.6 では、NetBackup OpsCenter のブランド設定と名前が次のように変更されました。

- Symantec OpsCenter が、Symantec NetBackup OpsCenter に変更されました。
- Java View Builder が、Symantec NetBackup OpsCenter Analytics View Builder に変更されました。

NetBackup 7.6 のサポート変更

次のリストには、NetBackup 7.6 で変更された Symantec NetBackup OpsCenter のサポートの一部が含まれています。

- NetBackup OpsCenter サーバーは、HP-UX 11.31 IA64 でサポートされなくなりました。
- NetBackup OpsCenter サーバーは、AIX 6.1 と 7.1 64 ビットの POWER でサポートされなくなりました。

alert.conf の水準点の別のしきい値を設定できない

alert.conf ファイルの水準点のしきい値はグローバル設定で、ディスク空きなしのアラートポリシーで選択されたすべての NetBackup マスターサーバーのすべてのディスクプールに適用されます。異なるマスターサーバーまたは異なるアラートポリシーに異なるしきい値を設定できません。

詳しくは、次のシマンテック社の HOWTO を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/HOWTO94997>

メモ: メモ: ディスクプールの空き領域なしアラートポリシーを設定するとき個々のディスクプールを選択すると、アラートは生成されません。個々のディスクプールではなくマスターサーバーを選択する必要があります。

言語パックが原因で、OpsCenter を 7.1 または 7.5 から 7.6 にアップグレードできない

64 ビットの Windows システムでは、OpsCenter の言語パックまたはメンテナンスリリース (三重ドット) がバージョン 7.1 またはバージョン 7.5 に対してインストールされていると、OpsCenter 7.6 へのアップグレードが失敗する場合があります。たとえば、OpsCenter 7.5 をバージョン 7.5.0.6 にアップグレードすると、OpsCenter 7.6 へのアップグレードが失敗する場合があります。

アップグレード手順と回避手順については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH211070>

メンテナンスリリースを完全にアンインストールできない

OpsCenter ソフトウェアをアンインストールしても Windows の Maintenance Release を完全にアンインストールできない場合があります。OpsCenter Maintenance Release が Windows システムプログラムのアンインストーラに表示されたままとなることがあります。

この問題の詳細と回避策については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH211299>

Web ブラウザによって決定されたレポートのエクスポート先の場合

[設定 (Settings)] > [構成 (Configuration)] > [レポートのエクスポート先 (Report Export Location)]を選択することで、スケジュールされたレポートの保存場所が決まります。ただし、OpsCenter コンソールの[レポートのエクスポート (Export Report)]を選択する場

合、Web ブラウザ設定によりエクスポートの場所が決まります。例: [Firefox] > [オプション] > [一般] > [次のフォルダに保存する]で指定された場所により、スケジュールされていないレポートの保存場所が決まります。

アンパサンドが原因で編集できない

アンパサンド (&) を含んでいる OpsCenter のユーザー名は、バージョン 7.6 へのアップグレード後に編集できません。アップグレード後にパスワードのリセット、ユーザーロールの有効化、無効化、変更などのユーザー編集を実行すると、失敗する場合があります。バージョン 7.6 の新規インストールの場合、ユーザーパスワードのリセットのみが禁止されます。いずれの場合も、次のメッセージが表示されて編集が失敗します。

```
Error performing User action.
```

パスワードのリセット操作の間、ユーザー名はアンパサンドの前の文字のみが表示されます。

NetBackup 2.6 アプライアンスの追加と監視

OpsCenter 7.6 では、NetBackup 2.6 アプライアンスを追加し、監視できます。また、アプライアンスから特定のハードウェア情報を収集できます。

Internet Explorer を使った OpsCenter コンソールへのアクセス

32 ビットの Windows コンピュータで Internet Explorer バージョン 6、7、8 のいずれかを使って OpsCenter コンソールにアクセスするには追加の手順が必要となります。詳しくは、次の場所から利用可能な『NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』の「Web ブラウザの注意事項について」を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

Korn シェルがインストールされていないと UNIX システム上の OpsCenter にログインできない

UNIX システムへの OpsCenter 7.6 のインストールまたはアップグレードでは、OpsCenter 7.6 サーバーをインストールまたはアップグレードするホスト上に Korn シェル (ksh) がインストールされていることを確認してください。

警告: インストールまたはアップグレードの前に ksh がインストールされなかった場合には、OpsCenter Web インターフェースにログオンできない場合があります。

サーバーに到達できないことが原因でクラウドの計測データの収集が失敗する

クラウドクレデンシャルが確立された 1 つ以上のメディアサーバーが、何らかの理由によりクラウドストレージサーバー (データムーバー) にできない場合は、クラウド測定データの収集が失敗する可能性があります。

回避策: 到達不能なメディアサーバーから `tpconfig` を使用して、マスター上のすべてのクラウドのストレージサーバーから、そのメディアのクレデンシャルを削除します。クラウド測定データの収集が正常に動作します。収集に失敗したメディアサーバーのクラウド測定データもすべて収集できる状態になります。

View Builder でオブジェクトがアタッチされたノードを移動するときそのノードが一時的に表示されなくなる

OpsCenter Analytics View Builder で、ノードを移動するときそのノードに割り当てられたオブジェクトが存在する場合は、移動操作の後にそのオブジェクトが表示されなくなる場合があります。この場合、オブジェクトは一時的に表示されなくなりますが、一定時間が経過すると表示されます。

この問題を回避するために、しばらく待機した後に View Builder に再度ログインして表示を更新することを推奨します。

メモ: オブジェクトはビュービルダーで再表示されるまでに数時間または 2、3 日かかることがあります。

ストレージユニットパスが 256 文字を超えるとデータ収集が失敗する

NetBackup OpsCenter 7.6 以前のリリースでは、指定したベーシックディスクストレージユニット (STU) のパスが 256 文字を超えると、OpsCenter によるデータ収集が失敗します。問題を回避するためには、256 文字以下のストレージユニットパスを作成する必要があります。

[アクセラレータジョブのみ含める (Include Accelerator Job Only)] が選択されているとレポートが空になる

バージョン 7.5 または 7.5.0.x の NetBackup マスターサーバーに、[アクセラレータジョブのみを含める (Include Accelerator Job Only)] フィルタが適用された場合に、特定のレポートではデータがまったく表示されません。これらのレポートでは、アクセラレータデータに関連する列を含む表形式のバックアップレポートまたはカスタムレポートが使われています。NetBackup Accelerator のサポートが有効なのは NetBackup OpsCenter 7.6 であるため、レポートにデータが表示されません。

この問題を回避するため、NetBackup 7.5 または NetBackup 7.5.0.x を実行しているマスターサーバーのレポートについては、NetBackup OpsCenter 7.6 では、[アクセラレータジョブのみを含める (Include Accelerator Job Only)] フィルタを適用しないでください。

参照機能は IE8 でサポートされない

Operational Restore の参照機能は、Internet Explorer 8 の一部の製品バリエーションでは使用できません。Operational Restore の参照機能を使う場合には、Internet Explorer 9 以降または Firefox を推奨します。

クライアントの参照と選択機能で、NetApp ボリュームが Replication Director VM バックアップのクライアント名として表示される

OpsCenter のリストアで、クライアントの参照と選択 機能を実行すると、Replication Director VM バックアップのクライアント名として NetApp ボリュームが表示されます。この選択ではファイルが表示されません。ファイルおよびディレクトリを参照したり、リストア操作を実行するには、実際の VM クライアント名を選択する必要があります。

サポート対象外の EV、TSM、EMC サーバーからデータを収集できない

OpsCenter 7.6 では、EV、TSM、または EMC サーバーからのデータを収集できません。したがって、これらの製品のためのレポートを生成できません。また、OpsCenter の Web インターフェースまたは OpsCenter View Builder インターフェースを使用して、EV、TSM、または EMC NetWorker 固有のデータを表示することもできません。OpsCenter 7.6 にアップグレードした場合 (または手動でデータベースをアップグレードした場合) には、EV、TSM、または EMC 固有のデータが保持されます。OpsCenter Web インターフェースのカスタム SQL オプションを使用してこのデータを取り込むことができます。カスタム SQL オプションを使用するためには、[レポート (Reports)] > [レポートの新規作成 (Create New Report)] > [SQL クエリーの実行 (Run SQL Query)] にナビゲートしてください。

OpsCenter 7.6 での製品サポートについて詳しくは、『NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

database.conf には、データベースの場所を表す文字列だけが含まれている必要がある

OpsCenter データベースのアップグレードの間に、database.conf ファイルをカスタマイズする場合は、データベースの場所を表す文字列だけが含まれていることを確認してください。ファイルにデータベースの場所を表す文字または文字列以外が含まれている場合は、データベースアップグレードは成功しません。データベースのパスを変更したい場合、元のパスをコメントアウトするのではなく、元のパスを新しいパスに置き換える必

要があります。参照が必要な場合は、変更前の `databases.conf` のバックアップコピーを異なるファイル名で作成できます。

この問題について詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

- <http://www.symantec.com/docs/TECH205138>

添付ファイルのサイズが大きすぎるとレポートの電子メールが配信されない

レポートが一括モードでスケジュールされているときに、レポートの電子メールを受信できない場合があります。

レポートの電子メールの添付ファイルのサイズが SMTP サーバーの限度を超過した場合は、レポートの電子メールを受信できません。

新しいユーザーがログオンするまでそれらのユーザーにアラートを割り当てることができない

OpsCenter 7.6 では、新たに追加された OpsCenter ユーザーにアラートを割り当てることができません。[割り当て先 (Assigned To)] 列の[監視 (Monitor)] > [アラート (Alerts)] ページに、新しいユーザーが表示されません。新しいユーザーが[割り当て先 (Assigned To)] 列に表示されるようにするには、最初に OpsCenter にログオンする必要があります。ユーザーが列に表示されれば、そのユーザーにアラートを割り当てることができます。

[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)] に新しいユーザーが表示されない

[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)] ドロップダウンリストに、新しく作成されたユーザーが表示されません。

この問題を回避するには、新しく作成されたユーザー名で OpsCenter にログインし、ログアウトする必要があります。少なくとも 1 度ログオンすることによって、新しいユーザー名が[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)] に登録されます。[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)] ドロップダウンリストにもユーザー名が表示されるようになります。

サーバーパスワードに HTML 文字が含まれていると Backup Exec のデータ収集が失敗する

Backup Exec サーバーのパスワードに、&、<、>、または / などの HTML 文字が含まれている場合に、OpsCenter の Backup Exec データコレクタに対して編集を行うと、データ収集が失敗します。

問題を解決するためには、次のいずれかの回避策を使用できます。

- Backup Exec サーバーのパスワードを HTML 文字を使用しないパスワードに変更します。
- Backup Exec のデータコレクタの既存のエントリを削除し、新しいエントリを追加します。

OpsCenter Monitor の[ファイルリスト (File List)]タブに実行中のジョブが表示されない

OpsCenter Monitor でジョブを表示すると、実行中のジョブが[ファイルリスト (File List)]タブに表示されません。

OpsCenter 7.5 以降では、ジョブが処理中のときには、[ファイルリスト (File List)]タブには表示されません。[ファイルリスト (File List)]タブには、正常に完了したジョブだけが読み込まれます。

サブグループ名に特殊文字が含まれているとユーザーが認可されない

特殊文字が含まれたサブグループに属するユーザーが認可されません。

サブグループの名前に特殊文字がある場合は、親またはグループチェーンの名前が返されず、認可に失敗します。親またはグループチェーンの名前は、親のいずれかが OpsCenter ユーザーであるかどうかを判断するために必要です。そのため、「PD_#QE%」などの特殊文字を含むサブグループに属するユーザーは認可されません。

サードパーティユーティリティを実行した後に、JAVA_HOME 変数または JRE_HOME 変数が未定義になる

OpsCenter をインストールした後、Tomcat の version.sh などのサードパーティユーティリティを実行すると、次のエラーメッセージが表示されます。

‘Neither the JAVA_HOME nor the JRE_HOME environment variable is defined’

この問題が発生した場合は、次の回避策を使用します。

- Windows の場合: OpsCenter のインストール後に、最初に setEnv.bat コマンドを実行し、次にサードパーティユーティリティを実行する必要があります。
setEnv.bat のパスは `INSTALL_PATH\OpsCenter\server\bin` です。
- UNIX の場合: OpsCenter のインストール後に、最初に setEnv.sh コマンドを実行し、次にサードパーティユーティリティを実行する必要があります。
setEnv.sh のパスは `<INSTALL_PATH>/SYMCOpsCenterServer/bin` です。

メモ: `version.sh/bat` ファイルは Tomcat のスクリプトですので、修正しないでください。Tomcat および JRE のバージョンを確認するには、`setEnv.sh/bat` ファイルを実行し、次に `version.sh/bat` ファイルを実行する必要があります。

[監視 (Monitor)] インターフェースと[ビュー (Views)] インターフェースのエントリが重複する

特定の場合、クライアントの重複エントリが[監視 (Monitor)]および[ビュー (Views)]インターフェースに表示されます。

この問題は次のいずれかの場合で見られます。

- NetBackup のマスターサーバーが、1 つ以上のポリシーでクライアントとして使われている。
- NetBackup マスターサーバーを完全修飾ドメイン名 (FQDN) で参照する NetBackup ポリシーがある一方で、短縮名で参照するポリシーもあります。
- マスターサーバーの実際の名前と OpsCenter で使われるネットワーク名または表示名が一致しない。

次に、この問題の例を示します。

NetBackup マスターサーバーの実際の名前は `abc.xyz.com` です。OpsCenter で使われるネットワーク名または表示名は `xyz` です。

この場合には、`abc.xyz.com` が 1 つ以上の NetBackup ポリシーのクライアントとして使われていると、このクライアントの重複エントリが次の OpsCenter 画面に表示されます。

- [監視 (Monitor)] > [ホスト (Host)] > [クライアント (Client)]
- [設定 (Settings)] > [ビュー (Views)] > [ノードおよびオブジェクトの管理 (Manage Nodes and Objects)] > [選択したビューに存在しないオブジェクト (Objects not in selected view)]

OpenStorage 警告ポリシーが設定されていると、各ボリューム用に警告の電子メールが生成される

OpenStorage アラートポリシーが構成されている場合、OpsCenter は各ボリュームにアラート(電子メール)を生成します。

この問題を回避するには、[イベントメッセージに含まれている単語数 (Event message contains word(s))]の選択に提供されているフィールドで、テキストを指定してボリューム形式のアラートをフィルタ処理することができます(たとえば「ボリューム名あり」、「どのボリュームについても保護されていない」、など必要に応じて)。OpsCenter は NTAP のイベントに[イベントメッセージに含まれている単語数 (Event message contains word(s))]の選択で指定されたテキストが含まれるときのみアラートを生成します。

ポート 1556 が双方向に開かれていないと、マスターサーバー上でジョブ収集が失敗する

マスターサーバーからの OpsCenter のジョブ収集は、ポート 1556 が NetBackup と OpsCenter の両側で双方向に開かれていないと失敗する可能性があります。

Windows の 64 ビットソフトウェアのサポート

OpsCenter 7.5 以降では、Symantec OpsCenter Agent が Windows システムの 64 ビットソフトウェアをサポートします。32 ビットの Agent ソフトウェアは、バージョン 7.5 以降の Windows 64ビットシステムでサポートされません。インストーラは、64 ビットの Windows システムには自動的に 64 ビットの Agent ソフトウェアをインストールします。

キャパシティライセンスレポートの実行

NetBackup 7.7 でキャパシティライセンスレポートを実行するには、各マスターサーバーに対してユーザー名とパスワードが必要となります。7.5.0.5 より前のバージョンの OpsCenter に追加されたすべてのマスターサーバーのレポートを正常に実行するには、さらに他の手順が必要になります。各マスターサーバーのユーザー名とパスワード資格情報は NetBackup の構成設定で手動で入力する必要があります。クレデンシャルが構成設定に追加されない場合、レポートの実行時にユーザー名およびパスワードエラーが戻ります。

さらに、キャパシティライセンスを正しく動作させるために、次の TechNote を参照し、指定された EEB をインストールします。

<http://www.symantec.com/docs/TECH148678>

SFR タイムラインのデータ形式が「不明」と示される

OpsCenter で収集されたイメージの場合は、データが不足しているため、SFR 時系列ビューでデータ形式が[不明 (unknown)]と表示されます。

OpsCenter では、異なるタブまたはウィンドウからの同一ユーザーセッションに対して同時に複数のレポートを作成または編集することができない

OpsCenter は、異なるタブまたはウィンドウからの同一ユーザーセッションに対して同時に複数のレポートを作成または編集することができません。同じ OpsCenter コンソールを複数のブラウザタブまたはウィンドウで開いて、同時に標準およびカスタムレポートを作成または編集できません。これにより、例外が発生する可能性があります。

レポート対象がストレージユニット名に設定されていると、重複排除レポートにデータが表示されない

[レポート対象 (Report On)] パラメータを [ストレージユニット名 (Storage Unit Name)] として選択した場合、複製レポートにはデータが表示されません。

VMware と Hyper-V での検索操作と復元操作

VMware クライアントまたは Hyper-V クライアントでは、クライアント名がホスト名と同じであるときにのみ検索とリストアの操作を実行できます。クライアント名が表示名、UUID、DNS 名と同じである場合は、検索機能のみ利用可能です。この場合はリストア操作を実行できません。次の表に、クライアント名がホスト名、表示名などであるときに検索とリストアの機能が利用可能かどうかの詳細を示します。

Client Name Type	Search	Restore
Host Name	Yes	Yes
Display Name	Yes	No
UUID	Yes	No
DNS Name	Yes	No

OpsCenter のインストールと配備に関する情報とベストプラクティス

次のリストは OpsCenter のインストールとベストプラクティスについての情報を含んでいます。

- ホスト名に下線文字 (_) があるサーバーにインストールされている場合は、OpsCenter インターフェースにログオンできないことがあります。この問題を回避するには、opshost のように OpsCenter サーバーホスト名に下線文字が含まれていないことを確認します。
- リモートホストからマウントされている場所への OpsCenter コンポーネントのインストールはサポートされていません。

50 を超える項目を含むファイル選択リストは OpsCenter に表示されない

50 を超える項目を含んでいるファイル選択リストは OpsCenter に表示されません。

OpsCenter Analytics カスタムレポートの特定のジョブ ID に対し、分割ジョブデータは、50 のジョブディレクトリでのみ利用できます。これは、NetBackup ポリシーまたはジョブが 50 を超えるバックアップ対象に関連付けられている場合に、データは 50 のバックアップ対象に対してのみ利用可能であるためです。NetBackup ユーザーインターフェースは、それ以降 (50 を超えた) のバックアップ対象のデータを切り捨てます。

VBR を使うと、ジョブまたはポリシーに関連するすべてのジョブディレクトリの分割ジョブ情報を表示できます。これは、VBR のデータ収集が nbsl 経由ではなく CLI で発生するからです。

OpsCenter は分割ジョブをパージするオプションを提供しない

VBR とは異なり、OpsCenter は分割ジョブをパージするオプションを提供しません。VBR コンソールでは、[設定 (Settings)]>[グローバル設定 (Global Settings)]>[データ保持 (Data Retention)] セクションから特定の分割ジョブをパージできます。

アンインストールが取り消されるか、または割り込まれた場合は、アンインストールスクリプトが削除される

アンインストールスクリプトは OpsCenter サーバーまたはエージェントのアンインストールプロセスが取り消されるか、または割り込まれた場合に削除されます。

OpsCenter サーバーまたはエージェントのアンインストールプロセスが UNIX 上で取り消されるか割り込まれると、アンインストールスクリプト (uninstallOpsCenterServer と uninstallOpsCenterAgent) は /opt/VRTS/install から削除されます。OpsCenter サーバーを再びアンインストールする場合には、OpsCenter の DVD からアンインストールスクリプトを使うことができます。

複数の結果セットがあるストアドプロシージャの一部の結果セットが表示されないことがある

複数の結果セットがあるストアドプロシージャを実行するとき、インターフェースには最初の結果セットの出力のみが表示されます。他の結果セットの出力はインターフェースに表示されません。

Windows での仮想ホスト名の文字数制限

Windows 上ではクラスタテクノロジーによる仮想名の文字数が限定されます。

仮想ホスト名は、15 文字未満の省略名 (FQDN ではない) である必要があります。

一部のレポートは完全および増分スケジュール形式のジョブのみを考慮する場合がある

[スケジュール/レベルの形式 (Schedule/Level Type)] フィルタに値 [すべて (All)] を適用すると、次のレポートでは完全および増分スケジュール形式のジョブのみが考慮されます。

- 詳細な成功率 (Advanced Success Rate)

- 失敗したすべてのバックアップ (All Failed Backups)
- 連続失敗レポート (Consecutive Failures Report)
- 成功率ライン (Success Rate Line)

NetBackup OpsCenter を手動でオンラインにする必要がある

NetBackupOpsCenter リソースは OpsCenter クラスタをインストールした後オフラインになります。

Windows 2008 R2 x64 システムに OpsCenter クラスタをインストールした後、手動で NetBackupOpsCenter リソースをオンラインにする必要があります。コマンドラインインターフェースまたはクラスタユーザーインターフェースを使用して、NetBackupOpsCenter リソースをオンラインにすることができます。

次のコマンドを使うことができます。

```
hares -online <リソース名> -sys <アクティブノードの名前> 例: hares -online
newonelatest-OpsCenter -sys OPS-CLUSTER-1
```

Windows システムに log.conf ファイルがない

Windows システムでは、log.conf ファイルは正しく作成されません。そのため、vxlogview は No logs to be displayed というメッセージを返します。

OpsCenter GUI (OID-147) とインフラコンポーネント (OID-761) のログを表示するために次のコマンドを使います。

- OpsCenter GUI:
 - `<INSTALL_PATH>%OpsCenter%server%bin%vxlogview -p 58330 -o 147 -G`
 - `<INSTALL_PATH>%OpsCenter%gui%logs`
- インフラコンポーネント:
 - `<INSTALL_PATH>%OpsCenter%server%bin%vxlogview -p 58330 -o 761 -G`
 - `<INSTALL_PATH>%OpsCenter%gui%logs`

OpsCenter のオブジェクトの結合ユーティリティがマスターサーバーで失敗する

OpsCenter のオブジェクトの結合ユーティリティはマスターサーバーでは失敗します。

OpsCenter のオブジェクトの結合ユーティリティ ([設定 (Settings)]>[構成 (Configuration)]>[オブジェクトの結合 (Object merger)]) はマスターサーバーでは動作しません (失敗します)。オブジェクトの結合ユーティリティはクライアントとメディアサーバーで動作します。

カスタム表形式バックアップとカスタムクライアント数のレポートでデータが戻されない

[カスタム表形式バックアップとカスタムクライアント数 (Custom Tabular Backup and Custom-Client count)] レポートは VBR からのアップグレード後データを戻しません。

[カスタム表形式バックアップとカスタムクライアント数 (Custom Tabular Backup and Custom-Client count)] レポートは VBR から OpsCenter にアップグレードした後データを戻しません。

この問題を回避するには、アップグレードの完了後に手動でフィルタ設定を変更して適切なレポートデータを取得する必要があります。次の手順に従ってフィルタ設定を変更します。

- レポートを開いて、[レポートの編集 (Edit Report)]を選択します。
- [フィルタ (Filters)] セクションから、[ジョブ (Job)]を選択します。
- [列 (Column)] ドロップダウンメニューから、[製品の種類 (Product Type)]を選択します。デフォルトの演算子は等号文字、[=]です。
- [値 (Value)] ドロップダウンリストから、VBR に対して選択したものと同一製品の種類を選択し、[追加 (Add)]をクリックします。
- [次へ (Next)]をクリックして、レポートを表示します。変更を行った後は、レポートに正しいデータが表示されます。
- レポートを保存します。

NetBackup のアップグレード後に、OpsCenter サーバーがマスターサーバーからのイベントの受信を停止する

OpsCenter サーバーが、NetBackup のアップグレード後にマスターサーバーからのイベントの受信を停止することがあります。

次のすべての条件に当てはまる場合、UNIX システムの `bp.conf` ファイルまたは Windows システムのレジストリに `OPS_CENTER_SERVER_NAME` エントリを追加して、OpsCenter のサーバーの名前を設定する必要があります。アップグレードを試みる前にこのエントリを追加することを推奨します。

- `REQUIRED_INTERFACE` がマスターサーバーに構成されている。
- OpsCenter サーバーがマスターサーバーを監視する。

- OPS_CENTER_SERVER_NAME エントリがマスターサーバーに構成されていない。
このエントリを追加しないと、OpsCenter サーバーはアップグレード後にマスターサーバーからのイベントの受信を停止する可能性があります。

[監視 (Monitor)]>[ホスト (Hosts)]>[クライアント (Clients)] ページからクライアントを検索できる (属性では検索できない)

VBR のパリティを保持するために OpsCenter の機能が強化されました。

[監視 (Monitor)]>[ホスト (Hosts)]>[クライアント (Clients)] ページからクライアントを検索できるようになりました。ホスト名または部分文字列を使って検索できます。

ただし、検索できるのはクライアントのみであり、CPU 数、CPU 速度、検出されたエージェントサーバーなどの他の属性は検索できません。

ジョブ数作業負荷アナライザの合計規則

[ジョブ数作業負荷アナライザ (Job Count Workload Analyzer)] では、選択されている単位時間が [実行中 (Active)] の場合、表示される数の合計が最初の列に表示される合計と異なります。これは、ジョブが実行中で、複数時間の時間枠にわたっている可能性があるため、予想された動作です。したがって、同じジョブがすべての時間でカウントされます。ただし、最初の列の数は対象となる 7 日間に実行中だったジョブの正確な数を示します。これは、単位時間が [開始 (Start)] または [終了 (End)] で実装されている場合とは異なります。この場合、セルに表示される数の合計は最初の列に表示される数と一致します。

NOM から OpsCenter にアップグレードすると、マスターサーバーのジョブスループットのレポートが出力なしで表示される

NOM から OpsCenter にアップグレードすると、[マイダッシュボード (My Dashboard)] にレポートが出力されない状態で [マスターサーバーのジョブのスループット (Master Server Job Throughput)] レポートが表示されます。このレポートが SQL 問い合わせベースのレポートであり、ダッシュボードに移行されない複合レポートの一部であるためです。

OpsCenter の履歴サポートでの夏時間のサポート

OpsCenter での履歴サポートでの夏時間 (DST) のサポート

履歴レポートのデータが夏時間が始まる時間の間に同期された場合、分散型データベースシステムで問題が起きることがあります。ユーザーはまたデータを失う場合があります。

回避策として、世界時 (UTC) をタイムゾーンとして使うか、または夏時間がないタイムゾーンを使ってください。

タイムゾーンを設定するには、『Symantec OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

OpsCenter 7.0.x から 7.x にアップグレードする際に、[インストール選択 (Installation Choice)] 画面でシステムドライブの使用可能領域が表示される

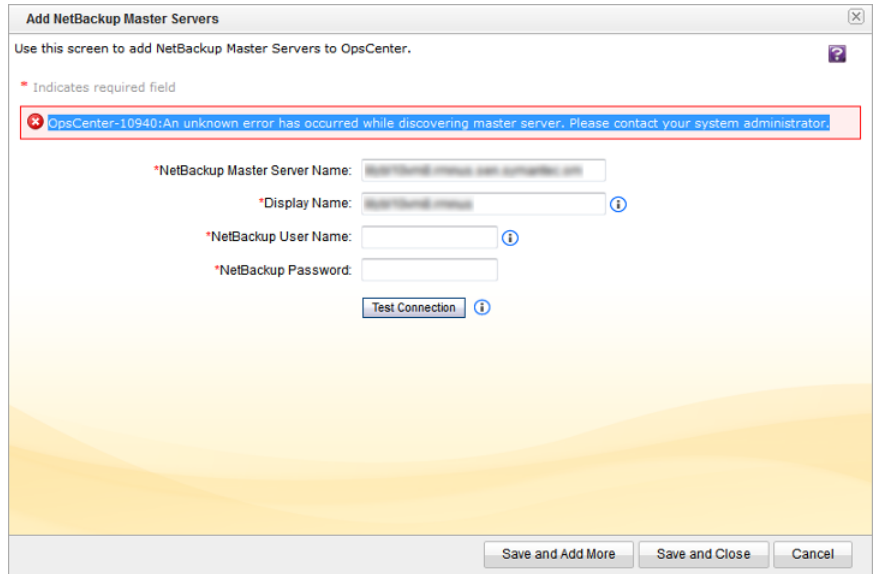
OpsCenter 7.0.x から OpsCenter 7.x にアップグレードする際に、[Installation Choice] 画面でシステムドライブの使用可能領域が表示されます。この問題は、前回のインストールが別のドライブ (システムドライブ以外のドライブ) の場合であって発生します。

OpsCenter は IPv6 のみのサーバーを監視できない

今回のリリースの NetBackup では、OpsCenter は IPv6 のみのサーバーを監視できません。監視対象の各サーバーには、利用可能な IPv4 アドレスが必要です。ただし、今回のリリースはデュアルスタックサーバーをサポートします。デュアルスタックサーバーでは、利用可能な IPv4 アドレスが使われます。

OpsCenter インターフェイスがマスターサーバーへの接続に失敗した後で不特定のエラーを返す

[開始 (Getting Started)] > [NetBackup マスターサーバーを追加 (Add NetBackup Master Servers)] で、指定したマスターサーバーに NetBackup OpsCenter サーバーが接続できない場合、OpsCenter は不明なエラーを返します。



正しい NetBackup マスターサーバー名を指定したこと、およびマスターサーバーがネットワークに接続されていることを確認します。

NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートに不正なデータが表示される

OpsCenter の NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートは、OpsCenter に 1 日以上ディスク プール サイズ データがないとき不正なデータを示す場合があります。

この問題は、レポートがディスクのプールサイズを毎日計算し、レポートで平均値を示すために発生します。選択されたレポートの対象期間にデータが不足している場合、不正な平均データが作成されます。

OpsCenter のレポートに仮想マシン用の IP アドレスが表示される

OpsCenter のレポートにはリストされているいくつかの仮想マシン (VM) の IP アドレスが表示されます。OpsCenter は、情報が利用可能の場合にそれぞれの仮想マシン名およびホスト名で IP アドレスのエイリアス処理を試みます。レポートにエイリアスが反映するには、OpsCenter サービスを再起動する必要があります。仮想マシン名およびホスト名が OpsCenter データベース内に存在していない場合、仮想マシンの IP はレポートに表示されます。

OpsCenter が Windows Server 2012 R2 で不正な OS レベルを表示する

NetBackup OpsCenter は Windows Server 2012 R2 マスターサーバーホストで不正なオペレーティングシステムを表示します。「Windows Server 2012 R2」の代わりに、OpsCenter は [設定] > [構成] > [NetBackup] 下の [オペレーティングシステム] 列で「Windows Server 2012」を表示します。

Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder から OpsCenter サーバーにアクセスする際の問題

OpsCenter データベースをホストしていない Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder を使用する場合は、データベース接続の問題が発生する場合があります。

この問題は次のいずれかのシナリオで発生します。

- OpsCenter サーバーのネットワーク名とホスト名が一致しないとき
- OpsCenter サーバーホストとリモート View Builder ホストが別々のドメインにあるとき

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. OpsCenter サーバーのホスト名を View Builder の `etc/hosts` ファイルに追加します。
2. View Builder のホスト名を OpsCenter サーバーの `etc/hosts` ファイルに追加します。

メモ: ホストの短縮名および完全修飾ドメイン名 (FQDN) を `etc/hosts` ファイルに追加します。

NetBackup OpsCenter での検索と保留のサポート終了

OpsCenter バージョン 7.7 にアップグレードすると、バックアップイメージの検索 (検索と保留関連) を実行できません。既存の保存済み検索と対応する結果は削除されます。OpsCenter は、バックアップイメージとメディアについて、特定の保留関連情報を引き続き表示します。OpsCenter から新しいリーガルホールドを作成することはできません。OpsCenter をバージョン 7.7 にアップグレードした後で、NetBackup マスターサーバーをバージョン 7.7 にアップグレードして、既存のリーガルホールドをユーザーの保留に変換します。その後で、`nbholdutil` コマンドを NetBackup 7.7 で使って、ユーザーの保留を管理できます。このコマンドについて詳しくは、『Symantec NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

OpsCenter のバージョン 7.7 のレポート用に、次の変更が実施されました。

- 検索と保留に関連する事前定義済みのレポートは削除されました。
- 保存済みカスタムレポートの検索のインデックスに関連する列で、正しくないデータが表示される可能性があります。そのようなレポートを編集してそれらの列を削除することを推奨します。
- カスタム SQL レポートの検索のインデックスに関連する列で、正しくないデータが表示される可能性があります。そのようなレポートを編集してそれらの列を削除することを推奨します。詳しくは、『Symantec NetBackup OpsCenter レポートガイド』を参照してください。

詳しくは、『Symantec NetBackup OpsCenter レポートガイド』を参照してください。

Solaris と UNIX クラスタで廃止されたサポート

NetBackup OpsCenter 7.7 では、Solaris と UNIX のクラスタはサポートされなくなりました。

サポート対象のソフトウェアとハードウェアの詳しいリストについては、NetBackup のマスター互換性リストを参照してください。 <https://www.netbackup.com/compatibility>

NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項

レプリケーションディレクタは NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットおよびスナップショットレプリケーションの実装であり、スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。レプリケーションディレクタは、メディアサーバーの OpenStorage プラグインを使用して、ディスクアレイと通信し (ストレージサーバーを介して)、データ移動を要求します。OpenStorage パートナーは、NetBackup とディスクアレイ間の通信を可能にするソフトウェアプラグインもホストします。このトピックでは、NetBackup 7.7 のレプリケーションディレクタとその関連プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NBUPlugin 1.1 で指定した時点へのリストア後に複製が失敗する

Replication Director のレプリケーションは、特定の時点へのリストアが実行された後に失敗することがあります。

この問題は、Replication Director に設定されているポリシーのレプリケーションジョブエラーに関連しています。この問題は、NBUPlugin 1.1 を次の状況で使用するときに発生します。

- 最初に、Replication Director ポリシーが正常に実行される。ポリシーはプライマリデータのスナップショット操作を含む SLP と、トポロジーのレプリケーション (SnapVault) 操作を使います。

- 次に、[より新しいスナップショットが破壊されても、強制的にロールバックする (Force rollback even if it destroys later snapshots)] オプションを有効にしてポリシーでボリュームからの 1 つ以上の特定時点 (PIT: Point-in-Time) へのリストアが正常に実行される。

レプリケーションジョブは次にポリシーが実行されるときに失敗します。DataFabric Manager サーバーは次のエラーメッセージを生成します。

```
DFM Job (On-demand Protection) is failing with Error base
snapshot for transfer no longer exists on the source.
```

(リストアで指定されたオプションが有効になっていた場合) PIT へのリストアによって基本スナップショットが削除されるため、レプリケーションジョブは失敗します。レプリケーション操作に複製する基本スナップショットがありませんでした。

正常なレプリケーションジョブに戻るには、NetApp CLI を使ってプライマリボリュームとターゲットボリューム間の関係を再同期化してください。

NBUPlugin 1.1 の複製がエラーコード 84 で失敗する

NBUPlugin 1.1 では、次の両条件に該当するとき、レプリケーションがエラーコード 84 (メディア書き込みエラー) の表示とともに失敗する場合があります。

- NetBackup のポリシーには (ストレージユニットグループとして NetBackup で設定された) 複数の DFM からのボリュームのバックアップ選択項目があります。
- SLP には端末増設機構のトポロジー (複数のレプリケーションが同じコピー元から発生) があります。次に、端末増設機構のトポロジーの例を示します。

```
Snapshot
|
----- Replication (SnapVault)
|
----- Replication (SnapMirror)
```

回避策は、端末増設機構のトポロジーがあつたら、単一の DFM のボリュームが存在するようにポリシーを設定してください (ポリシーを複数のポリシーに分割する)。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースのファイルを参照する際のデータベースシステムエラー

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] ユーザーインターフェースでファイルを参照するとき、次のエラーが報告されることがあります。

エラー、データベースのシステムエラーです

このメッセージは、サポートされていないファイルシステム、スナップショットのマウントの失敗、その他ハードウェアやネットワークの問題など、さまざまな問題を示すことがあります。

ログレベルが 4 以上に設定されているとインデックスログが肥大化する

インデックス付けジョブの結果として生成される `ncf1lbc` および `ncfnbhfr` のログのサイズは非常に大きい場合があります。ログファイルのサイズはログレベルが 4 以上に設定されていると、急速に増加する場合があります。

この問題を回避するために、NCF のログ記録レベルを (3 以下に) 下げることができます。また、高い NCF のログレベルに対応したい場合、ログファイルのロールオーバーのモード、最大ログファイルサイズ、またはログファイル数を調整できます。

vCenter 2.5 または ESX 3.5 以前を実行している仮想マシンで検出が失敗する

vCenter 2.5 または ESX 3.5 以前を実行している仮想マシンで、検出が失敗する場合があります。バージョン 4 以前の vCenter バージョンは公式にサポートされないことに注意してください。

[仮想ディスクの選択 (Virtual disk selection)] が [ブートディスクのエクスクルード (Exclude boot disk)] に設定されていても、ブートディスクでハードウェアスナップショットが生成される

ハードウェアのスナップショットはブートディスクで、[仮想ディスクの選択 (Virtual disk selection)] を [VMware] ポリシータブの [詳細 (Advanced)] オプションで [ブートディスクのエクスクルード (Exclude boot disk)] に設定している場合でも起こります。

このオプションはスナップショットからのバックアップ操作が実行され、スナップショットで VM の tar イメージが作成される場合のみ適用されます。

ストレージの読み込み速度が遅いと、NetBackup Accelerator を使った SLP でのバックアップが状態コード 13 で失敗する

ストレージの読み込み速度が遅いと、SLP で NetBackup Accelerator が有効になっているバックアップ操作が、状態コード 13 (ファイル読み込みの失敗) を表示して失敗する場合があります。この問題は、特に、NetBackup が 5 分間で少なくとも 500 MB のデータを読み込めない場合に発生します。

回避策: グローバルなクライアントのタイムアウト値をデフォルトの 5 分 (300 秒) より大きい値、たとえば 10 分 (600 秒) に調整してください。タイムアウト値は、NetBackup 管理コンソール ([ホストプロパティ (Host Properties)] > [タイムアウト (Timeouts)] > [クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)]) または `bp.conf` ファイル (`CLIENT_READ_TIMEOUT = 600`) で調整できます。

Oracle インテリジェントポリシーではインスタンスグループ名をローカライズできない

Oracle インテリジェントポリシーでは、インスタンスのグループ名はローカライズすることができません。

VSS ではボリューム GUID がサポートされない

VSS では、ボリューム GUID はサポートされません。

代替クライアントを設定しているポリシーの場合は、アクティビティモニターで表示されるスナップショットジョブのキロバイト値が正しくないことがある

代替クライアントの設定を使用しているポリシーで、アクティビティモニターがスナップショットジョブの [キロバイト (Kilobytes)] 列で間違った値を示すことがあります。

Linux で、NFS マウントのスナップショットが状態コード 20 で失敗する

NFS マウントのスナップショットジョブが、NFS の再マウントエラーにより Linux で状態コード 20 を表示して失敗する場合があります。ただし、以降のスナップショットジョブの実行は成功することがあります。

問い合わせビルダーの [問い合わせのテスト (Test Query)] オプションで、バックアップジョブ用に選択されない VM が間違って表示される

VMware の Replication Director は問い合わせ (ポリシーの [問い合わせを使用して自動的に選択 (Select automatically through query)] オプション) に基づいて VM を自動選択します。ポリシーのクエリービルダーでは、Replication Director がバックアップする VM を確認するための選択基準の事前テストとして [問い合わせのテスト (Test Query)] オプションを使用できます。

場合によっては、問い合わせのテストの結果でリストに表示される VM がバックアップを実行するときに選択された VM と同一ではないことがあります。VM が NFS のデータストアではなく、VMFS のデータストアに存在する場合、Replication Director はバックアップする VMFS の VM を選択しません。問い合わせのテストオプションが、VMFS の VM がバックアップに含まれていることを不正確に示すことがあります。(バックアップを実行するとき、ジョブの詳細が VM がハードウェア要件を満たしていないことを示します)

問い合わせのテストの結果を慎重に確認してください。NFS のデータストアの VM のみが Replication Director によってバックアップされることに注意してください。

NetApp Plug-in for NetBackup 1.0.1 が特定の状況下でクラッシュする

NetApp Plug-in for Symantec NetBackup バージョン 1.0.1 が、次の場合にクラッシュすることがあります。

- NDMP ストレージライフサイクルポリシーを実行しているとき
- ワークフローをエクスポート (インデックス付け、バックアップ、リストアまたは参照) しているとき
- コピー 2 または 3 (コピー 1 ではなく) をエクスポートしているとき

この問題を回避するには、この問題の修正が含まれる NetApp Plug-in for Symantec NetBackup の最新版にアップグレードしてください。

特定の状況下で、NetApp Plug-in for NetBackup 1.0.1 で複製に失敗することがある

NetApp Plug-in for Symantec NetBackup バージョン 1.0.1 を使っている場合に、複製エラーが発生することがあります。次の条件をすべて満たしている場合には、複製が失敗することがあります。

- 複数ボリュームがバックアップ選択項目に存在している
- 宛先が SnapMirror になっている
- ボリュームの少なくとも 60% がいっぱいになっている
- NAS ストレージが使用されている

次はエラーを示す場合があるいくつかの症状です。

- NetBackup のアクティビティモニター:

```
Replicate failed for backup id <backup id>
with status 174 failed waiting for child process (34)
```

- bpdm ログ。

```
Error bpdm (pid=19319) <async> wait failed:
error 2060001: one or more invalid arguments
```

- NetApp 管理コンソール。

```
destination volume too small; it must be equal to
or larger than the source volume
```

[プライマリ (Primary)] > [ミラートポロジー (Mirror Topology)] のポリシーのすべてのイメージを処理するときにスナップショットの漏えいが発生する

NetApp では、[プライマリ (Primary)] > [ミラートポロジー (Mirror Topology)] のポリシーを持つ [すべて (ALL)] のイメージを処理するときに問題があります。スナップショットが NetBackup のカタログからは削除され、ストレージからは削除されていない場合に、スナップショットの漏えいが発生する場合があります。

スナップショットを削除し、ストレージを再利用するには、DataFabric Manager (DFM) サーバーで次のコマンドを実行してください。

```
snapmirror release <src_vol><dst_filer>:<dst_vol>
```

Replication Director で作成された増分バックアップでエラーがスローされることがある: 指定した検索条件を使ってファイルのリストを取得できません (unable to obtain list of files using specified search criteria)

Replication Director で作成された増分バックアップからリストアするときに、次の警告が表示される場合があります。

```
Warning: unable to obtain list of files using specified search criteria.
```

バックアップするファイルに変更がない場合でも、NetBackup はバックアップポリシーで示される差分バックアップまたは累積増分バックアップを実行します。

前回のバックアップ以降にファイルの変更がないため、増分バックアップのイメージはファイルを含んでいません。ただし、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースでは、空の増分バックアップをアイコンによりユーザーに示します。ユーザーがアイコンを選択すると、メッセージが表示されます。イメージにアクセスするには、以前のバックアップのアイコンを選択してください。

VM とそのデータストアの名前が同一の場合は、バックアップ、アーカイブ、リストアクライアントインターフェースに 2 つの個別イメージが表示される

仮想マシンの Replication Director。

仮想マシンとそのデータストアの名前が同一の場合は、仮想マシンまたはそのファイルをリストアするために参照するときに、バックアップ、アーカイブ、リストアクライアントインターフェースに 2 つの個別イメージが表示されます。OST_FIM を持つイメージ形式のイメージは表示しないでください。仮想マシンに複数のデータストアがある場合、この OST_FIM イメージは仮想マシンに含まれるすべてのデータを示さないことがあります。OST_FIM イメージを使用しないでください。リストアする他のイメージを選択してください。

この問題は、NetBackup の将来のリリースで修正される予定です。

ストレージライフサイクルポリシーが仮想マシンのインデックス付けに設定されていない(またはインデックス付けが完了しない)場合は、BAR インターフェイスがスナップショットから直接ファイルにアクセスする

ストレージライフサイクルポリシー (SLP) が仮想マシンでインデックス付けするよう設定されていない場合 (またはインデックス付けが完全ではない場合)、BAR インターフェイスはスナップショットからファイルを直接参照します。ファイルを参照するとき、メッセージ、「エラー、データベースのシステムエラーです」が表示される場合があります。このメッセージは、サポートされていないファイルシステム、スナップショットのマウントの失敗、その他ハードウェアやネットワークの問題など、さまざまな問題を示すことがあります。

RHEL 5.3 オペレーティングシステムのスナップショットからのバックアップとリストアが、NetBackup 7.6 でサポートされないために適切に機能しない

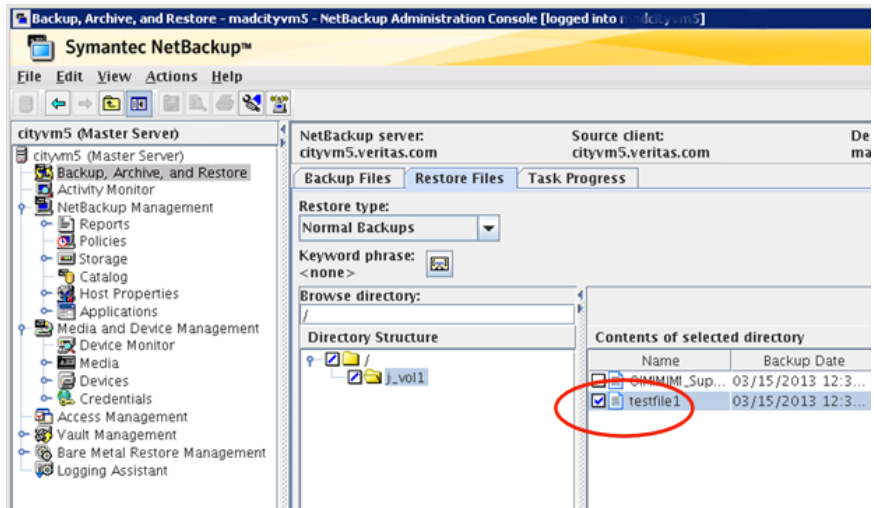
バックアップとリストアの問題はカーネルバージョン 2.6.18-128.el5 の RHEL 5.3 オペレーティングシステムに存在します。スナップショットからのバックアップおよびリストアは `kobject_add` プロセスに問題があるため、正しく機能しません。この問題は、NetBackup 7.6 がこのカーネルバージョンをサポートしないために起こります。このカーネルバージョンは RHEL 5.9 のリリースによりサポートされます。

詳しくは、『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』を参照してください。

ボリュームレベルでの別の差分バックアップを使ったリストアはデータ損失の原因になる

通常、差分バックアップから単一ファイルをリストアする場合、バックアップから選択したファイルだけがリストアされます。しかし、レプリケーションディレクタを使用する場合には、選択されたファイルだけでなく、バックアップに含まれる他のすべてのファイルもリストアされます。リストアは、差分バックアップが実行されてから変更のあったファイルを上書きするので、これがデータ損失の原因になります。

前回の差分バックアップ以降変更のあったファイルを意図せず上書きしないようにするには、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェイスでボリューム全体を選択しないようにします。リストアの必要があるファイルのみを選択するようにしてください。次の例では、`testfile1` がリストア対象として正しく選択されています。



qtree が DFM サーバーで更新されていない場合 SnapVault レプリケーションはデータ損失の原因になる場合がある

ボリュームに新しく追加された qtree は、ストレージライフサイクルポリシーが Snapshot-to-Replication (SnapVault) トポロジーを示している場合、レプリケーションディレクタポリシーによって保護されない場合があります。

レプリケーションディレクタポリシーの実行前に、DataFabric Manager サーバーインターフェースを使って、ボリューム上の新しい qtree が更新されていることを確認します。ボリューム上の新しい qtree は、NetApp DFM サーバーの制限により、頻繁には更新されません。

レプリケーションディレクタポリシーはインシデントなしで実行できますが、NetBackup の [バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースで参照するとき、SnapVault レプリカに qtree が含まれない可能性があります。

詳しくは、NetApp Plug-in 1.1 for Symantec NetBackup を参照してください。

https://library.netapp.com/ecm/ecm_download_file/ECMP1140478

(NetApp サイトにアクセスするにはログオンする必要があります。)

Replication Director のポリシー検証が完了するのに時間がかかる

Replication Director のポリシー検証が完了するのに時間がかかる場合があります。この操作が完了するまでは、他の操作を実行できません。NetBackup 管理コンソールの新規インスタンスを開いて、他の操作を実行します。

耐性が高いネットワークの操作上の注意事項

この項では、NetBackup のこのリリースに含まれる耐性ネットワークに関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

- 耐性ネットワーク接続は、NetBackup クラスタ環境でサポートされません。

NetBackup 検索操作上の注意事項

NetBackup は、NetBackup のバックアップイメージに関連付けられたファイルシステムのメタデータにインデックスを付ける機構を備えています。バックアップイメージにインデックスを付けることにより、関連情報の検索が、簡単、強力、高速になります。

7.7 以降でサポートされない NetBackup Search 機能

リリース 7.7 以降では、NetBackup は NetBackup Search 機能をサポートしなくなりました。NetBackup 7.7 にアップグレードすると、NetBackup Search に関連する情報（バックアップイメージのインデックス処理を含む）は削除されます。アクティビティモニターの古いインデックス付けジョブは引き続き参照できます。ホールド機能と既存のホールドは保持されます。

Symantec はインデックスサーバーから NetBackup 検索機能ソフトウェアをアンインストールすることを推奨します。

OpsCenter を 7.7 にアップグレードするときにリーガルホールドはユーザーホールドに変換されるので、nbholdutil コマンドを使って管理できます。リーガルホールドが既存のユーザーホールドと同じ名前の場合は、競合を避けるためにすべてのホールド名を変更します。保留名の変換と保留の管理について詳しくは、『Symantec NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジーに依存します。この項では、NetBackup 7.7 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

レガシー処理のログの詳細が以前のリリースでのものよりも少ない

NetBackup 7.7 では、レガシー処理のログの詳細は、以前のリリースでのものよりも少なくなります。NetBackup 7.7 のデフォルトのログ記録レベルは最小のログ記録レベルであ

る0です。以前のリリースで表示されたのと同レベルの詳細度をリストアするには、ログ記録レベルを0より高く設定してください。この問題は統合ログ記録の処理に影響しません。

FlashBackup は Storage Foundation 6 以降のボリュームマネージャでサポートされない

FlashBackup は、現時点では Storage Foundation 6 以降のボリュームマネージャでサポートされません。

特定の選択内容で設定される[標準 (Standard)]ポリシーにより Policy Execution Manager がクラッシュし、アサーション失敗でコアダンプが生成される

次の選択によって設定される[標準 (Standard)]ポリシーにより、NetBackup Policy Execution Manager (nbpem) がクラッシュし、アサーション失敗でコアダンプが生成されます。

```
Policy storage = lifecycle policy with only a Snapshot target
Perform snapshot backups
Retain snapshot for Instant Recovery or SLP management
Perform off-host backup
Use: Data Mover
Machine: Network Attached Storage
Options: Snapshot method for this policy = NAS_Snapshot
```

この設定は通常はサポートされますが、推奨されません。SLP はスナップショットでそれ以上の操作を実行しないため、この設定での利点はありません。NDMP によって生成された NAS スナップショットは SLP で TAR イメージに変換することができません。

この問題を回避するため、ポリシーストレージを実際のストレージユニットに設定することを推奨します。

アレイ上の VxVM ディスクグループに VxVM ボリュームのソフトウェアベースのスナップショットが含まれていると、ディスクアレイのスナップショットを作成できない

NetBackup では、アレイの VxVM ディスクグループに VxVM ボリュームのソフトウェアベースのスナップショットが含まれている場合に、ディスクアレイのスナップショットを作成できません。

ディスクアレイ上の VxVM ボリュームのソフトウェアベースのスナップショット (VxVM 方式など) が既に存在する場合には、NetBackup は、VxVM ボリューム上で構成されるファイルシステムのディスクアレイスナップショットを作成できません。スナップショットの作成

が失敗し(最終状態 156)、vxmake コマンドのエラーを報告するメッセージが bpfis ログに記録されます。

ディスクアレイのスナップショット方式でバックアップを実行する前に、VxVM ディスクグループから既存の VxVM スナップショットを削除する必要があります。

ディスクアレイのスナップショット方式の例には、EMC_CLARiiON_SnapView_Snapshot、HP_EVA_Snapshot、Hitachi_CopyOnWrite、IBM_StorageManager_FlashCopy があります。すべてのディスクアレイ方式については、『Symantec NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』のディスクアレイ用のスナップショット方式の構成に関する章を参照してください。

複数ストリームのポリシーバックアップが見つからないファイルが原因で失敗する

スナップショットバックアップを使っているときに、複数ストリームポリシーバックアップが、見つからないファイルが原因でエラーコード 71 または 227 で失敗する場合には、指定した[ジョブの再試行の遅延 (Job Retry Delay)]期間に見つからなかったファイルが利用可能になっても、以降の再試行でそれらのファイルを検出しません。

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も保護できます。このトピックでは、NetBackup 7.7 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 7.7 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

VMware の Web クライアントは SAN のリストアを許可しません

VDDK (Virtual Disk Development Kit) の 6.0 リリースは、SAN のバックアップとリストアの問題と BIOS UUID の問題を紹介しました。SAN トランスポートモードで、VDDK 6.0 は要求された仮想マシンを BIOS UUID のバックアップによって見つけようとしていました。『Virtual Disk Development Kit 6.0 Release Notes』の「SAN mode VDDK 6.0 searches for virtual machines by BIOS UUID」を参照してください。

<https://www.vmware.com/support/developer/vddk/vddk-600-releasenotes.html>

この VDDK 6.0 の問題によるデータ損失を防ぐために、NetBackup 7.7 は次のすべての条件を満たすバックアップとリストアジョブを失敗します。

- SAN トランスポートモードのみを使います。
- 重複 BIOS UUID がある VM を対象にします。
- BIOS UUID をリストアします。

NetBackup 7.7 は、複数のトランスポートモードが選択されているこの状況で、オプションとして SAN トランスポートモードも削除します。

vCloud Director キーワードが適切なコンピュータを選択しない

クエリービルダーを使って自動的に vCloud Director で VM を選択するポリシーでは、vCDIsExpired キーワードは予測どおりに動作しません。vCDIsExpired キーワードは期限が切れた VM を正しく選択します。ただし、実行時のリースの設定を「期限切れにならない」に設定している vApp の VM も選択します。この問題は、将来のリリースで修正される予定です。

Hotadd または SAN のリストアはバックアップイメージディスクのジオメトリが VM のデフォルト値と異なると失敗する場合がある

hotadd トランスポートモードまたは SAN トランスポートモードにおける VM のリストアは、バックアップイメージの VM ディスクのジオメトリが VM のデフォルト値と異なる場合に失敗することがあります。VM ディスクジオメトリは、vmdk ファイルで指定される仮想ディスクのレイアウト (シリンダ、ヘッド、セクタ) を参照します。

NetBackup のリストアジョブは、状態コード 1 ([要求された操作は部分的に成功しました (the requested operation was partially successful)]) で部分的な成功を報告します。この問題とその有効な回避策について詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH210611>

メモ: リストアされた VM が起動しないことがあります。VMware 社は、VDDK 5.1 リリースノートの既知の問題と回避策の「HotAdd および SAN トランスポートでは、メタデータの書き込みはサポートされません」でこの問題の原因を説明しています。

<http://www.vmware.com/support/developer/vddk/VDDK-510-ReleaseNotes.html>

仮想マシンのリストアが状態コード 220 (データベースシステムのエラー) で失敗する

仮想マシンのリストアは、バックアップに関する次のすべてが当てはまる場合、状態コード 220 (データベースシステムエラー) で失敗する場合があります。

- バックアップが増分スケジュールから実行され、ポリシーの **VMware** タブで **[Block Level Incremental (BLI) バックアップを有効にする (Enable block-level incremental backup)]** が有効になっている。
- ポリシーの **VMware** タブで **[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]** が無効になっている。
- 増分バックアップ時、**VM** のデータが以前のバックアップから変更されていない。

この問題を回避するには、増分イメージよりも完全イメージからリストアします。完全バックアップより後にデータの変更がないので、完全イメージからのリストアは増分バックアップからのリストアとまったく同じになります。

サポート外の vSphere VM の設定

高可用性 (HA) を実現する次の **VMware** 設定は、**HA** 設定で **F5** ロードバランサ (または他の負荷分散ソフトウェア) の背後にシングルサインオンサーバーを備える **vSphere 5.1** の仮想マシンバックアップではサポートされません。

NetBackup が VM の名前の大文字と小文字を区別する

VMware vSphere では、仮想マシン (VM) の表示名、リソースプール名、**vApp** 名の大文字と小文字を区別します。たとえば、**vm1** は **VM1** という名前の仮想マシンとは異なる仮想マシンです。バージョン **7.5** 以前の **NetBackup** は、問い合わせでバックアップ用の仮想マシンを自動的に選択するときには大文字と小文字を区別しません。**VM1** と **vm1** は同じ仮想マシンであると見なされます。

バージョン **7.6** 以降では、**NetBackup** は **VM** の表示名、リソースプール名、**vApp** 名の大文字と小文字を認識します。問い合わせによる自動選択を使うバックアップポリシーは大文字と小文字を区別するようになりました。同じことが、バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースの新しい仮想クライアントの検索機能にも当てはまります。**vm1** は **VM1** とは別の仮想マシンとして識別されます。

メモ: **NetBackup 7.6** 以降にアップグレードするときに、問い合わせで仮想マシンを識別するポリシーがバックアップ用仮想マシンの異なるセットを選択する場合があります。大文字と小文字を区別する新しい動作を反映するために、ポリシー問い合わせルールを編集する必要がある場合もあります。

Windows ダイナミックディスクを使用している VMware VM の場合、Windows リストアホストと hotadd トランスポートモードでは、増分バックアップからのリストアが失敗する

hotadd 転送モードによる Windows 仮想マシンのリストアは、以下の場合に失敗することがあります。

- ダイナミックディスクグループがある Windows 仮想マシンのバックアップが実行された。
- バックアップ後に、仮想マシンのディスクグループに別のダイナミックディスクが追加された。
- ダイナミックディスクを追加した後に、仮想マシンの増分バックアップが実行された。
- Windows リストアホストを hotadd トランスポートモードで使用して、増分バックアップから仮想マシンをリストアした。

詳細と回避策については、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH224707>

リストアされた仮想マシンが起動できない、またはファイルシステムにアクセスできない

次の場合、リストアされた仮想マシンが起動できない、またはファイルシステムにアクセスできない可能性があります。

- 仮想マシンのゲストオペレーティングシステムが Windows 8
- 仮想マシンが Block Level Incremental のバックアップイメージからリストアされている
- リストアが hotadd トランスポートモードを使用している

VDDK 5.5.x の VMware の問題により、リストアした仮想マシンの Windows NTFS マスターファイル表が破損している可能性があります。

回避策として、hotadd 以外のトランスポートモードで仮想マシンをリストアしてください。

VVol データストア上の 2 TB VMDK の hotadd トランスポートバックアップが失敗する

次の場合には、VMware Virtual Machine Disk (vmdk) のバックアップが失敗します。

- vmdk のサイズが 2 TB を超える。
- vmdk が VMware vSphere VVol (Virtual Volumes) データストアに存在する。
- 転送方法が hotadd である。

NetBackup ソフトウェアは、これらの条件で正しく機能します。この問題について VMware 社のサポート担当者に連絡することを推奨します。

VVol データストア上の 2 TB を超える vmdk をバックアップするには、NBD 転送または NBDSSL 転送を使います。

この問題が発生した場合は、次のようなエラーがバックアップジョブの[ジョブの詳細 (Job Details)]に表示されることがあります。

```
Error bpbrm (pid=xxxx) from client <hostname>: ERR - Error opening
the snapshot disks using given transport mode: hhotadd Status 23
Critical bpbrm (pid=xxxx) from client <hostname>: FTL - cleanup()
failed, status 6
Error bptm (pid=xxxx) media manager terminated by parent process
```

累積増分バックアップからの vmdk の hotadd リストア後に圧縮ドライブにアクセスできない

NetBackup の累積増分バックアップから VMware Virtual Machine Disk (vmdk) の hotadd リストアを実行した後に、vmdk のファイルシステムが破損することがあります。

NetBackup ソフトウェアは、これらの条件で正しく機能します。この問題について VMware 社のサポート担当者に連絡することを推奨します。

復元後にファイルシステムが破損することを回避するには、別の転送方法 (NBD、NBDSSL、SAN) のいずれかを使います。

この問題が発生した場合は、次のようなエラーがリストアジョブの[ジョブの詳細 (Job Details)]に表示されることがあります。

```
Error bpbrm (pid=<xxxx>) from client <hostname>:
ERR - Error opening the snapshot disks using given transport
mode: hotadd Status 23
Error bptm (pid=<xxxx>) cannot write data to socket, 10054
Info bptm (pid=<xxxx>) EXITING with status 24 <-----
Info tar32 (pid=<xxxx>) done. status: 24: socket write failed
Error bpbrm (pid=<xxxx>) client restore EXIT STATUS 24: socket
write failed
```

BIOS UUID が重複している VM の SAN バックアップとリストアがベータ 2 でサポートされない

BIOS UUID が重複している VM の SAN バックアップとリストアが、ベータ 2 リリースではサポートされません。

BIOS UUID が重複している VM の SAN バックアップとリストアについて詳しくは、VMware 社が提供する Virtual Disk Development Kit 6.0 のリリースノートの既知の問題と回避策

で、VDDK 6.0 が BIOS UUID によって仮想マシンを検索する問題 (「VDDK 6.0 searches for virtual machines by BIOS UUID」)に関する説明を参照してください。

<https://www.vmware.com/support/developer/vddk/vddk-600-releasenotes.html>

VMware vSphere Web Client プラグインを使う仮想マシンのリカバリを監視画面から開始すると失敗する場合がある

正常なバックアップイベントを右クリックして NetBackup vSphere Web Client でリカバリ操作を開始すると、次のエラーが起きて操作に失敗する場合があります。

```
NetBackup master server <master server name> not found in the list  
of added master server.
```

. この問題は、vSphere プラグインの [Monitoring] ページのバックアップイベントに短い名前や FQDN (完全修飾ドメイン名) ではないマスターサーバー名が含まれる場合に起きます。

回避策:

- 1 手動で仮想マシンとイメージを選択してリカバリウィザードでリカバリ操作を開始します。
- 2 バックアップイベントを右クリックしてバックアップイメージをリカバリする場合は、既存のマスターサーバー名をリストから削除して短い名前でもマスターサーバー名を再度追加します。この変更は、vSphere プラグインの [Register Master Server] オプションを使って行ないます。

仮想マシンの表示名にピリオド(.)が含まれると、スタンドアロンの ESXi 6.0 ホストに VM をリストアできない

VM の表示名にピリオド (.) が含まれると、スタンドアロンの ESXi 6.0 ホストに VM をリストアできないことがあります。リストアジョブは NetBackup の状態 2820 を報告し、アクティビティモニタージョブの詳細に次のようなメッセージが表示されます。

```
05/19/2015 10:56:30 - Info bpVMutil (pid=6884) INF - vmwareLogger: WaitForTas  
05/19/2015 10:56:30 - Info bpVMutil (pid=6884) INF - vmwareLogger: WaitForTas  
05/19/2015 10:56:30 - Info bpVMutil (pid=6884) INF - vmwareLogger: CreateVm:  
05/19/2015 10:56:30 - Info bpVMutil (pid=6884) INF - vmwareLogger: CreateVirt  
05/19/2015 10:56:30 - end Restore; elapsed time 0:00:17  
NetBackup VMware policy restore error (2820)
```

ESXi サーバーの [タスク (Task)] リストに、「仮想マシンの作成」タスクが「ファイルはすでに存在します」という状態で失敗したことが示されます。

回避策として、ピリオド (.) を含まない表示名で VM をリストアします。

メモ: この問題は、VM をスタンドアロンの ESXi 6.0 サーバーにリストアするときのみ起きます。VM を vCenter サーバーでリストアする場合には起きません。

NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項

NetBackup for Hyper-V では、さまざまなバージョンの Windows サーバー上で動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップを提供します。このトピックでは、NetBackup 7.7 の NetBackup for Hyper-V に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] オプションにおける.vhd または .vhdx の名前の文字制限

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] オプションを含む Hyper-V ポリシーの場合は、vhd 名や vhdx 名に非 ASCII 文字を使うことはできません。非 ASCII 文字には、たとえば日本語や漢字 (マルチバイト) があります。vhd または vhdx 名に非 ASCII 文字が含まれていると、バックアップジョブは完了しますが、VM のファイルを個別にバックアップからリストアすることはできません。

代わりに、VM 全体をリストアできます。

Microsoft SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) コンソール用 NetBackup アドインの操作上の注意事項

Microsoft SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) コンソール用 NetBackup アドインを使用すると、NetBackup バックアップイメージから仮想マシンをリカバリできます。この項では、NetBackup 7.7 の Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

リカバリウィザードの[次へ (Next)]ボタンが、必要な入力が入力されなくても有効になる

SCVMM 用 NetBackup アドインのリカバリウィザードでは、[次へ (Next)]ボタンは必要な入力が入力されなくても有効になります。次のような場合、SCVMM 用 NetBackup アドインのリカバリウィザードは、完了前に[次へ (Next)]ボタンを有効にします。

- アドインの[マスターサーバーの管理 (Manage Master Servers)]画面で、無効なマスターサーバー用に認証トークンが追加されました。例: トークンは既存のマスターサーバー用に生成されましたが、[マスターサーバーの管理 (Manage Master Servers)]画面でサーバー名が不正確に入力されました。

- 第 2 マスターサーバーとその認証トークンが追加され、マスターサーバ名が正しく入りました。

ウィザードの[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)]画面で第 2 マスターサーバーを選択するときに、VM 識別子を選択しないで[次へ (Next)]をクリックできます。このウィザードでは各画面の入力を完了しないで画面から画面に進むことができます。必要な入力をしないで続行した場合には、ウィザードの最後の画面の[リカバリ (Recovery)]ボタンは灰色になります。

メモ: ウィザードの[次へ (Next)]ボタンは各画面の入力が完了するまで灰色のままになります。

リストアを実行するには、ウィザードを戻って必要な入力を行います。無効なマスターサーバーも削除してください。

[VM 識別子 (VM Identifier)]フィールドが誤って[表示名 (Display Name)]としてラベル付けされる

アドインのリカバリウィザードの[リストアオプション (Restore Options)]画面に表示される、[表示名 (Display Name)]フィールドのラベルは、[VM 識別子 (VM Identifier)]となるべきものです。

仮想マシンの表示名の空白文字が SCVMM のリカバリウィザードで %20 として表示される

アドインのリカバリウィザードの[設定の見直し (Review Settings)]画面では、仮想マシンの表示名に含まれる空白文字が %20 として表示されます。

SCVMM 用 NetBackup アドインのリカバリウィザードで VM の上書きが求められずに、リカバリが失敗する

Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインが、次の状況で VM のリカバリを完了しません。

- アドインのリカバリウィザードの仮想マシンの選択の画面で、VM がその表示名ではなく、GUID またはホスト名で識別される。
- ウィザードの[リストアオプション (Restore Options)]画面で、既存の仮想マシンの上書きオプションが選択されていない。
- リカバリ先に同じ VM が存在する。

[リカバリ (Recover)]をクリックしたときに、ウィザードは、リカバリ先の VM を検出し、次に上書きオプションを選択するようにメッセージを表示するはずですが、プロンプトが表示されず、リカバリジョブを開始しても状態 2821 で失敗します。

VM をリカバリするために、[リストアオプション (Restore Options)] 画面で [既存の仮想マシンの上書き (Overwrite existing virtual machine)] を選択してリカバリを再実行します。

SCVMM Rollup 5 と 6 で、Hyper-V サーバー上の代替の場所に VM をリストアできない

Microsoft SCVMM 用 NetBackup アドインは、VM の元の場所や代替の場所へのリストアをサポートします。アドインは Rollups 1 から 6 を含む System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager をサポートします。ただし、SCVMM のバージョンが Rollup 5 または 6 の場合には、アドインは対象の Hyper-V サーバーの代替の場所に VM をリストアできません。[参照 (Browse)] をクリックしてアドインの [リストアオプション (Restore Options)] 画面でリストアの場所を指定するときには、次のメッセージが表示されます。

```
Exception has been thrown by the target of an invocation.
```

NetBackup 管理者は NetBackup の [バックアップ、アーカイブ、およびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースを使って代替の場所に VM をリストアできます。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Symantec Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

Symantec Operations Readiness Tools について

Symantec Operations Readiness Tools (SORT) は、シマンテックエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のように多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor

このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な **Hotfix** が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート
このツールを使うと、システムとシマンテックエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)
このツールを使用すると、シマンテック社が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を取得できます。さらに、シマンテック社が置き換えを行わずに廃止する項目についても情報を提供します。これらの項目のいくつかには **NetBackup** の特定の機能、他社製品の統合、シマンテック製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- インデックスでトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

新規の **NetBackup** ユーザーは、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-1

手順	詳細
SORT Web ページに SymAccount プロファイルを作成します。	p.117 の「 SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.117 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.118 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.119 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。

SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 右上の角で、[登録 (Register)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email 電子メールアドレスを入力し、検証してください
address)

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)]ウィジェットを見つけます。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。**NetBackup** では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.symantec.com/>

2 [SORT]>[NetBackup の SORT (SORT for NetBackup)]を選択します。

3 [データコレクタを使ったカスタムレポート (Custom Reports Using Data Collectors)]で、[データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。ツールは管理者または root アカウントで開始することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.symantec.com/>
- 2 [SORT]>[NetBackup の SORT (SORT for NetBackup)]を選択します。
- 3 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。
- 4 [データコレクタを使ったカスタムレポート (Custom Reports Using Data Collectors)]で、[データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 5 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。

6 ./sortdc を実行します。

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。

7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。

8 メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。

9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。

10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。

12 インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。

14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。シマンテック社はフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

現在の NetBackup ユーザーは、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-2

手順	詳細
SORT Web ページに SymAccount プロファイルを作成します。	p.117 の「 SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.118 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.119 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.121 の「 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法 」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.121 の「 Hotfix と EEB の情報を確認する方法 」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけます。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]をクリックします。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけます。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

- 4 [検索 (Search)]をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

NetBackup のリリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のリリース内容について](#)

NetBackup のリリース内容について

NetBackup の各リリースには、NetBackup の旧バージョンに関わる複数の既知の問題に対する修正が組み込まれます。これらの修正のいくつかは Titan または [Salesforce.com \(SFDC\)](#) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。各リリースに組み込まれた顧客関連の修正の一部は、Emergency Engineering Binaries (EEB) としても使用できるようになりました。

NetBackup 7.7 で修正された既知の問題を示す Etrack および EEB のリストは、NetBackup Hot Fix と EEB Release Auditor ウィジェットを使って、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトおよび、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.115 の『[Symantec Operations Readiness Tools について](#)』を参照してください。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 7.7 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示の詳細については、『NetBackup スタートガイド』と『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

p.35 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 7.7 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、`/usr/openv/db/data` (UNIX) または
`<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含む

ファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納の詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- マスターサーバーとメディアサーバーでは、**NetBackup** を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を **8000** にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Symantec のサポート Web サイトの次の **TechNote** を参照してください。
<http://www.symantec.com/docs/TECH168846>
- **Windows 2008/Vista/2008 R2/7** の **UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、**UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールできません。
管理者グループのユーザーが **NetBackup** をインストールできるようにするには、**UAC** を無効化します。
- **NetBackup** のマスターサーバーとメディアサーバーは、起動時および **24** 時間ごとに **NetBackup** サーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは **vmd** サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- メディアサーバーのアップグレードの実行中は、マスターサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは **gzip** を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには **gunzip** と **gzip** が必要なので、**NetBackup** をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。**HP-UX** を除くすべての **UNIX** プラットフォームでは、バイナリは **/bin** または **/usr/bin** に存在し、このディレクトリが **root** ユーザーの **PATH** 変数に含まれていると想定されています。**HP-UX** システムでは、**gzip** コマンドおよび **gunzip** コマンドは **/usr/contrib/bin** に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、**PATH** 変数にこのディレクトリが追加されます。**UNIX** でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup の互換性リストにリストされるオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Symantec 社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 C-1 に、NetBackup 7.7 で必要な OS 更新とパッチを示します。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 7.7 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必要な OS パッチ情報は、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトで確認できます。

p.136 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.115 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

メモ: OS ベンダーは、表 C-1 にリストされているパッチよりも優先するまたはそれに置き換わる最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。この表と SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると見なしてください。表 C-1 にリストされている OS 更新、パッチ、パッチバンドルに優先するまたは置き換わるものは、特に指定していない限りサポートされます。個々の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

メモ: 表 C-1 にリストされている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールしてください。

表 C-1 NetBackup 7.7 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

オペレーティングシステムの 種類とバージョン	NetBackup の役 割	パッチ	注意事項
AIX 6.1	マスター、メディア、 クライアント	AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降で ある必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する 必要がある場合があります。
AIX 7.1	マスター、メディア、 クライアント	AIX 7.1 TL1 SP2 (7100-01-02-1150)	このパッチは NetBackup-Java 管理 コンソールが正しく機能するために必 要です。 https://www-304.ibm.com/support/ docview.wss?uid=isg1fixinfo134913
HP-UX	マスター、メディア、 クライアント	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をイ ンストールする場合、このパッチが必 要になります。
HP-UX IA-64	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	
HP-UX 11.31	メディア (Media)	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバ ンドル	このパッチバンドルは NetBackup メ ディアサーバーのサポートに必要で す。これは HP-UX March 2010 パッ チバンドルです。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Red Hat Enterprise Linux 6	マスター、メディア、クライアント	glibc-2.12-1.107 またはそれ以降	
Windows Vista x86 (32 ビット版)	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Vista x86-64	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-32	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 (SP2)	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。
Windows Server 2008 R2	マスター、メディア、クライアント	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状態で I/O パフォーマンスが低下する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB983544	レジストリハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

- シマンテック社は、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の Microsoft の更新をお勧めします。
 - Microsoft storport の Hotfix。この Hotfix は、Windows x86 および x64 の SP1 と SP2 の両方に適用されます (必須)。
<http://support.microsoft.com/?id=932755>
 - Microsoft マイクロコード信頼性更新。この Hotfix は、32 ビット版と 64 ビット版の Windows Server /Vista に適用されます (推奨)。
<http://support.microsoft.com/?kbid=936357>
 - Symantec AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
 - SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

NetBackup 7.7 のバイナリサイズ

表 C-2 には、NetBackup 7.7 マスターサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。この情報は、NetBackup 環境のすべてのデータを安全で効率的にバックアップおよびリストアするために十分な量のディスク領域がコンピュータに割り当てられているかどうかを判断する際に役立ちます。

メモ: 表 C-2 および表 C-3 は、サポートされているオペレーティングシステムのためのリストになっています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

p.115 の「Symantec Operations Readiness Tools について」を参照してください。

表 C-2 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPUアーキテクチャ	32ビットのクライアント	64ビットのクライアント	32ビットのサーバー	64ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER		2430MB		6750MB	
Canonical Ubuntu	x86-64		1548MB			
CentOS	x86-64		1548MB		4952MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Debian GNU/Linux	x86-64		1548MB			
FreeBSD	x86-64		300MB			
HP-UX	IA-64		2761MB		7525MB	
Mac OS X	x86-64		248MB			
Novell Open Enterprise Server	x86-64		1,540MB		4946MB	
OpenVMS	IA-64		128MB			表示されているサイズは、NetBackup 7.5 バイナリ用です。OpenVMS の NetBackup 7.7 バイナリは提供されません。
Oracle Linux	x86-64		1548MB		4952MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		1548MB		4952MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture		1175MB		2318MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Solaris	SPARC		1532MB		4789MB	
Solaris	x86-64		1593MB		4990MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		1,540MB		4946MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture		1095MB		2207MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows の場合	x86-32	750 MB				互換性のあるすべての Windows x86 プラットフォームが含まれます。

OS	CPUアーキテクチャ	32ビットのクライアント	64ビットのクライアント	32ビットのサーバー	64ビットのサーバー	注意事項
Windows の場合	x86-64		1050MB		2700MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は Windows に NetBackup をインストールする場合にも適用される場合があります。

- Windows システム上のデフォルトではない場所に NetBackup をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、表 C-2 にリストされている合計バイナリサイズの 40～50% になります。
- NetBackup サーバーを Windows クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、表 C-2 にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの 15～20% です。

NetBackup OpsCenter

表 C-3 には、NetBackup OpsCenter 7.7 と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の OpsCenter Agent、サーバー、および ViewBuilder のおよそのバイナリサイズが含まれます。

表 C-3 互換性のあるプラットフォームの NetBackup OpsCenter のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Oracle Linux	x86-64		713MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		713MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		713MB	
Windows Server	x86-64	245MB	643MB	201MB

NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン用ディスク容量要件は、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』および『Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインガイド』にそれぞれ載っています。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のリリース形式とバージョン番号について](#)
- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup のリリース形式とバージョン番号について

シマンテック社は、さまざまなレベルで **NetBackup** のリリースを提供することでお客様のニーズに対応する、というポリシーを順守しています。このトピックでは、各種のリリース形式と、それぞれの形式に関連付けられるバージョン番号付けスキームを定義します。

ソフトウェアおよびアプライアンス製品の **NetBackup** ファミリーは次のリリース形式とバージョン番号付けスキームを使います。

- メジャーリリースとは、リリースの最初になるものです。このリリース形式には、新機能、拡張機能、プラットフォームのサポート、最新の製品マニュアル一式が含まれます。
- マイナーリリースとはメジャーリリースに続く単一ドットのリリースで、たとえば **2.6** または **7.6** です。このリリース形式には、メジャーリリースと同じ要件の多くが含まれます。より小規模な新機能と拡張機能のセット、新しいプラットフォームのサポート、最新の製品マニュアル一式が含まれます。
- ソフトウェアのリリース更新とは、**2.6.1** または **7.6.1** のような二重ドットのリリースです。このリリース形式には、多くの製品修正プログラムとともに、いくつかの新機能と拡張機能が含まれることがあります。新機能や拡張機能に適用されるマニュアルのみが更新され、再発行されます。
- メンテナンスリリースとは、**2.6.0.2** または **7.6.0.2** のような三重ドットのリリースです。このリリース形式は主に、メジャーリリース、マイナーリリース、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発されたいくつかの修正プログラムで構成されます。また、

新機能、機能拡張、新しいプラットフォームのサポートが若干含まれることもあります。このリリース形式で提供されるマニュアルは **Readme** のテキストファイルと『**NetBackup** リリースノート』の新しいバージョンのみです。これらのファイルは両方とも **Symantec** サポート **Web** サイトからオンライン経由のみで入手できます。

NetBackup のバージョン間の互換性について

メモ: このトピックの説明はシマンテック社の標準の EOL (End of Life) ポリシーや EOSL (End of Support Life) ポリシーより優先されるものではありません。**NetBackup** のバージョンが EOSL (サポート終了) に達した場合、その製品バージョンのリリースはすべて、いかなる構成においてもサポートされなくなります。

シマンテック社は **NetBackup** の EOSL 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

<http://www.symantec.com/docs/TECH74757>

マスターサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる **NetBackup** を実行可能です。この旧バージョンのサポートによって、**NetBackup** サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

メジャーバージョン間の互換性のために、**NetBackup** の最新の利用可能なリリースは、1 つ前までのメジャーバージョンの **NetBackup** のリリースを実行するメディアサーバーやクライアントと互換性があります。ただし、この互換性は、1 つ前のメジャーバージョンが EOSL に達すると、あらゆる構成においてサポートされなくなります。

NetBackup 環境内のマスターサーバーのバージョンレベルは、同じ環境内のメディアサーバーやクライアントのバージョンレベルと同等以上である必要があります。ただし、**NetBackup** は、クライアントおよびメディアサーバーがマスターサーバーとは異なる三重ドットリリースを実行する環境に柔軟に対応します。たとえば、マスターサーバーで稼働中のバージョンが **7.6.0.2** である環境の、メディアサーバーまたはクライアントのバージョンを **7.6. GA** にアップグレードすることが可能です。シマンテック社は、**NetBackup** の全体の環境を最新のメンテナンス (三重ドット) リリースで最新に保つことをお勧めします。

p.132 の「**NetBackup** のリリース形式とバージョン番号について」を参照してください。

NetBackup では、メディアサーバーやクライアントが、親サーバーのバージョンより上のマイナーリリースバージョンやソフトウェアのリリース更新バージョンを実行するシナリオをサポートしません。たとえば、

- マスターサーバーがバージョン **7.6** の場合、メディアサーバーとクライアントは **7.6** より大きい単一ドットのバージョンレベル (**7.7** など) にはなりません。
- マスターサーバーがバージョン **7.6** の場合、メディアサーバーとクライアントは **7.6** より大きい二重ドットのバージョンレベル (**7.6.1** など) にはなりません。

- マスターサーバーがバージョン **7.6.1** の場合、メディアサーバーとクライアントは **7.6.1** より大きい二重ドットのバージョンレベルにはなりません。

表 D-1 に、現在の NetBackup の製品ラインでサポートされるさまざまな互換方式を示します。

表 D-1 NetBackup 製品ラインのリリース互換性

NetBackup マスターサーバー	NetBackup メディアサーバー	NetBackup クライアント
7.7	7.7	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x、7.6.1、7.6.1.x、7.7
7.7	7.6.1.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x、7.6.1、7.6.1.x
7.7	7.6.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x、7.6.1、7.6.1.x
7.7	7.6.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.7	7.6	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.7	7.5.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.7	7.5	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.7	7.1.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.7	7.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.7	7.0.1	7.0、7.0.1
7.7	7.0	7.0
7.6.1.x	7.6.1.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x、7.6.1、7.6.1.x
7.6.1.x	7.6.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x、7.6.1、7.6.1.x
7.6.1.x	7.6.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6.1.x	7.6	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6.1.x	7.5.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x

NetBackup マスターサーバー	NetBackup メディアサーバー	NetBackup クライアント
7.6.1.x	7.5	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6.1.x	7.1.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6.1.x	7.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6.1.x	7.0.1	7.0、7.0.1
7.6.1.x	7.0	7.0
7.6	7.6.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6	7.6	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6	7.5.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6	7.5	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6	7.1.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6	7.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6	7.0.1	7.0、7.0.1
7.6	7.0	7.0

メモ: NetBackup 6.x 製品ラインのサポートは、2012 年 10 月に終了しました。

p.138 の「[NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)」を参照してください。

その他の NetBackup の混在バージョンの互換性に関する注意事項

次のリストには、考慮する必要がある、互換性に関する追加の詳細情報が示されています。

- NetBackup カタログはマスターサーバー上に存在します。したがって、マスターサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディアサーバーが含まれている場合は、マスターサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。
- 個々のシステム上のすべての NetBackup コンポーネント (サーバー、クライアントおよびコンソール) は、同じバージョンである必要があります。

- 古いバージョンの NetBackup で作成されたバックアップイメージは、新しいバージョンを使用してリカバリできます。

NetBackup の互換性について詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

自動イメージレプリケーションの互換性について

NetBackup 7.7 では、自動イメージレプリケーションは 7.5.0.3 以上のバージョンを実行するサーバーでサポートされます。これ以前のバージョンでバージョン 7.6 からレプリケーションを受け入れるには、NetBackup 7.1 マスターサーバー用の EEB (Emergency Engineering Binary) が必要です。

自動イメージレプリケーションは 7.1.x.x と 7.5.x.x を実行する NetBackup サーバー間でサポートされます。ただし、例外が起きてカタログバックアップのレプリケーションに失敗する場合があります。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH191964>

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.115 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができているか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、シマンテック社はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にあるシマンテック社のサポート Web サイトで見つけることができます。

www.netbackup.com/compatibility

以下の項目では、利用可能な互換性リストのそれぞれについて説明します。

- 『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x OS Software Compatibility List』

このリストには、**NetBackup** マスターサーバーまたはメディアサーバーとの互換性を得るために必要なオペレーティングシステム (OS) のレベルとバージョンに関する情報が含まれています。**NetBackup** クライアントとの互換性を得るために必要な OS のレベルおよびバージョンについても示しています。記載されているオペレーティングシステムの先行モデルと後継モデルは、そのリリースと記載されているオペレーティングシステムにバイナリ互換性があるかぎり、問題なく動作します。

このリストでは次のような **NetBackup Enterprise** 機能の互換性情報を示します。

- **NetBackup Enterprise** のサーバーとクライアント
- **Bare Metal Restore (BMR)**
- **NetBackup アクセス制御 (NBAC)**
- ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP)
- **NetBackup OpsCenter**
- **NetBackup** の **SAN** メディアサーバーと **SAN** クライアント
- ファイバートランスポート (FT) メディアサーバー
- **NetBackup** メディアサーバー重複排除オプション
- ファイルシステムの互換性
- **NetBackup** 仮想システムの互換性
- **NetBackup Media Server Encryption Option (MSEO)**

プラットフォームまたは OS のバージョンに対して **NetBackup** で互換性を得るには、プラットフォームのベンダーがその製品をサポートする必要があります。**NetBackup** によって保持されているプラットフォーム互換性リストは、ベンダーがプラットフォームまたは OS のバージョンを追加または中止した場合に変更されることがあります。

- 『**NetBackup Enterprise Server and Server 7.x Hardware Compatibility List**』
このリストには、互換性のあるドライブ、ライブラリ、仮想テープデバイス、ロボット形式、ファイバーチャネル HBA、スイッチ、ルーター、ブリッジ、iSCSI 構成および暗号化デバイスに関する情報が含まれています。その他の互換性の情報は次のとおりです。
 - **NetBackup アプライアンス**
 - **AdvancedDisk アレイ**
 - **OpenStorage (OST) ソリューション**
 - テープドライブ
 - ファイバートランスポートメディアサーバーのホストバスアダプタ (HBA)
 - 仮想テープライブラリ (VTL)
 - ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) デバイス

- テープライブラリ
- 暗号化およびセキュリティソリューション
- 『NetBackup 7.x Database and Application Agent Compatibility List』
このリストには、特定のオペレーティングシステムと CPU アーキテクチャでサポートされるデータベースエージェントおよびアプリケーションエージェントの最新の互換性情報が含まれています。
- 『NetBackup 7.x Snapshot Client Compatibility List』
このリストには、アレイ、エージェント、オペレーティングシステム、VSS プロバイダでソートされた最新サーバーとクライアントのスナップショットの互換性情報が含まれます。
- 『NetBackup 7.x Cluster Compatibility List』
このリストには、特定のオペレーティングシステムと CPU アーキテクチャでサポートされるクラスタの種類とバージョンの最新の互換性情報が含まれています。
- 『Support for NetBackup 7.x in virtual environments』
このリストには仮想環境での NetBackup の最新の互換性情報が含まれます。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Symantec社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Symantec社は、今後もNetBackupシステムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

Symantec社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Symantec社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Symantec社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.symantec.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.symantec.com/eosl/show_matrix

p.115 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 7.7 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.17 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

p.136 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)
- [NetBackup リリースノートについて](#)
- [NetBackup 管理者ガイドについて](#)
- [NetBackup のインストールマニュアルについて](#)
- [NetBackup の構成マニュアルについて](#)
- [NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて](#)
- [その他の NetBackup のマニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

メモ: UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

Symantec は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。これらのドキュメントはリリース形式にした がって NetBackup の新しいバージョン向けに公開されています。

p.132 の「[NetBackup のリリース形式とバージョン番号について](#)」を参照してください。

特に指定のないかぎり、NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードできます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

メモ: Symantec は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

NetBackup リリースノートについて

NetBackup ソフトウェアには、次のリリースノートドキュメントが公開されています。

- **NetBackup リリースノート**
このマニュアルには、UNIX と Windows のプラットフォーム両方に対応する NetBackup の今回のリリースに関するさまざまな情報が含まれています。この情報には、新しい機能、プラットフォームの互換性の変更、パッチの必要条件、マニュアルの修正、既知の問題が含まれていますが、これらに限定されるものではありません。NetBackup のマニュアルやオンラインヘルプの他の場所で見つからない可能性がある操作上の注意事項も含まれています。
- **NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド**
次のドキュメントには、すでに特定、解決され、NetBackup ユーザーが Emergency Engineering Binary (EEB) の形式で利用可能になった既知の問題の一部が示されています。ここには、指定のリリースで修正されているが、EEB では修正されなかった可能性のある問題の一部が示されています。

NetBackup 管理者ガイドについて

次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**
このマニュアルでは、UNIX または Windows サーバー上で NetBackup を構成して管理する方法について説明します。このマニュアルでは、NetBackup インターフェースについてと、ホスト、ストレージデバイスとメディア、ストレージライフサイクルポリシー (SLP)、バックアップ、レプリケーション、監視と報告を構成する方法について説明します。
- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 2**
このマニュアルでは、NetBackup のための追加の構成とインターフェースオプションについて説明します。このマニュアルには、NetBackup ライセンスについての参照項目と情報も含まれています。

NetBackup オプションの管理について

NetBackup オプションの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup AdvancedDisk ストレージソリューションガイド**

このガイドでは、**NetBackup AdvancedDisk** ストレージオプションを構成、管理、トラブルシューティングする方法について説明します。**NetBackup** に公開されているディスクストレージをバックアップ用のファイルシステムとして使う方法について説明します。

- **NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド**
このガイドでは、サーバーのリカバリ処理を自動化して簡素化するために **NetBackup BMR (Bare Metal Restore)** ブートサーバーとクライアントのインストール、構成、管理を行う方法について説明します。
- **NetBackup クラウド管理者ガイド**
このガイドでは、**Symantec OpenStorage** を使ってクラウドの **STaaS (Storage as a Service)** ベンダーからデータのバックアップとリストアを行うために **NetBackup** を構成し、管理する方法について説明します。
- **NetBackup DataStore SDK プログラマガイド XBSA**
このガイドでは、**XBSA API** を設定して **NetBackup** と通信するアプリケーションのバックアップを作成したり、アプリケーションをアーカイブしたりするために使う方法について説明します。
- **NetBackup 重複排除ガイド**
このガイドでは、**NetBackup** メディアサーバー重複排除オプションを使って **NetBackup** 環境のデータ重複排除を計画、構成、移行、監視、管理する方法について説明します。
- **NetBackup ログリファレンスガイド**
このガイドでは、**NetBackup** 管理コンソールからレポートを実行する方法やログがシステムのどこに保存されているかなど、直面する問題をトラブルシューティングする場合に役立つ各種の **NetBackup** のログやレポートについて説明します。
- **ディスクの NetBackup OpenStorage のソリューションガイド**
このガイドでは、**NetBackup** でバックアップ用にインテリジェントディスクアプライアンスを構成し、使用する方法について説明します。
- **Symantec NetBackup for VMware 管理者ガイド**
このガイドでは、**VMware ESX** サーバーで動作する **VMware** 仮想マシンのオフホストバックアップのような機能を実行するために **NetBackup** を構成する方法について説明します。
- **NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client**
このガイドでは、**NetBackup** 用の **vSphere Web Client** プラグインをインストールしてトラブルシューティングする方法について説明します。**vSphere Web Client** プラグインを使うと、**vCenter** サーバーが管理する仮想マシンのバックアップの監視、バックアップからの仮想マシンのリカバリ、**VM** のバックアップ状態や関連メッセージの監視が可能です。
- **NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド**

このガイドでは、仮想マシンのバックアップを監視して仮想マシンをリストアするために **NetBackup vCenter** プラグインをインストールし、使用方法について説明します。

- **NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド**
このガイドでは、**Windows Hyper-V** サーバーで動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップポリシーを構成して管理する方法について説明します。
- **『NetBackup for NDMP 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』**
このガイドでは、**NAS (Network Attached Storage)** システムのバックアップとリストアを開始し、制御するために **NetBackup for NDMP (Network Data Management Protocol)** をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド**
このガイドでは、ファイバートランスポート方式を使ってクライアントバックアップを高速化するために **NetBackup SAN** クライアントの機能を設定、構成、管理する方法について説明します。
- **NetBackupAdd-in for Microsoft SCVMM Console ガイド**
このガイドでは、**NetBackup Add-in for SCVMM (System Center Virtual Machine Manager)** をインストールしてトラブルシューティングする方法や、**NetBackup** バックアップイメージから仮想マシンをリストアする場合にこのアドインを使う方法について説明します。
- **Symantec NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド**
このガイドでは、**VMware、Hyper-V、Replication Director** との統合などのさまざまなスナップショットベース機能を有効にするために **NetBackup Snapshot Client** をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』**
このガイドでは、**NetBackup OpenStorage** の管理対象スナップショットとスナップショットレプリケーションの実装方法について説明します。スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。
- **Symantec NetBackup Vault 管理者ガイド**
このガイドでは、オフサイトメディアストレージのためにバックアップイメージの選択と複製を自動化するように **NetBackup Vault** をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **Symantec NetBackup Vault 操作ガイド**
このガイドでは、**NetBackup Vault** を使って **2 つ** の主要な作業分野 (管理と操作) の一部としてメディアを **Vault** 処理する方法について説明します。説明する作業には、オフサイトにテープを送付し、サイトでテープを受け取り、オフサイトメディアと **Vault** ジョブでレポートを実行する手順が含まれます。
- **Symantec NetBackup OpsCenter 管理者ガイド**

このマニュアルでは、**NetBackup OpsCenter** ユーザーインターフェースを使って **NetBackup** とそのエージェントとオプションについてのレポート、監視、警告を提供する方法について説明します。

- **NetBackup OpsCenter レポートガイド**
このガイドでは、**NetBackup OpsCenter** を使って包括的なビジネスレベルのレポートを生成して使用し、データバックアップ操作やアーカイブ操作の有効性をトラッキングする方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter パフォーマンスチューニングガイド**
このパフォーマンスと調整のマニュアルは、**OpsCenter** のパフォーマンスを分析、評価、調整する管理者を対象にしています。このマニュアルは、**OpsCenter** が最大のパフォーマンスを実現するように調整する方法、バックアップ環境に応じて **OpsCenter** に採用するシステム構成、向上した **OpsCenter** のパフォーマンスにかなうベストプラクティスについてアドバイスすることを意図しています。

NetBackup データベースエージェントの管理について

NetBackup データベースエージェントの次の管理者ガイドが、**NetBackup** ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup for DB2 管理者ガイド**
このガイドでは、**NetBackup for DB2** データベースエージェントをインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド**
このガイドでは、**Symantec Enterprise Vault** の構成情報とアーカイブデータを保護するために **NetBackup for Enterprise Vault Agent** をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Informix 管理者ガイド**
このガイドでは、UNIX 版 **NetBackup** クライアント上で **Informix** データベースのバックアップとリストアを行うために **NetBackup for Informix** エージェントをインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド**
このガイドでは、**NetBackup** クライアントで **Lotus Notes** データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために **NetBackup for Lotus Notes** エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- 『**Symantec NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド**』
このガイドでは、**Microsoft Exchange Server** のオンラインバックアップとリストアを行うために **NetBackup for Exchange Server** エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド**

このガイドでは、Microsoft SQL Server データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Microsoft SQL Server エージェントを構成し、使用する方法について説明します。

- 『Symantec NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』
このガイドでは、Windows 版 NetBackup クライアント上の SharePoint データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SharePoint Server エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- NetBackup for Oracle 管理者ガイド
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Oracle データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Oracle エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- NetBackup for SAP 管理者ガイド
このガイドでは、NetBackup クライアント上の SAP データベースと SAP HANA データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SAP エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- NetBackup for Sybase 管理者ガイド
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Sybase データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Sybase エージェントを構成し、使用する方法について説明します。

NetBackup のインストールマニュアルについて

次のインストールマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- NetBackup アップグレードガイド
このマニュアルは、NetBackup ソフトウェアのアップグレードの計画と実施を支援します。このマニュアルは最新情報を提供するために定期的に更新されます。
- NetBackup インストールガイド
このマニュアルでは、UNIX や Windows のプラットフォームに NetBackup サーバー、クライアント、管理ソフトウェアをインストールする方法について説明します。
- NetBackup LiveUpdate ガイド
このマニュアルでは、環境内の NetBackup ソフトウェアリリースの配布に関するポリシーに基づいた方法を提供するための NetBackup LiveUpdate サーバーを設定する方法を説明します。

NetBackup の構成マニュアルについて

NetBackup オプションの次の構成ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup デバイス構成ガイド。**
このガイドでは、**NetBackup** サーバー用に使うストレージデバイスホストのオペレーティングシステムを設定し、構成する方法について説明します。

NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて

次のトラブルシューティングガイドが、**NetBackup** ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup トラブルシューティングガイド**
このガイドは、一般的なトラブルシューティングに関する情報を提供し、**NetBackup** 製品と機能のために使えるさまざまなトラブルシューティング方法を説明します。
- **NetBackup 状態コードリファレンスガイド**
このガイドには、**NetBackup**、**Media Manager**、デバイス構成、デバイス管理、ロボットエラーの状態コードの完全なリストが記載されています。各状態コードのリストには説明と推奨処置が含まれています。

その他の NetBackup のマニュアルについて

次のマニュアルが、**NetBackup** ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup コマンドリファレンスガイド**
このガイドには、**NetBackup** のマニュアルページのコマンドすべてを含む、UNIX システムと Windows システムで動作するコマンドについての詳細情報が含まれます。
- **NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド**
このガイドでは、クラスタで **NetBackup** マスターサーバーをインストールして構成する方法について説明します。
- **NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド**
このガイドでは高可用性環境で **NetBackup** を使う各種方式を説明し、単一障害点から **NetBackup** を保護するためのガイドラインを示します。
- **NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド**
このガイドでは、アクセス制御、強化された認可と認証、暗号化を使って **NetBackup** を保全する方法について説明します。
- **NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド**
このガイドでは、マスターサーバーとメディアサーバーのポート、クライアントポート、デフォルトポート、その他の **NetBackup** が使うポートを含む **NetBackup** ネットワークポートの参照情報を示します。
- **NetBackup スタートガイド**

このガイドでは、**NetBackup** のこのリリースと関連しているインストール前の情報についての概要を提供します。ガイドにはまた、**NetBackup** メディアキット、**NetBackup** 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ、**NetBackup** ライセンスキーの要件の説明も含まれます。

- **NetBackup** バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド
 このマニュアルでは、**NetBackup** の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。これらの手順には、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブ、リストアする方法も含まれます。
- **NetBackup** サードパーティの法的通知
 この文書には、**Symantec NetBackup** 製品と **OpsCenter** 製品に関係するサードパーティプログラム (適用される場合) の所有権通知とサードパーティプログラムのライセンスが含まれます。